

國立臺灣大學文學院日本語文學系

碩士論文

Department of Japanese Language and Literature

College of Liberal Arts

National Taiwan University

Master Thesis



中日同形同義二字漢語の品詞に関する一考察

—形容詞を中心に—

Investigation on the property of the two-character words with the same  
font and meaning in both Chinese and Japanese

—focus on the adjective—

林佳辰

Jia-Chen Lin

指導教授：林立萍 博士

Advisor: Li-Ping Lin, Ph.D.

中華民國 104 年 2 月

February, 2015

## 謝辭



一路走來，終於到了這一步。提起筆的此刻，內心感慨萬千。回想一年前的現在，甚至連題目都還不確定，隨著時間的逼近，開始茫然失措，壓力之大難以言喻。然而如今這本論文能夠完成，真的除了感謝還是感謝。感謝太多太多的人，感謝你們的愛與支持。

首先，最為感謝我的指導教授林立萍老師。從研究方向的確定，大綱架構的安排，到論文寫作的邏輯思考，感謝老師一步一步地引領著毫無概念的我，時而鞭策，時而鼓勵，讓我能完成這本碩論。除了學問方面，還教導我為人處事的道理，而更懂得去重新檢視自己。感謝老師的諄諄教誨，我明白了不論是論文還是人生，只有反省才能再進步。

同時，感謝兩位口試委員中澤信幸老師和蔡珮菁老師，在提案審查和口試時給予許多寶貴的意見，實為獲益良多。也感謝徐老師及慧君老師，關心鼓勵的話語帶來莫大力量。

要謝謝 R99 同學們的打氣扶持，特別是鈺盈在參考文獻方面協助我非常多。也十分感謝麵包和大嘎，在我六神無主時總是陪伴在身旁。更感謝美緒姐、理繪姐、友紀和辻同學幫忙修改日文，謝謝你們願意讀如此生澀難懂的內容。此外，還感謝系辦的大家，一直以來在各方面都受到諸多照顧。因為有你們的關懷與支持，才能有這本論文的誕生。

畫家雷諾瓦至死都沒有放棄他的畫筆，他說：「痛苦會過去，美會留下。」很慶幸自己當初也沒有選擇放棄，雖然過程中身心飽受煎熬，但現在回頭想一切都是值得。由衷感謝老師、朋友、及家人們，今後在人生的道路上我會更加努力。在此謹將這份論文獻給我的雙親林木富先生、劉秋樂女士，您的養育之恩感念在心不敢忘。

# 有關中日同形同義二字漢語的詞性考察

## —以形容詞為中心—



### 摘要

有關中日同形同義二字漢語，儘管在中文或在日文的語形和語義相同，而詞品卻不一致的情形並不罕見。先行研究中也指出：即便是高級程度的日語學習者，在漢語詞性的掌握上依舊會發生誤用的現象。在中文與日文當中存在著許多語形相同的漢語，對以中文為母語的日語學習者來說，在學習上的確是帶來很大的幫助，卻也不能否認容易受母語影響而產生誤用的可能性。

本研究為考察中日同形同義二字漢語在中日文裡的詞品，從『日本語能力試驗出題基準改訂版』(2002) 1·2 級語彙表中抽出中日同形同義二字漢語，再以字典及語料庫做為中日文詞品的考察基準，針對中文裡屬於形容詞的中日同形同義二字漢語，調查其轉換成日文後的詞品分布，並考察其類型特徵。

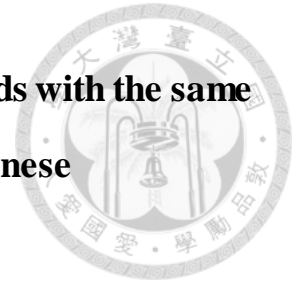
調查結果顯示，中文裡屬於形容詞的中日同形同義二字漢語在日文裡仍保持形容詞詞性的超過 8 成，其餘的約 1 成半轉變為形容詞以外的詞品。再者，詞品不一致的這 1 成半的漢語當中 轉變為 ㄉ 行變格動詞的這一類型漢語數量佔最多。從語義層面來看，可以得知屬於這一類型的大部分語彙都擁用“變化”這一項共同特徵。

透過本次考察得知，中日同形同義二字漢語中（中文裡屬於形容詞的部分）有超過 8 成的漢語在日文裡也含有形容詞的詞性。換言之，只要能掌握住詞性不一致的 1 成半，尤其是轉變成 ㄉ 行變格動詞的類型特徵，便能在日語學習上帶來很大的助益，也可說是本研究中重要的成果所在。

關鍵字：中日同形語、同形同義、二字漢語、詞性、形容詞

# **Investigation on the property of the two-character words with the same font and meaning in both Chinese and Japanese**

**--focus on the adjective--**



## **Abstracts**

For the 2-character words with the same font and meaning in Chinese and Japanese, in spite of the same font and meaning in both Chinese or Japanese, it is common that their property varies. In Chinese and Japanese, there are many words with the same font. For the Japanese learners whose mother tongue is Chinese, this is doubtlessly a great help. However, it cannot be denied that it is also possible for them to misuse such words due to the influence of their mother language.

This research investigated the word property conversion of the two-character words with the same font and meaning in Chinese and Japanese. Based on the Level 1 and 2 Vocabulary Table in Japanese Language Proficiency Test Question Generation Baseline, Revised Version (2002), we selected the two-character words with the same font and meaning in Chinese and Japanese. Then, with the investigation baseline in accordance with the dictionaries and corpus, as far as the two-character adjective with the same font and meaning in Chinese and Japanese are concerned, we made survey of their properties after they were converted to Japanese, and investigated the characteristics of the word property.

According to the research results, the two-character adjectives with the same font and meaning in Chinese and Japanese that remain adjective in Japanese amount up to 80%. As for the remaining 15% of such adjectives, they have already changed to the property other than adjective. In addition, regarding the 15% of the Chinese words with

different properties before and after converted to Japanese, those that have changed to the nominal verb occupy the most part. To view from the semantic level, it has been learned that most words in such type have the common characteristic of "change."

Through our investigation, it has been found that among the two-character words with the same font and meaning in both Chinese and Japanese (with the property of adjective in Chinese), over 80% of the Chinese words have the adjective property in Japanese. In other words, as long as we can control the 15% of those with inconsistent properties, especially the characteristics of the nominal verbs after conversion, is very helpful for us to learn Japanese, which is the important achievement in this research.

Keywords: the words with the same font in Chinese and Japanese; words with the same font and meaning; two-character Chinese; word property; adjective

# 中日同形同義二字漢語の品詞に関する一考察

## —形容詞を中心に—



### 要旨

中日同形同義二字漢語については、中国語と日本語において形も意味も同じであるが、品詞は一致しないということは珍しくない。先行研究では、学習時間の長い上級レベルの学習者にでも漢語の品詞の把握に誤りが生じる現象が存在すると指摘された。中国語と日本語は字形が同じである漢語が多いため、日本語学習者にとって大きな助けとなる反面、母国語の影響で日本語を中国語として理解し使用する誤りが生じる可能性もあると考えられよう。

本研究は中日両言語における中日同形同義二字漢語の品詞転換について考察するため、『日本語能力試験出題基準改訂版』（2002）1・2級の語彙表から中日同形同義二字漢語を抜き出し、さらに辞典及びコーパスを用いて中日両言語における品詞の考察基準とし、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語が日本語においてどの品詞に属するかという品詞対応の調査を行った。

調査結果により、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語が、日本語において形容詞の用法が見られないものは全体のおよそ1割強を占めており、その中ではサ変動詞になるタイプが最も多いことが示された。意味の観点から考察すると、殆どの語の意味には“変化”という共通の性質があると窺われた。

確かに中国語では形容詞に属し、日本語においても形容詞の用法が見られるものは8割強を占めている。そのため学習者にとって品詞の判断はそれほど問題にはならないということも示唆される。しかし、今回明らかになった形容詞の用法が見られない1割強、特にサ変動詞になるものを把握することは、今後日本語習得の上でさらなる助けになると言えるだろう。

キーワード：中日同形語、同形同義、二字漢語、品詞、形容詞

# 目次



謝辭 .....	I
中文要旨 .....	II
英文要旨 .....	III
日文要旨 .....	V
図目次 .....	VIII
表目次 .....	IX
<b>第一章 序論 .....</b>	<b>1</b>
1.1 研究動機 .....	1
1.2 研究対象 .....	2
1.3 研究目的・方法 .....	3
1.4 本研究の構成 .....	4
<b>第二章 先行研究 .....</b>	<b>6</b>
2.1 形容詞とは何か .....	6
2.1.1 中国語において .....	6
2.1.1.1 意味、語法特徴、分類 .....	7
2.1.1.2 判定方法 .....	10
2.1.2 日本語において .....	12
2.1.2.1 意味、機能、範疇 .....	12
2.1.2.2 判定方法 .....	16
2.1.3 まとめ .....	18
2.2 中日同形語に関する研究 .....	18
2.2.1 林姿里 (1982) .....	19
2.2.2 戚国福 (1999) .....	21

2.2.3	村木新次郎 (2009)	23
2.2.4	まとめ	26
2.3	まとめ	28
<b>第三章</b>	<b>調査概要</b>	<b>32</b>
3.1	中日同形同義二字漢語の抽出	32
3.2	品詞判定	34
3.2.1	中国語における同形同義語の品詞	34
3.2.2	日本語におけるウ類の同形同義語の品詞	37
3.3	対応傾向	38
<b>第四章</b>	<b>考察と分析</b>	<b>41</b>
4.1	日本語において形容詞の用法が見られるグループ	41
4.1.1	意味合い	41
4.1.2	「-な/-の」のゆれ	63
4.2	日本語において形容詞の用法が見られないグループ	68
4.3	まとめ	74
<b>第五章</b>	<b>終論</b>	<b>83</b>
5.1	結び	83
5.2	今後の課題	87
	<b>参考文献</b>	<b>90</b>
	<b>付録</b>	<b>94</b>





## 図目次



図 4-1 形容詞の用法が見られるグループにおける部門の所属及び占める割合 .....	79
図 5-1 中日同形同義二字漢語（中国語では形容詞である）の 日本語における 品詞対応の傾向 .....	86

## 表目次



表 2-1	中国語における形容詞と動詞の区別 .....	11
表 2-2	(Ⅲ)第三形容詞及び(V)規定用法のみの形容詞の判定基準 .....	16
表 2-3	(Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞の判定基準 .....	17
表 2-4	林姿里 (1982) 日中同形二字漢語の品詞転換表 .....	20
表 2-5	戚国福 (1999) 二字漢語動詞と同形の中国語の品詞対応 .....	22
表 2-6	戚国福 (1999) 二字漢語動詞と同形の中国語の品詞対応 [形容詞部分] .....	22
表 2-7	中国語の形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語 .....	24
表 2-8	林姿里 (1982)、戚国福 (1999)、村木新次郎 (2009) の比較 .....	27
表 2-9	本研究における中日の形容詞の比較 .....	29
表 3-1	本研究における中日同形二字漢語の分類結果 .....	34
表 3-2	中国語における<同形同義>語の品詞 .....	36
表 3-3	ウ類 (形容詞及び形容詞兼他品詞) の詳細 .....	36
表 3-4	日本語において形容詞に属する 151 語の品詞 .....	37
表 3-5	中日同形同義二字漢語形容詞と同形日本語の品詞対応 .....	38
表[A]-1	部門 1 [抽象的關係] (8 語) .....	43
表[A]-2	部門 3 [人間活動－精神及び行為] (14 語) .....	43
表[A]-3	部門 1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (1 語) .....	44
表[A]-4	部門 1/3/5 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] [自然物及び 自然現象] (1 語) .....	45
表[B]-1	部門 1 [抽象的關係] (12 語) .....	46
表[B]-2	部門 3 [人間活動－精神及び行為] (12 語) .....	47
表[B]-3	部門 1/3/5 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] [自然物及び	

自然現象] 1 語	48
表[C]-1 部門 1 [抽象的關係] (4 語)	49
表[C]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (2 語)	49
表[D]-1 部門 1 [抽象的關係] (2 語)	50
表[D]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (1 語)	50
表[E]-1 部門 1 [抽象的關係] (13 語)	52
表[E]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (3 語)	53
表[E]-3 部門 1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (2 語)	53
表[E]-4 部門 1/5 [抽象的關係] [自然物及び自然現象] (1 語)	53
表[F]-1 部門 1 [抽象的關係] (12 語)	54
表[F]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (15 語)	55
表[F]-3 部門 5 [自然物及び自然現象] (1 語)	56
表[F]-4 部門 1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (5 語)	57
表[G]-1 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (1 語)	58
表[G]-2 部門 1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (1 語)	58
表[H]-1 部門 1 [抽象的關係] (6 語)	59
表[H]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (5 語)	59
表[H]-3 部門 5 [自然物及び自然現象] (2 語)	60
表[H]-4 部門 4 [生産物及び用具] (1 語)	60
表[H]-5 部門 2/3 [人間活動の主体] [人間活動－精神及び行為] (1 語)	60
表[I]-1 部門 1 [抽象的關係] (1 語)	62
表 4-1 NLB における【E】タイプの 19 語の「-な/-の」用例数	64
表 4-2 NLB における【F】タイプの 33 語の「-な/-の」用例数	67
表[J]-1 部門 1 [抽象的關係] (1 語)	69
表[J]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (3 語)	69

表[K]-1	部門 1 [抽象的關係] (5 語)	70
表[K]-2	部門 3 [人間活動－精神及び行為] (10 語)	70
表[K]-3	部門 5 [自然物及び自然現象] (1 語)	71
表[K]-4	部門 1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (2 語)	71
表 4-3	各グループに属するタイプと語例の一覧	75
表 4-4	形容詞の用法が見られるグループにおける 9 タイプの語例の意味分類	76
表 4-5	<b>【E】【F】</b> 両タイプにおける「-の」を用いる傾向が高い 15 語の一覧	80
表 4-6	形容詞の用法が見られないグループにおける 2 タイプの語例の意味分類	81
表 5-1	日本語では形容詞の用法がみられるグループの傾向・特徴の整理	84
表 5-2	日本語では形容詞の用法がみられないグループの傾向・特徴の整理	85



# 第一章 序論



## 1.1 研究動機

中国語を母語とする日本語学習者（以後「日本語学習者」と称する）は日本語の文を作る際に、先に中国語で考え、それを日本語に変換する作業を繰り返すのが一般的であろう。

しかし、次の二つの例文を見てみよう。

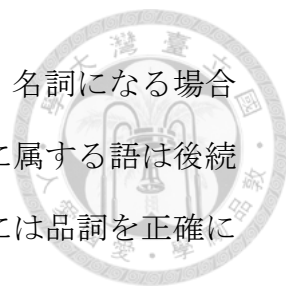
- (1) 保持謙虛的態度很重要。  
→ 謙虛な態度を取り続けるのは大事です。
- (2) 進入一流的大學是他的夢想。  
→ 一流の大學に入るのは彼の夢です。

「謙虛的態度」「一流的大學」は中国語において修飾連語<sup>1</sup>と呼ばれ、どちらも「二字二音節形容詞+的 (de) +名詞」という形で結合される名詞句である。しかし、この二つの連語は日本語に置き換えると、前者は「謙虚な態度」、後者は「一流の大学」になる。上述した例から、中国語において同じ構造を持つ名詞句は日本語に転換する場合、それぞれ異なる形式で後続の名詞を修飾する用法が見られる。無論、異なる言語の間に対一の転換が見られることはもとより少ないが、その中から何らかの特徴を見出すことによって、日本語学習者により習得しやすい方法を提供することができるのではないだろうか

上の二例からも分かるように、中国語では「的」(de) を用いるのは主として後続の名詞を修飾する時である。言い換えれば、前項の語は修飾・限定の性質を持ち、一般的に形容詞に当たるものが多いと言えよう。けれども、中国語の

---

<sup>1</sup> 奥水優 (1985) 『中国語の語法の話—中国語文法概論—』 p. 391



形容詞は日本語において同じく形容詞に属するとは限らない。名詞になる場合もあれば、動詞になる場合もある。日本語では、異なる品詞に属する語は後続の名詞を修飾する形も異なるため、正しい日本語の文を書くには品詞を正確に把握するという重要さがうかがわれる。


また、豊田豊子（1980）、山本紀代（2006）など多くの先行研究は、学習時間の長い上級レベルの日本語学習者にもかかわらず、漢語を用いて名詞を修飾する場合、その漢語の品詞の把握に誤りが生じるという現象は確かに存在すると指摘した。中国語と日本語は字形が同じである漢語が多いため、日本語学習者にとって大きな助けとなる一方、母国語の影響で日本語を中国語として理解し使用する誤りが起こる可能性もあると考えられよう。

以上から、本研究では学習者が後続の名詞を修飾する名詞句を作る際、前項に位置する漢語の中日両言語における品詞転換について考察を加えたい。この考察を通し、学習者にとって混同しやすい漢語の仕組みを明らかにし、さらに教育現場において何らかの指導方法に役立てたい所存である。

## 1.2 研究対象

日本語は中国語と同様、漢字を使用する言葉である。そのため、漢字の学習歴を有する学習者にとって漢語は比較的習得しやすい部分であろう。しかし、日本語における漢語は意味や品詞が中国語のそれと一致しているとは限らない。特に中日両言語において形が同じである漢語は、中国語本来の意味や品詞に影響されやすく、習得に混乱が生じやすいと考えられよう。

例えば、中日両言語において形が同じである「緊張」という漢語を見てみよう。「緊張」は中国語と日本語において意味は同じであるが、品詞は異なっている。中国語では形容詞に属し、「我很緊張」というふうに言うが、日本語では「私



はとても緊張です」とは言えず、「私はとても緊張します」と言うことになる。それは「緊張」という漢語は日本語において形容詞ではなくサ変動詞に属するためである。このような品詞が不一致である中日同形同義二字漢語は学習者にとって品詞の把握が難しいと思われる。

一方、中日同形同義二字漢語は中日両言語において同じ品詞に属することになっても、学習者には必ずしもその語を日本語の文に正確に用いられるとは限らない。例えば、日本語の形容詞は一般に語形の「-い」のもの（イ形容詞）の外に、語形の「-な」のもの（ナ形容詞）もある。近年、新たに語形の「-の」のもの、いわゆる「第三形容詞」という概念が提示され、形容詞として認められている。中国語の形容詞は「的」(de) という一つの助詞を用いて後続の名詞を修飾するのに対し、日本語の形容詞は「-い」、「-な」、「-の」のように後続の名詞を修飾する形が三つもある。そのため、日本語の文に正しい接続の形をとることも学習者にとって一つの難関であろう。

よって、本研究は中日同形同義二字漢語を研究対象とする。中国語と日本語において品詞にズレのあるものだけでなく、ズレのないものでも文に用いる際に誤りが起きる可能性があるため、研究対象として価値があると考えられる。

### 1.3 研究目的・方法

本研究の目的は主に以下の三点である。(一) 中国語と日本語における同形同義二字漢語の中で、形容詞の品詞の対応状況を考察し、その傾向を見出す。(二) 品詞のズレが生じるか生じないか、その原因を検討し、それぞれに属する漢語の仕組みや特徴を明らかにする。(三) 漢語習得に注意すべき点を提示し、教育現場での応用をサポートする。

研究方法は、次の四段階で進める。まず、『日本語能力試験出題基準改訂版』

(2002) (以後「日験出題基準」を称する) 1・2級の語彙表から中日同形同義二字漢語を抽出する。<sup>2</sup>

次に、中国語の辞典及びコーパスを利用し、中日同形同義二字漢語が形容詞に属する語を考察対象としてピックアップする。

そして、日本語の辞典及びコーパスを用いて、中国語では形容詞と記述される中日同形同義二字漢語が日本語においてどの品詞に所属するかを確認する。

最後に、中国語と日本語における中日同形同義二字漢語の品詞の対応関係を考察する。各対応タイプに属する語における特徴・傾向を見出す上に、品詞対応にズレが生じる原因を検討し、学習者にとって混同しやすい漢語の仕組みを明らかにする。

#### 1.4 本研究の構成

本研究は全五章で構成される。

第一章では、研究動機、研究対象、研究目的・方法、及び本研究の構成を述べる。

第二章では、中国語と日本語における形容詞とは何かを明らかにし、中日同形語の品詞問題に関わる先行研究を概観し、問題点を考えてみる。

第三章では、「日験出題基準」を用い、その語彙表に載る1・2級の中日同形同義二字漢語を抽出し、その品詞対応を考察するための調査を行う。

第四章では、第三章の調査結果を踏まえ、中国語と日本語の品詞対応にズレが生じる原因を検討し、各対応タイプに属する語の特徴を意味の観点から分析してみる。

---

<sup>2</sup> 本研究では日本語学習者に身につけられている傾向の強い漢語を中心に調査する。本来は最新の資料を用いることが適切であるが、日本語能力試験は2010年に改定され試験問題は非公開となった。また研究目的と照らし合わせた際に「日験出題基準」は、調査範囲として十分適しているのではないかと考え、これを用いることにした。



第五章では、本研究の研究結果をまとめ、今後の課題と日本語教育現場への  
応用を提案する。



## 第二章 先行研究



本章では、形容詞と中日同形語の両方面に分けて先行研究を概観する。まず、中国語と日本語における形容詞とは何かに関する先行研究を検討し、本研究における形容詞の範疇を決める。次に、中日同形語に関する調査報告を取り上げ、その調査方法・結果を検討する上、問題点を考えてみる。

### 2.1 形容詞とは何か

本節では、中国語と日本語においてそれぞれ形容詞に対する論述を整理し、その判定方法についても検討してみる。

#### 2.1.1 中国語において

中国語には、品詞が存在するかという論争が古くからあった。本研究ではこの問題に立ち入らず、中国語には品詞を有する立場から論を進めることにする。形容詞を一品詞として見なすべきかについては学者によって意見が分かれている。例えば、趙元任（1994）と「中央研究院平衡語料庫的内容與説明（修訂版）」（1998）<sup>3</sup>などは、中国語の形容詞は単独で述語になることができるという点で動詞と共通し、動詞の一種と考える。それに対し、輿水優（1985）、潘文娛ら（2000）、高橋弥守彦（2006）、蔡宗陽（2008）などは、動詞と形容詞をともに述語に属するものとするが、それぞれの文法的な特性により、異なる品詞として区別する。本研究では、後者の立場に立ち、形容詞を一品詞として論を進める。

以下、2.1.1.1 で中国語における形容詞の意味、語法特徴、分類を検討し、2.1.1.2 でその判定方法について考えてみる。

---

<sup>3</sup> 台湾中央研究院資訊所・語言所詞庫小組が編集する技術報告 95-02/98-04 号であり、「中央研究院平衡語料庫」に関する詳細な内容が記されている。



### 2.1.1.1 意味、語法特徴、分類

#### I、意味

中国語における形容詞とは何か、次のような言及がある。蔡宗陽<sup>4</sup>(2008)は「所謂形容詞，是指用來區別或表達、修飾人、事、物的形狀、狀態、性質的詞。」とし、鹿琮世ら(1988)は「形容詞とは、性質や状態を表す言葉である」と述べている。すなわち、形容詞とは人や物事の性質や状態を表す言葉であるということが言えるだろう。

#### II、語法特徴

興水優(1985)と潘文娛ら(2000)によると、形容詞の語法特徴は次の三点がある。

- ① 大部分は程度副詞(「很」、「非常」など)の修飾を受ける。

例： 老師很親切。(先生はとても親切です。)

- ② 後ろに賓語<sup>4</sup>を置くことができない。

例： 老師親切我。→非文

- ③ 重ね形を作る場合、その形式に動詞と異なる所がある。<sup>5</sup>

例： 他那大大方方的舉止，給人留下了好印象。

(彼のおっとりしている立ち振舞は、私達に好印象を与えた。)

中国語の形容詞は、述語になることや助詞「了」を後ろに置くことができることなど、語法の面で動詞と共通している部分が多いが、上述した三点は形容詞の主要な特徴であり、動詞と区分する依拠にもなると言えよう。

<sup>4</sup> 賓語は中国語の文の成分の一種であり、日本語の目的語に相当する。

<sup>5</sup> 動詞の重ね形は一般的に ABAB 型である。(例：對這種人，不教訓教訓不行。) それに対し、形容詞の重ね形は一般的に AABB である。(例：白紙黑字寫得清清楚楚。)



### Ⅲ、分類

高橋弥守彦（2006）や潘文娛ら（2000）によると、形容詞はその語が文においてどのような成分になるかによって、さらに一般形容詞と非述形容詞<sup>6</sup>に分けることができる。

一般形容詞は例（1）～（6）のように、文中では主に定語と述語として用いられるが、状語や補語のほか、主語や賓語にもなる。<sup>7</sup>また、程度副詞の修飾を受けることもできる。

- (1) 他是一個勇敢的孩子。[定語]（彼は勇敢な子供です。）
- (2) 這間屋子很安靜。[述語]（この部屋はとても静かです。）
- (3) 他們認真討論了這個問題。[状語]（彼らは真剣にこの問題を討論しました。）
- (4) 她寫字寫得很漂亮。[補語]（彼女は字をととてもきれいに書きます。）
- (5) 謙虛使人進步。[主語]（謙虚さは人を進歩させます。<sup>8</sup>）
- (6) 大家追求美麗。[賓語]（みんなは美しさを求めます。）

[以上の例<sup>9</sup>は高橋弥守彦（2006）より]

ここで中国語の形容詞は主語と賓語になることに注目したい。このように主語と賓語になり、名詞のような働きをする形容詞を、「形容詞の名詞化」や「名詞として使われた」ということがあるが、輿水優（1985）は単に主語や賓語の

<sup>6</sup> 中国語では「非謂形容詞」と称するが、ここでは輿水優（1985）において称する日本語の名称を用いる。

<sup>7</sup> 鹿琮世ら（1988）によると、主語、述語、賓語、定語、状語、補語はいずれも中国語の文の成分である。主語は陳述の対象であり、述語は主語に対する陳述である。賓語は動詞の影響の及ぶ対象であり、動詞の支配を受けるもので、動詞の後ろの置かれる。定語と状語はともに修飾語の一種である。前者は連語の中で名詞を修飾するもので、後者は連語の中で動詞と形容詞を修飾するものである。補語とは、動詞あるいは形容詞の後に置かれる補充成分である。動詞の後ろに置かれ、主として動作に対して補充説明を加えるものである。鹿琮世ら（1988）p. 11-12を参照。

<sup>8</sup> 高橋弥守彦（2006）では「謙虚な人は進歩する」というふうに訳したが、ここは筆者が元の中国語の文型を重視したいと考え、この文の日本語訳に使役文を用いたわけである。

<sup>9</sup> 中国語の形容詞はその構成の上から、単音節形容詞（例：大、快）、二音節形容詞（例：安靜、勇敢）、複合形容詞（例：鮮紅、雪白）、後置成分のついた形容詞（例：亮晶晶、糊里糊塗）の四種類に分類される。ここでは、二音節形容詞を例として挙げることにした。

位置を占め得ることというだけでは、その形容詞が名詞との兼類になるとは言いがたいと指摘した。次の例 (7) ~ (9) が示すように、賓語の位置に置かれた形容詞(「大膽」)は「不」で打ち消すことができるし、程度副詞の修飾を受けることもできるなど、形容詞の文法的な性質は失われていないため、名詞とするのが適切でなく、あくまでも形容詞であると述べている。<sup>10</sup>

- (7) 我要學習大膽。(私は大胆になるのを学ぶ。)
- (8) 我要學習不大膽。(私は大胆にならないのを学ぶ。)
- (9) 我要學習更加大膽。(私はより大胆になるのを学ぶ。)

中国語において、形容詞が名詞という品詞を兼ねているかどうかについて、その語が主語や賓語になることができるかのみでは判定することはできないと分かった。<sup>11</sup>

非述形容詞は文中では定語のみとして用いられ、状語、述語、補語などになることができない。程度副詞の修飾を受けることもできず、「区別詞」とも呼ばれる。高橋弥守彦(2006)、潘文娛ら(2000)によると、一般形容詞と異なるところは次の三点である。

- ① 一般形容詞の前には、程度を強調する副詞「很」などを用いることができるが、非述形容詞はそれができない。

例： 【一般形容詞】簡單的方法 (○)、很簡單的方法 (○)

【非述形容詞】唯一的方法 (○)、很唯一的方法 (×)

<sup>10</sup> 中国語において、形容詞も動詞も主語や賓語の位置に置くことができる。その場合、形式も変わらないし、動詞や形容詞の特性も失われない。この論述について、朱德熙(1985)「关于动词形容词“名物化”的问题」では詳しく検討されている。また、高橋弥守彦(2006)もこの言語現象を「位置優先説」と説き、体言性の枠組み的な意味が加味されるが、形容詞は形容詞で、動詞は動詞であると主張した。

<sup>11</sup> 潘文娛ら(2000)はある形容詞が具体的な物事を指し示すことができ、あるいは数量詞や性質、数量を表す形容詞の修飾を受けることができる時、名詞との兼類になると指摘した。輿水優(1985)は副詞「很」の修飾を受けるが、動詞「有」の賓語になることができ、数量詞の修飾を受けるといった特徴を持つものは「名形詞」と呼び、形容詞の下位区分とする。



② 非述形容詞は、「不」ではなく「非」を用いて否定形を作る。

例： 不大型 (×) → 非大型

不人造 (×) → 非人造

③ 一般形容詞は言語環境があれば単独でも述語になれるが、非述形容詞が述語のようになる場合は一般には「的」(de) を用いなければならない。この場合はその前に「是」を用いるので、述語ではなく、「的」(de) の連語で作る賓語と言うほうが良いだろう。

例：我家有一輛國產汽車<sup>12</sup>。[定語] (我が家には国産自動車が一台ある。)

我家那輛汽車是國產的。(我が家の自動車は国産です。)

#### 2.1.1.2 判定方法

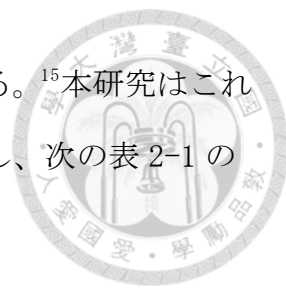
ここでは、中国語に形容詞の判別方法について述べてみる。前にも触れたが、中国語には品詞が存在するかという論争が古くからあり、形容詞を一品詞として見なすべきかについても学者によって意見が分かれている。これは辞典やコーパスにおける品詞注記にも反映され、二字の見出し語に品詞標示がない「教育部重編国語辞典修訂本」<sup>13</sup>もあれば、一般形容詞と非述形容詞が明記される『東方中国語辞典』(2004)<sup>14</sup>や、一般形容詞を状態動詞と記される「中央研究院現代漢語平衡語料庫」(以後、「漢語平衡語料庫」と称する)もある。

一つの語例が形容詞に属するか、動詞に属するかの判断について、朱徳熙(1982)、輿水優(1985)は、程度副詞を前に置くことができるか、また賓語を

<sup>12</sup> 非述形容詞は定語として後ろの名詞を修飾する時、一般的に「的」(de) を用いない。例：國產汽車、慢性病

<sup>13</sup> 「教育部重編国語辞典修訂本」は中華民国教育部(日本文部科学省に相当する機構)が編纂した中国語辞典である。本研究はオンライン辞書(<http://dict.revised.moe.edu.tw/index.html>)を参考にする。

<sup>14</sup> 『東方中国語辞典』において一般形容詞は「形容詞」と、非述形容詞は「区別詞」と注記されている。



後ろに置くことができるかによって区別できると指摘している。<sup>15</sup>本研究はこれに基づき、さらに語例が形容詞兼動詞に属する可能性も考慮し、次の表 2-1 のように中国語における形容詞の判定方法を提示する。

表 2-1 中国語における形容詞と動詞の区別

		賓 語	
		可	否
程 度 副 詞	可	A-1：動（例：尊重） A-2：形/動（例：豊富）	B-1：形（例：簡単） B-2：形/動（例：失望）
	否	C：動（例：反抗）	D：動（沈没）

動詞は程度副詞を前に置くことができないか、賓語を後ろにおくことができるものであるのに対し、形容詞は程度副詞を前に置くことができるが、賓語を後ろに置くことができないものである。即ち、A-1（例：尊重）、C（例：反抗）、D（沈没）は動詞に属し、B-1（例：簡単）は形容詞に属する。

また、A-2（例：豊富）と B-2（例：失望）は形容詞兼動詞に属するものである。A-2 は形式上 A-1 と同様、程度副詞の修飾を受ける上、後ろに賓語を置くこともできる。しかし、A-1 は「我很尊重他」のように程度副詞と賓語を同時にとるのに対し、A-2 は同時にとることができない。例えば、「色彩很豊富」「創作豐富了他的生命」のように、程度副詞“很”のある時は賓語がなく、賓語“他的生命”のある時は程度副詞がないと見られ、前者は形容詞、後者は動詞と捉える。「尊重」などの動詞と違い、「豊富」などの語は形容詞兼動詞と見なすべきであろう。B-2 は直接後ろに賓語を取ることができないものの、「令-」「使-」という形で賓語を取ることが可能なので（例：令人失望）、日本語の自動詞と近い性質を持つと考えられる。

<sup>15</sup> 朱徳熙（1982）pp. 55-57、奥水優（1995）pp. 153-157 を参照。



## 2.1.2 日本語において

以下、2.1.2.1で日本語における形容詞の意味、機能、範疇を検討し、2.1.2.2でその判別方法について考えてみる。

### 2.1.2.1 意味、機能、範疇

#### I、意味

小池清治ら編 (1997) 『日本語学キーワード辞典』によると、形容詞とは事物・事柄の性質・状態や人の感覚・感情などを表すものである。飛田良文ら (2007) はさらに以下のように詳しく説明している。

**形容詞とは、(1)客観的な事物・事柄の性質(色彩を含む)・状態を表すとともに、(2)主観的な心を感じる感覚や感情を表す品詞。(p.206)**

(『日本語学研究事典』より)

西尾寅弥 (1972) は (1) を「属性形容詞」と、(2) を「感情形容詞」と呼び、意味の面から日本語の形容詞にはこの二種類の下位分類があると述べている。

以上を踏まえ、形容詞というのは、事物の性質・状態という属性を客観的に表すとともに、人間の感覚・感情という心の活動を主観的に表す言葉であることが分かった。

#### II、機能

『岩波国語辞典 第六版』(2000)によると、形容詞は単独で、つまり動詞や助動詞の助けを借りずに、述語となり得る。また、その連用形は連用修飾語として副詞的に働くことができると述べられている。





村木新次郎（2012）も日本語の形容詞には以下の三つの機能が認められると言及した。

- ① 名詞を修飾限定する規定用法（「赤いバラ」）
- ② 述語としての用法（「庭のバラは赤い。」）
- ③ 動詞述語を修飾限定する修飾用法（「庭のバラが赤く咲いた。」）

以上から、日本語における形容詞の機能は名詞を修飾する規定用法、単独で述語になり得る用法、動詞に対して副詞と同じような修飾の働きをする修飾用法、主にこの三つであると言えよう。さらに、村木新次郎（2012）は形容詞に所属する単語のすべてがこうした3機能を備えているというわけではないが、基本的な機能として見なすことができると指摘している。

### Ⅲ、範疇

橋本文法をベースとしている学校文法では、形容詞は終止形がイで終わるもの（例：赤い、暑いなど）を指している。終止形がダで終わるもの（例：静か、丈夫など）は形及び用法の上に独特の点を有するから、形容詞と見るべきではなく、形容動詞という一つの品詞とする。

鈴木重幸（1972）は、学校文法ではいわゆる形容詞を第一形容詞、形容動詞を第二形容詞と呼び、同一の品詞とみなした。その理由は以下のように述べている。

いわゆる形容動詞と形容詞とは、語彙的な意味の性格が同じであるだけでなく、品詞を性格づける文論的・連語論的な働き、形態論的なカテゴリーが共通であって、異なるのは、主に文法的な形の作り方だけだけである。したがって、品詞としては区別すべきではない。（p.428）

仁田義雄（2000）の品詞分類では、イ形容詞（形容詞と呼ばれていたもの）とナ形容詞（形容動詞と呼ばれていたもの）が設置される。形容動詞は、形容詞と語形成のあり方の点で異なりを有するものの、語義のタイプや文法機能のあり方においてほとんど異なるところがないという観点で、形容詞の一種とし、ナ形容詞と呼ぶ。<sup>16</sup>また、西尾寅弥（1972）は、狭義の形容詞といわゆる形容動詞を合わせて形容詞と呼ぶという立場で、言語作品を通して大量の用例を集め、それに基づいて形容詞の意味・用法の記述を行うものである。

さらに、村木新次郎（2012）は鈴木重幸（1972）に従い、第一形容詞と第二形容詞の他に、「第三形容詞」<sup>17</sup>「規定用法のみをもつ形容詞」「述語用法のみをもつ形容詞」を加え、形容詞の範囲の拡大を主張した。<sup>18</sup>

<sup>16</sup> 仁田義雄（2000）『日本語の文法1 文の骨格』「単語と単語の類別」p. 30

<sup>17</sup> 村木新次郎（2006）によると、「第三形容詞」とはこれまで一般に（例えば辞書において）名詞と扱われてきたものの中で統語的な特性から形容詞とみなすべき単語群のことを指す。これらの単語には、以下のような特徴が見られる。

- ① 主語や目的語にならないか、なりにくい。
- ② 連体修飾を受けない。
- ③ 後続の名詞を修飾する規定用法（「どんなに」に対応する属性規定）として用いられる
- ④ 述語として用いられる。
- ⑤ 後続の動詞（時に形容詞）を修飾する修飾用法として用いられる。

以上の①②の特徴は名詞の特徴を持たないことを意味する。③④⑤の特徴は形容詞の特徴である。

「抜群」を例として、③④⑤の特徴を表す例文は次のようである。

- 子供の頃から船に乗って櫓を漕いでいたので、肩、腰が鍛えられ、抜群の強肩の持ち主となりました。[規定用法]（『生活習慣病に克つ新常識』）
- 営業マン「良いデザインでしょう。乗り心地も抜群です。この車なら彼女にもてますよ。」[述語用法]（『成果が即上がる営業のコツ』）
- クジラの缶詰は甘辛い味つけで、野外でおにぎりと一緒に食べると抜群にうまい。[修飾用法]（『翼はいつまでも』）

[国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言』より]

「抜群」のように、主語や目的語にならない上に、名詞の文法的な特徴である格のシステムも持たず、さらに連体修飾を受けることもない語は名詞ではなく、形容詞と見るのが正当であると村木新次郎（2006）が指摘している。

<sup>18</sup> 村木新次郎（2012）『日本語の品詞体系とその周辺』第1部第2章を参照。

村木新次郎（2012）が提唱した漢語語彙の品詞分類<sup>19</sup>からも、形容詞において次のような下位分類が見られる。分類を見やすくするため、筆者がそれにローマ数字をつけ、下線を引くことにした。



#### (I) 第一形容詞

「-い/く」のパラダイムを持つ。例：仰々し、騒々し、毒々し…

#### (II) 第二形容詞

「-な (/に) /だ」のパラダイムを持つもの。例：曖昧、危険、簡単、謙虚…

#### (III) 第三形容詞

「-の/に/だ」のパラダイムを持つ（「-に/だ」のいずれかが欠けていることもある）。ただし、名詞の格のパラダイムである「-が」「-を」を従えないこと、連体修飾を受けないことを条件とする。例：迫真、拔群、永遠、皆無…

#### (IV) 第二形容詞/第三形容詞

規定用法で「-な/-の」のゆれを示すものがある。第二形容詞と第三形容詞の両方、つまり、連体の形式にゆれのある単語は多い。「急速な/の 変化」「軽妙洒脱な/の 文章」のような例がそうである。例：安心、特別、神聖、単一…

#### (V) 規定用法のみの形容詞

規定的な用法だけを持つ、無活用の形容詞である。語形としては、「-Φ」「-なる」「-たる」「-の」がある。「-の」の形式をとるものが最も多い。

例：現行、合理、有機、法定、…

以上の先行研究から分かるように、形式を重視する学校文法で終止形がイで終わるもののみを形容詞と称することを検討することにより、語自身の意味及び文中での働きという観点で、形容動詞さらに「第三形容詞」などを形容詞の枠に入れるべきだという主張から、形容詞の指す範囲を見直しつつある傾向が見られる。

<sup>19</sup> 村木新次郎（2012）『日本語の品詞体系とその周辺』p.85-101を参照。



## 2.1.2.2 判定方法

村木新次郎（2012）が提唱した形容詞を確認するには、辞典の他にコーパスを用いる必要がある。なぜならコーパスにおける例文の統語的な特性によってこれらを判別することができると考えたためである。

例えば、「現代日本語書き言葉均衡コーパス NINJAL-LWP for BCCWJ」（以後、「書き言葉均衡コーパス NLB」を称する）を利用し、辞典においてともに名詞と標示される(Ⅲ)第三形容詞と(Ⅴ)規定用法のみの形容詞は、表 2-2 で示した判定基準を通して抽出することができる。

表 2-2 (Ⅲ)第三形容詞及び(Ⅴ)規定用法のみの形容詞の判定基準

語例	辞典	コーパス (NLB)	村木 (2012)
一流	名詞	① 「-が」「-を」の形式：10 例以下 ② 「-の」の形式で後続の名詞を限定する：10 例以上 (「当代一流」のように前要素がくっついて、一単語となっているものを除く) ③ 述語用法、修飾用法：10 例以上 (いずれか欠けていることもある) ④ 連体修飾を受けることができない	<u>(Ⅲ)第三形容詞</u>
合理		上述した条件①と②のみに該当するもの	<u>(Ⅴ)規定用法のみ</u> <u>の形容詞</u>
均衡		① 「-が」「-を」の形式：10 例以上 ② 連体修飾を受けることができる ③ 規定用法、述語用法、修飾用法は無い	名詞

また、(IV) 第二形容詞/第三形容詞は規定用法で「-な/-の」のゆれを示すものであるが、そのゆれを標記する辞典は一般に少なく、殆どが形容動詞か形容動詞兼名詞と注記している。しかし『岩波国語辞典 第六版』(2000)は、形容動詞と認める規準<sup>20</sup>は明確に示される上に、「-の」の形がある場合も記されている。よって(IV) 第二形容詞/第三形容詞を確認するには、これが最も適している資料であると思われる。

さらに『角川必携国語辞典』(2007)を合わせて参考し、(IV) 第二形容詞/第三形容詞は表 2-3 で示すように判定することができるだろう。

表 2-3 (IV) 第二形容詞/第三形容詞の判定基準

語例	『角川必携国語辞典』	『岩波国語辞典 第六版』	村木 (2012)
重大	形動	名 (ナ・ノ) <sup>21</sup>	<u>(IV)</u>
有力	形動	ダ (ナ・ノ) <sup>22</sup>	<u>(IV)</u>
独特	名・形動	ダ (ナ・ノ)	<u>(IV)</u>
幸運	名・形動	名 (ナ・ノ)	<u>(IV)</u> ・名詞
誠実	名・形動	名、ダ (ナ・ノ)	<u>(IV)</u> ・名詞

<sup>20</sup> 『岩波国語辞典』では、次の規準に合うものだけを形容動詞と認め、「ダ (ナ)」と注記した。  
 (1) 「-に」の形が広く(「なる」「する」だけでなく)動詞に対して副詞と同様の連用修飾の働きをすること。  
 (2) 連体修飾語となる時の形が「-な」であること。  
 (3) 「だろ・だっ・で・に・だ・な・なら」の活用語尾が、原則としてそろっていること。

<sup>21</sup> 『岩波国語辞典』では、注釈 25 で述べた基準 (2) と (3) に合うが、基準 (1) に合わないものを形容動詞と認めず、名詞とした。「名 (ナ・ノ)」と注記した。しかし、村木新次郎 (2012) では、このような語を(IV) 第二形容詞/第三形容詞と見なした。

<sup>22</sup> 『岩波国語辞典』では、注釈 25 で述べた三基準に該当するほか、連体修飾語となる時には「-の」「-な」どちらの形もあるものを「ダ (ナ・ノ)」と注記した。しかし、村木新次郎 (2012) では、このような語を(IV) 第二形容詞/第三形容詞と見なした。



### 2.1.3 まとめ

中国語における形容詞とは、人や物事の性質や状態を表す言葉である。程度副詞が前に置けること、目的語を後ろに置けないこと、重ね型の形式の相違という三点で、語法特徴として動詞と区別することができる。種類は一般的に、一般形容詞と非述形容詞の二種類に分けられる。前者は定語や述語になることができ、様々な機能を有することに対し、後者は定語にしかなることができないのが最も顕著な相違点である。

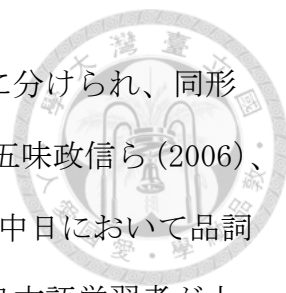
また、品詞の立場の違いに従い、辞典やコーパスの品詞標示も異なってくることがある。朱徳熙（1982）、輿水優（1985）が指摘した形容詞と動詞の語法特徴に基づき、一つの語例が形容詞に属するかを判定する方法をまとめてみた。

一方、日本語における形容詞とは一般的に事物の客観的な属性と心に感じる主観的な感情を表す言葉であると言われている。機能について、規定用法、述語用法、修飾用法が三つあり、文中での基本的な働きとして認められる。

形容詞の意味と機能について、学説が定着しつつあることが先行研究から分かった。しかし形容詞の範疇について、学説が定まっておらず、イで終わる学校文法における形容詞から、村木新次郎（2012）が提出した「第三形容詞」まで、形容詞の指す範囲を拡大する傾向があると言えよう

## 2.2 中日同形語に関する研究

大河内康憲（1992）によると、「同形語とは、一言でいえば「政治、文化」のように日・中で字面が同じ単語である」と述べられている。同形語の分類に関して、一般的に同形同義語、同形類義語、同形異義語という三つのタイプに分けられる。同形異義語に関する研究（大まかに言えば同形類義語も含む）は同形漢語の中日両言語における意味や用法の違いを究明するものが多い。一方、



同形同義語に関する研究は、日本語教育と語彙研究の両方面に分けられ、同形漢語の文法的ズレに焦点を当てている。日本語教育に関して、五味政信ら(2006)、河住有希子(2005)、山本紀代(2006)など数多くの研究は、中日において品詞が異なる同形同義語が少なくないため、中国語を母語とする日本語学習者が上級レベルになっても誤りが起こるものであると指摘してきた。語彙に関して、林姿里(1982)、戚国福(1999)、村木新次郎(2009)<sup>23</sup>は実例を用いて調査・分析を試みた研究である。ここでは、語彙調査を行った上述した三つの研究を取り上げて詳しく論じたい。

### 2.2.1 林姿里(1982)

林姿里(1982)は、『現代中日辞典』(1961)の付録として掲げられている「中日同義複合語対照表」を調査対象とし、そこに載っている約4300語<sup>24</sup>を取り出し、実際それらの語が中日両言語において同義であるかどうかを辞書によって確認し、品詞におけるズレの有無も検討した。

品詞の判定基準に関して、日本語の部分は『岩波国語辞典 第三版』(1979)と『角川新版国語辞典』(1969)に準じ、二冊とも同じであるものだけを認めて採用する。それに対し、中国語の部分は『岩波中国語辞典』(1963)と『現代中国語辞典』(1982)に準ずるが、前者の語数が少ないため、やむを得ず後者を中心にし、一部の語だけを前者で補助する。

林姿里(1982)は、調査対象に当たる約4300語の中日同形語が日本語の<名詞>、<名詞・動詞>、<名詞・形容動詞>である場合、中国語においてどの品詞に属するかを調査した。なお、品詞対応にズレのあるタイプの中で語数を

<sup>23</sup> 村木新次郎(2012)『日本語の品詞体系とその周辺』に再録されている。

<sup>24</sup> 「中日同義複合語対照表」には約4800語が載っている。音読できない語と辞書に見つからない語と品詞標示が一致しない語を除き、約4300語残る。



10 語以上有するタイプのみを絞り、それらのタイプに属する語を中国語の語構成<sup>25</sup>に基づいて分類し、ズレの原因を検討した。

次の表 2-4 は、筆者が林姿里（1982）の調査結果を中国語の品詞別で整理し直したものである。林姿里（1982）が取り上げて考察を行った対応タイプは合計 13 種あり、(★) で示した。

表 2-4 林姿里（1982）日中同形二字漢語の品詞転換表  
[語数が 10 語以上のタイプのみ]

中国語品詞		日本語品詞	語数
名		名詞	2054
	★	名詞・動詞	274
	★	名詞・形容動詞	16
動		名詞・動詞	687
	★	名詞	44
	★	名詞・動詞	11
形		名詞・動詞	187
	★	名詞	99
	★	名詞・動詞	23
名・動		名詞・動詞	675
	★	名詞	138
名・形		名詞・形容動詞	25
	★	名詞	76
動・形	★	名詞	10
	★	名詞・動詞	32
	★	名詞・形容動詞	17
名・連	★	名詞	12
名・動・形	★	名詞・動詞	12

表 2-4 の網掛け部分から、中国語では形容詞に属する語は日本語において<

<sup>25</sup> 林姿里（1982）では、ここで言う語構成は香坂順一『中国語学の基礎知識』の説を骨組みとし、陸志韋氏の『漢語的構詞法』の説を血肉とするものであると述べられている。<連合式><修飾式><陳述式><支配式><補足式><存在式>という六種類に分ける。



名詞>になる語が<名詞・動詞>になる語より多いことが分かった。また、林姿里（1982）では、次のような考察結果が述べられている。



中日両語における品詞転換に問題のあるものは、日本語の名詞とも形容動詞ともなりうる場合、全般的に言えば、この類の漢語が品詞転換を行う理由は、語構成とあまり関係がないが、情態性概念を持つかどうかに関わっているようである。（下線筆者）

日本語の名詞か動詞になる場合の中日同形語とは違い、形容動詞になる中日同形語を分析する際、語構成という観点からあまり体系的な結果が見られず、語彙自身が持っている情態性概念に重点を置くべきであることが示唆される。

### 2.2.2 戚国福（1999）

戚国福（1999）は、『三省堂国語辞典 第四版』（1992）から中国語と同形でない単語も含めて789語の二字サ行変格活用漢語動詞（以後「二字漢語動詞」と称する）を取り出し、中日両言語における品詞及び意味のズレを検討した。品詞判定の基準に関して、日本語は前掲『三省堂国語辞典 第四版』、中国語は『簡約現代中国語辞典』（1986）とした。その結果、調査できないもの159語と品詞の認定に問題があるもの27語を除き、残りの603語は次の表2-5で示すように、（一）動詞、（二）名詞、（三）形容詞、（四）その他、四類に分けられる。品詞のズレがないものは376語で総語数の62.4%を占めており、ズレがあるものは227語で総語数の37.6%を占めている。

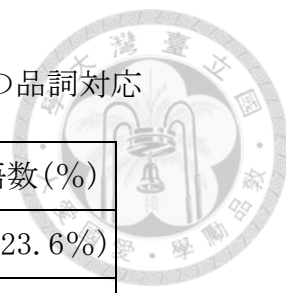


表 2-5 戚国福（1999）二字漢語動詞と同形の中国語の品詞対応

	中国語品詞	漢語動詞	語数(%)	ズレ語数(%)
一	動詞	二字サ行 変格活用 漢語動詞	519(86%)	143(23.6%)
二	名詞		39(6.5%)	39(6.5%)
三	形容詞		7(1.2%)	7(1.2%)
四	その他		38(6.3%)	38(6.3%)
合計			603(100%)	227(37.6%)

また、氏はさらに中国語において形容詞、及びその他<sup>26</sup>に分類されている形容詞グループに属するものを抽出し、詳細が次の表 2-6 となっている。

表 2-6 戚国福（1999）二字漢語動詞と同形の中国語の品詞対応 [形容詞部分]

中国語品詞		漢語品詞	語例	語数	ズレ	小計	ズレ語数
三	形容詞	自サ	共同、緊張 中立、低下 繁盛	5	○	7 語 1.2%	7% 1.2%
		他サ	所有	1	○		
		自他サ	乾燥	1	○		
四 その他	形容詞・名詞	自サ	一致、所属	2	○	30 語 5.0%	30 語 5.0%
		自サ・形動	貧乏	1	○		
		他サ	邪魔	1	○		
	形容詞・他動詞	自サ	活躍、接近 相当、徹底 満足、繁栄 充実	7	○		
		自サ・形動	安心、謙遜 不足、安定	4	○		
		他サ	尊重、否定 浪費、勉強	4	○		

<sup>26</sup> 戚国福（1999）では、(四) その他はさらに<形容詞グループ>（30 語）、<連語グループ>（6 語）、<副詞グループ>（1 語）、<助動詞グループ>（1 語）の四つのタイプに分けられる。

		自他サ	確定、固定	2	○
	形容詞・自動詞・名詞	自サ	進歩、成功 沈黙、平行 優勝	5	○
	形容詞・他動詞・名詞	他サ	肯定	1	○
	形容詞・自他動詞・名詞	自サ	活動、団結	2	○
	形容詞・自他動詞・名詞	自他サ	中和	1	○

表 2-6 に載っている 37 語は二字漢語動詞が中国語において形容詞及び形容詞兼他品詞に属するもので、総語数の 6.2% を占めている。対応傾向から見ると、日本語の漢語動詞になる場合、自動詞になることは他動詞になることより多いことが分かった。その理由は中国語の形容詞が中国語の自動詞と同じように賓語を伴うことができず<sup>27</sup>、日本語の自動詞も「他ノ物事ヲ処分スル性質」を持っていないということにあると戚国福（1999）は述べている。

また、この 37 語は中国語において全て形容詞という品詞性を持つものであるが、日本語において殆どは二字漢語動詞になることが見られる。つまり、中国語において形容詞に属するものは日本語において、必ずしも形容詞（ここは広義の形容詞と指す）としては用いられないことがあると言えよう。戚国福（1999）はこのような二字漢語動詞について、学習者がそれを形容動詞として誤用する可能性が高いと指摘している。

### 2.2.3 村木新次郎（2009）

村木新次郎（2009）は、中日両言語の「漢語」の間には、同形語が存在し、その文法性が共通するものもあれば、相違するものもあると述べている。氏は両言語に見られる相違のうち、何らかの傾向がみとめられる可能性もあろうと

<sup>27</sup> 興水優（1985）『中国語の語法の話—中国語文法概論—』 p.187



考え、「中国語の形容詞が日本語の動詞に対応する」というのは、そのような傾向の一つとして調査を行った。

村木新次郎（2009）は、HSK（漢語水平考試）の語彙表と『新編漢語形容詞辞典』（2003、経済科学出版社）から、中国語で形容詞として使用されるものうち、日本語で動詞として用いられるものを拾い出し、それらの各単語が他の品詞を兼ねるかどうかを調査した。品詞の判定について、中国語は『現代漢語詞典 第五版』（2006）に、日本語は『岩波国語辞典 第六版』（2000）に従った。前者は自動詞と他動詞の区別はしていないが、賓語（目的語）をとる用例の有無によって、自他の区別をした。

中国語の形容詞及び形容詞が自動詞・他動詞を兼ねる単語が、日本語のどの品詞に所属するかに着目し、整理すると表 2-7 になる。

表 2-7 中国語の形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語

中国語品詞	日本語品詞	語例	語数
形容詞	自動詞	敵対、混乱、緊迫、老成、疲労 平衡、謙遜、曲折、衰弱、熟練 湾曲、一致、卓越、透徹、跋扈 錯乱、低下、煩悶、繁茂、繁盛 憤怒、合格、急迫、焦燥、謹慎 開明、苦悶、苦惱、狂喜、狼狽 疲労、憔悴、勤劳、外在、喜悦 一定、優越、円熟、専心、恐怖	40
	形容詞・自動詞	簡略	1
	自動詞・他動詞	充足、乾燥、固執、貧窮、謙遜 一貫、憤慨、慷慨	8
	他動詞	誇張、特定	2
	名詞	錯誤、反動、具体	3

形容詞・自動詞	形容詞・自動詞	安心、相当	2
	自動詞	成熟、腐敗、進歩、矛盾、成功 零落、密集、迂回	8
	自動詞・他動詞	閉塞	1
	他動詞	自覚	1
形容詞・他動詞	形容詞	不便	1
	自動詞	充実、発達、繁栄、孤立、興奮 安定、歓喜、拘泥、困惑	9
	自動詞・他動詞	緩和、平均	2
	他動詞	保守、抽象、概括	3
形容詞・自動詞・他動詞	自動詞	麻痺、突出、自負、団結	4
	自動詞・他動詞	確定	1
	他動詞	公開、考究、統一、温存	4
総語数			90

村木新次郎（2009）の調査結果から、「中国語で形容詞に所属し、日本語で自動詞に所属する日中同形語が一定数存在する」ということは言える。しかし、漢語全体の中でこれらがどの程度を占めるものか分からない。また、氏はそのような関係を持つものの中に、両言語の単語がそれぞれに他の品詞を兼ねるものがあり、様々なタイプがあるので、単純に一般化することはできないと指摘している。

村木新次郎（2009）は、この種の同形語の日本語は個々の単語が単一の特徴を持つものでなく、複数の特徴をあわせもつものがあるのではなかろうかと述べている。<sup>28</sup>氏は中日両言語において品詞と意味の関係を典型（プロトタイプ）としては、以下のような図式を提示した。

<sup>28</sup> 中川正之（2002）は中国語の形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語の特徴として、＜変化＞と＜動作（性）＞に注目する。前者を（A）常態からの一時的逸脱、（B）変化・進歩、（C）心的操作としての比較、後者を（D）動作性の読み込みに分類し、個々の単語を（A）～（D）のうちの一に所属させている。

- 形容詞 → <主体の状態>  
自動詞 → <主体の動作・変化>  
他動詞 → <主体の動作、客体の変化>



しかし、これらの典型からはずれていて、典型とは異なる意味特徴をもつこともある。品詞の共通性は、必ずしも意味上の共通性を保証するものではないと述べている。

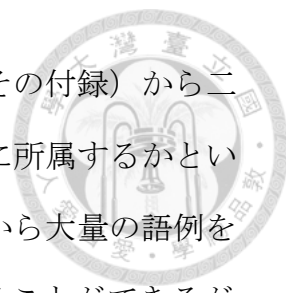
村木新次郎（2009）は中日同形語の文法性が相違するものの中で、「形容詞（中国語）→動詞（日本語）」という傾向に着眼した語彙調査を行った。その分析から中国語の形容詞が日本語の自動詞と対応する語が比較的によく存在するという結果が得られたが、漢語全体の観点から検討する必要もあるのではないかと考えられる。

#### 2.2.4 まとめ

本節では、実例を用いて語彙調査を試みた先行研究、林姿里（1982）、戚国福（1999）、村木新次郎（2009）を三つ取り上げて検討してみた。その結果は次の表 2-8 のようにまとめてみる。

表 2-8 林姿里 (1982)、戚国福 (1999)、村木新次郎 (2009) の比較

	林姿里 (1982)	戚国福 (1999)	村木新次郎 (2009)
視 点	日本語→中国語	日本語→中国語	中国語→日本語
調 査 範 囲	「中日同義複合語対照表」 (『現代中日辞典』の付録) に載っている二字同形漢 語	『三省堂国語辞典』(四版) から中国語と同形でない 単語も含めての二字サ行 変格活用漢語動詞	HSK (漢語水平考試) の 語彙表と『新編漢語形 容詞辞典』から、中国 語で形容詞、日本語で 動詞として用いられる 二字同形漢語。
調 査 語 数	約 4300 語	603 語	90 語
判 定 基 準	『岩波国語辞典』(三版) 『角川新版国語辞典』 『現代中国語辞典』 『岩波中国語辞典』	『三省堂国語辞典』 (四版) 『簡約現代中国語辞典』	『岩波国語辞典』 (六版) 『現代漢語詞典』 (五版)
分 析 結 果	形容動詞になる二字同形 漢語が品詞転換を行う理 由は、語構成とあまり関係 がないが、情態性概念を持 つかどうか関わっている ようである。	中国語では形容詞や形容 詞兼他品詞に属する語が 日本語の漢語動詞になる 場合、自動詞になっている ことは他動詞になってい ることより多い。	「中国語で形容詞に所 属し、日本語で自動詞 に所属する日中同形語 が一定数存在する」と いうことは言えるが、 漢語全体をどの程度占 めるかは分からない。



林姿里（1982）と戚国福（1999）はともに辞典（あるいはその付録）から二字同形漢語を抽出し、それらの語は中国語においてどの品詞に所属するかという視点から考察するものである。辞典（あるいはその付録）から大量の語例を集め、中日両言語の品詞転換における全体的な傾向を概観することができるが、分野と使用頻度から見ると、馴染みのない語例が数多く占めていることは否めないであろう。それに対し、村木新次郎（2009）は辞典と中国語検定試験の語彙表を調査範囲とし、そこから中国語において形容詞に属する語を抽出し、それらの語は日本語においてどの品詞に所属するのかという視点から考察するものである。しかし、中国語の形容詞が日本語の動詞に対応するという一つのタイプのみ取り上げられ、中国語の形容詞が日本語においてどの品詞に所属するかについて全般的な傾向が見られない。

また、品詞の判定に関して、いずれの先行研究も辞典を判定基準にするものである。ところが、辞典だけでなく、コーパスも合わせて考察する方がより実際の語彙状況に近づけるのではないかと考えられる。

### 2.3 まとめ

本章では、中国語と日本語における形容詞とは何か、その分類と特徴を整理する上に、判定方法も考案してみた。また、中日同形語に関する先行研究についても検討した。

まず、中国語と日本語における形容詞に関する先行研究を踏まえ、本研究における形容詞の範疇を次のように確定した。

- 中国語では、文中で担う機能の違いによる分類に従い、一般形容詞と非述形容詞の二種類にした。





- 日本語では、村木新次郎（2012）の分類に従い、(I)第一形容詞、(II)第二形容詞、(III)第三形容詞、(IV)第二形容詞/第三形容詞、(V)規定用法のみの形容詞の五種類にした。


本研究における中国語と日本語の形容詞に関する定義、種類、機能について、次の表 2-9 のようにまとめてみる。

表 2-9 本研究における中日の形容詞の比較

言語	中国語		日本語				
定義	物事の性質・状態や人の感覚・感情などを表す		事物・事柄の性質・状態や人の感覚・感情などを表す				
分類	一般形容詞	非述形容詞	(I)	(II)	(III)	(IV)	(V)
機能	定語、述語、 状語、補語 になり、主 語や賓語に もなる	定語のみ	規定用法 述語用法 修飾用法				規定用法のみ
語例	勤勉	大型	騒々し	曖昧	一流	独特	人造

表 2-9 から分かるように、中国語と日本語における形容詞は大まかに言えばともに物事の性質・状態や人の感覚・感情などを表す言葉である。分類について、それぞれ文中で果たす機能の違いによって、中国語は一般形容詞と非述形容詞に分けられ、日本語は(I)第一形容詞、(II)第二形容詞、(III)第三形容詞、(IV)第二形容詞/第三形容詞、(V)規定用法のみの形容詞に分けられる。

機能について、中国語の一般形容詞は定語になることが日本語の規定用法に相当し、述語になることが述語用法に相当し、状語と補語になることが修飾用



法に相当することが分かった。しかし、中国語の一般形容詞は前述した用法の他に、主語や賓語にもなることができるという点では、日本語の形容詞と異なっている。日本語の形容詞は主語や目的語になるには「こと」や「の」を用いるとい名詞化の手続きを必要とするのに対し、中国語の形容詞はそのまま主語や賓語になることが可能であるため、名詞化の手続きを必要としない。これは中日両言語の形容詞の機能における大きな相違であると言えるだろう。

また形容詞の判定について、中国語では朱徳熙（1982）、輿水優（1985）が指摘した形容詞と動詞の語法特徴によって形容詞に属する語例を抽出することができる。それに対し、日本語では辞典のほか、コーパスも用いることにする。コーパスにおける例文の統語的な特性によって形容詞を判別することができると考えたためである。

次に、中日同形語に関する研究について、林姿里（1982）、戚国福（1999）、村木新次郎（2009）を取り上げ、検討してみた。以上三つの先行研究を通し、中日両言語における形容詞の品詞転換について次の三点が述べられる。

- ① 形容動詞になる中日同形語を分析する際、語構成という観点からあまり体系的な結果が見られず、語彙自身が持っている情態性概念に重点を置くべきである。
- ② 中国語では形容詞に属する二字漢語動詞は日本語において、形容詞（ここは広義の形容詞と指す）としては用いられないことがある。学習者はこのような漢語動詞を形容詞として誤用する可能性が高い。
- ③ 中国語で形容詞に属する語が日本語の漢語動詞になる場合、自動詞になることは他動詞になることより多い。それは恐らく中国語の形容詞も日本語の自動詞も目的語（中国語では「賓語」）を取れない

ためであろう。また、このような中日同形漢語動詞は一定数存在すると言えるが、漢語全体の中でどの程度を占めるものかは定かではない。



従って、本研究はこれまでの研究成果を踏まえ、村木新次郎（2009）と同様の視点に立ち、学習者には比較的馴染みのある語彙を網羅する「日験出題基準」（から中国語で形容詞に所属するものを抜き出し、日本語においてどの品詞に所属するのかを考察する。全体的な対応傾向を明らかにする上で、ズレが生じる原因を究明し、各対応タイプの特徴も語自身の意味の観点から分析してみる。品詞の判定基準は、辞典のほかにコーパスも参考にする。

### 第三章 調査概要



本研究の調査は次の三段階で進める。(一)「日験出題基準」1・2級の語彙表から中日同形同義二字漢語を抽出する。(二)辞典とコーパスを参考に、＜同形同義＞に属する語の中国語品詞を記述する。(三)中国語では形容詞と記述される同形同義語を、辞書とコーパスを用いて、日本語の品詞を確認し、中国語の品詞との対応傾向を見る。

中日両言語における同形語の意味と品詞を確認するには、中国語は辞典の「教育部重編国語辞典修訂本」、『東方中国語辞典』及びコーパスの「漢語平衡語料庫」を、日本語は辞典の『角川必携国語辞典』、『岩波国語辞典 第六版』及びコーパスの「書き言葉均衡コーパス NLB」を用いることにする。


以下に、この三段階について順を追って具体的に調査概要を述べ、さらに調査結果を分析してみる。

#### 3.1 中日同形同義二字漢語の抽出

調査対象とする中日同形同義二字漢語を抽出するには、「日験出題基準」の1・2級語彙表を用いることにする。なぜなら学習者に触れる機会の高い二字漢語が数多く採録されていると考えたからである。その結果、中国語と同形である二字漢語を3265語<sup>29</sup>抽出することができた。

なお、中国語の「悪魔」と日本語の「悪魔」のような字形の違いは考慮に入らず、同形語と見なす。また、「○的」という形で表記される語（「動的」「静的」「知的」3語ある）は対象外とする。学習者は初めから「的」がつく形で習得したのであれば、後続の名詞を修飾する際に、「一的な」という形を用いることに疑問は恐らく生じないだろうと考えられる。

<sup>29</sup> 「重複」という語は「ちょうふく」「じゅうふく」とも読まれ、語彙表に2回載っているが、ここでは1語として数える。



次に、辞典とコーパス<sup>30</sup>を用い、中日同形二字漢語 3265 語を〈同形同義〉、〈類形同義〉、〈同形異義〉<sup>31</sup>、〈日本語特有〉の四種類に分け、〈同形同義〉の二字漢語を拾い出すことにする。ただし、次の場合は〈日本語特有〉という類に属することにする。

- 辞典に載っているが、意味が古く現在使われておらず、コーパスにも用例が出ない語。  
例：生徒、家来、利口など
- 辞典に載っているが、コーパスに用例が極めて少ない上に、中国語で他に一般的な言い方がある語。  
例：聖書（中国語では「聖經」）、先輩（中国語では「前輩」）など
- 辞典において、単独の形で載っておらず、三字熟語か四字熟語の形で載っている語。  
例：改悪（辞典では「改悪向善」）、夜行（辞典では「夜行軍」）など

次の表 3-1 は以上を踏まえ、「日験出題基準」から抽出した二字漢語を中国語との同じ意味かどうかによって分類した結果である。

---

<sup>30</sup> 「教育部重編国語辞典修訂本」は言葉の歴史を収めるという目的で編纂される辞典であるので、現在ほぼ使用されていない古い語も採録されている。それを補うため、中央研究院が作成したコーパス「漢語平衡語料庫」と合わせて考察する。

<sup>31</sup> 陳毓敏（2003）によると、日中同形語の研究は大まかに言って同形同義語、同形異義語 2 種類に分けることができる。同形類義語は大抵同形同義語か異義語のどちらかの範疇に入れられていると述べられている。本研究は陳（2003）の説を参考に、同形類義語を同形異義語の範疇に入れることにした。調査対象は同形同義語を主とするので、分析に影響を与えない意味相違がある語を、程度の差がつかずに異義語の類に入れる便宜的な措置を取るわけである。

表 3-1 本研究における中日同形二字漢語の分類結果

類別	語例	語数	占める率 (%)
同形同義	表情	2395	73.3%
類形同義	段階	107	3.3%
同形異義	暗算	246	7.5%
日本語特有	愛想	518	15.9%
合計		3266	100%

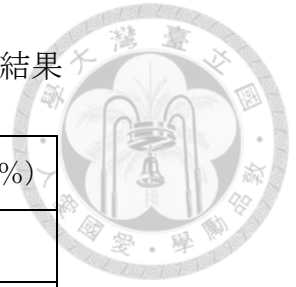


表 3-1 から分かるように、〈同形同義〉に属する中日同形二字漢語は最も多く、〈類形同義〉のそれと合わせて全体の 8 割近くを占めている。

### 3.2 品詞判定

本節では、前節で意味を考察した四種類の中で〈同形同義〉に属する 2395 語の中国語品詞を確認し、形容詞に属する同形同義語を抽出し、日本語においてどの品詞に属するかを調べる。中国語と日本語の品詞判定の詳細は 3.2.1 と 3.2.2 で述べる。

#### 3.2.1 中国語における同形同義語の品詞

〈同形同義〉に属する 2395 語は中国語においてどの品詞に属するかを、辞典とコーパスを用い、両方とも品詞が同じであるものだけを採用する。ただし、「漢語平衡語料庫」では一般形容詞が状態動詞と記されるものに含まれているので、表 2-1 (p. 11) で示した中国語における形容詞と動詞の区別を参照し、一般形容詞を確認する。



なお、次のように示す品詞の認定に問題があるもの 43 語と確認できないもの 27 語を調査対象から除く。

- 辞典とコーパスに品詞標示が不一致になる語 (43 語)  
意外、永久、基本、共通、公用、故障、個別、失礼、終日、執着  
上等、私立、新婚、親善、垂直、正規、正式、単独、中立、定期  
適度、適用、徹夜、同一、同等、堂々、同様、独裁、不可、不在  
不利、平行、飽和、没落、密集、無限、無数、野生、有益、優先  
有望、悠々、有利
- 辞典に見つからず、コーパスにおいてだけ見つかる語 (23 語)  
有無、快適、過剰、過労、簡素、喫茶、共学、共感、強力、国定  
極楽、最終、清純、適性、適切、特有、年長、微量、不吉、無礼  
未知、無言、良質
- コーパスに見つからず、辞典においてだけ見つかる語 (2 語)  
窮乏、不順
- 辞典にもコーパスにも見つからない語 (2 語)  
過密、必死

以上のように考察に適さない 70 語を除き、残りの 2325 語の中国語品詞を判定した結果、次の表 3-2 となる。

表 3-2 中国語における＜同形同義＞語の品詞

中国語品詞	語例	語数	占める率 (%)
ア. 名詞	表情	1224	53.4%
イ. 動詞及び動詞兼他品詞	暗殺	856	36.2%
ウ. 形容詞及び形容詞兼他品詞	曖昧	221	9.4%
エ. 副詞及び副詞兼他品詞	大抵	23	1.0%
オ. 助詞	云云	1	—
合計		2325	100%

表 3-2 から分かるように、中国語において名詞になる語（ア類）は約 5 割、動詞及び動詞兼他品詞になる語（イ類）は約 4 割弱、形容詞及び形容詞兼他品詞になる語（ウ類）は約 1 割を占めている。この 1 割の詳細については表 3-3 のように示しておく。

表 3-3 ウ類（形容詞及び形容詞兼他品詞）の詳細

ウ 類	中国語品詞	語例	語数	占める率 (%)
	形	曖昧	151	68.3%
	形・名	安全	20	9%
	形・動	豊富	36	16.3%
	形・副	特別	12	5.4%
	形・副・名	自然	2	1%
	合計		221	100%

表 3-3 から、ウ類の中で形容詞に属する語は約 7 割を占めており、形容詞兼他品詞に属する語は合わせて 3 割を占めていることが分かった。





### 3.2.2 日本語におけるウ類の同形同義語の品詞

表 3-3 から中国語においてウ類（形容詞及び形容詞兼他品詞）に属する語は 221 語あると分かったが、以下は其中で形容詞に属する 151 語に焦点を当て、日本語での品詞を検討してみる。品詞標示は『角川必携国語辞典』及び『岩波国語辞典 第六版』を用い、両方とも同じであるものだけを採用するが、辞典のみで明確にできないもの（例えば(Ⅲ)第三形容詞と(V)規定用法のみの形容詞）についてはさらにコーパス「書き言葉均衡コーパス NLB」を利用して記述する。その結果は表 3-4 に示す。

表 3-4 日本語において形容詞に属する 151 語の品詞

中国語品詞	日本語品詞	語例	語数	占める率(%)
形容詞	形容詞の用法が見られる	曖昧	129	85.5%
	形容詞の用法が見られない	一致	22	14.5%
総語数/合計(%)			151	100%

表 3-4 が示したように、この 151 語は日本語において形容詞の用法が見られるものと見られないものの二種類に大別することができる。前者は 129 語あり、85.5%を占めているのに対し、後者は 22 語あり、14.5%を占めていることが分かった。中国語においては形容詞であるにもかかわらず、日本語においては形容詞の用法が見られず、全く異なった品詞になるこの 14.5%は、学習者にとって非常に混乱しやすいのではないかと考えられる。



### 3.3 対応傾向

中国語において形容詞に属する 151 語は日本語において、大きく形容詞の用法が見られるものと見られないものに分けることができたが、それぞれにどのような対応傾向が表されているか、次の表 3-5 のように示す。

表 3-5 中日同形同義二字漢語形容詞と同形日本語の品詞対応

中国語品詞	日本語品詞	タイプ	語例	語数	占める率 (%)	グループ
形容詞	(Ⅱ) 第二形容詞	【A】	曖昧	24	15.9%	形容詞の用法が見られる 85.5% (129 語)
	(Ⅱ) 第二形容詞・名詞	【B】	幸福	25	16.5%	
	(Ⅲ) 第三形容詞	【C】	一流	7	4.6%	
	(Ⅲ) 第三形容詞・名詞	【D】	日常	3	1.9%	
	(Ⅳ) 第二形容詞/第三形容詞	【E】	善良	19	12.6%	
	(Ⅳ) 第二形容詞/第三形容詞・名詞	【F】	幸運	33	21.8%	
	(Ⅳ) 第二形容詞/第三形容詞・名詞・動詞	【G】	不足	2	1.3%	
	(Ⅴ) 規定用法のみの形容詞	【H】	客観	15	9.9%	
	(Ⅴ) 規定用法のみの形容詞・動詞	【I】	複合	1	1.0%	
	名詞	【J】	反感	4	2.6%	
動詞・名詞	【K】	一致	18	11.9%	14.5% (22 語)	
総語数/合計 (%)				151	100%	

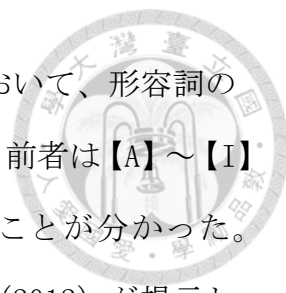


表 3-5 から、中国語では形容詞に属する 151 語は日本語において、形容詞の用法が見られるグループと見られないグループに分けられる。前者は【A】～【I】の 9 タイプを持ち、後者は【J】【K】の 2 タイプを持っていることが分かった。

形容詞の用法が見られるグループにおいては、村木新次郎（2012）が提示した形容詞の分類の（Ⅱ）第二形容詞、（Ⅲ）第三形容詞、（Ⅳ）第二形容詞/第三形容詞、（Ⅴ）規定用法のみの形容詞の【A】【C】【E】【H】4 タイプがある。そして名詞を兼ねる【B】【D】【F】3 タイプもある。また、【G】タイプは唯一三つの品詞を有するタイプであり、【I】タイプは（Ⅴ）規定用法のみの形容詞・動詞のタイプで、「複合」1 語のみある。

語数から見ると、【A】【B】【E】【F】の 4 タイプは他のタイプより語例を比較的多く有し、全体を占める率がいずれも 10%を超えている。その中で（Ⅳ）第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプは数が最も多く、33 語ある。ただし、一般に名詞と扱われてきた（Ⅴ）規定用法のみの形容詞の【H】タイプも 15 語あり、1 割近くを占めていることは見逃してはならない。

一方、形容詞の用法が見られないグループにおいては、日本語において名詞に属する【J】と動詞・名詞に属する【K】の 2 タイプがあるが、前者より後者の方が有している語例が大幅に上回っていることが分かった。すなわち、中国語では形容詞に属するものは日本語において品詞のズレが生じる際、名詞になる場合より動詞・名詞になる場合の方が多いということが言えるだろう。

林姿里（1982）の調査結果により、中国語の形容詞が日本語において品詞のズレが最も生じやすいパターンは、中国語の形容詞から日本語の名詞になることが見受けられる。しかし本研究では、従来名詞と扱われてきた（Ⅲ）第三形容詞や（Ⅴ）規定用法のみの形容詞の観点から調査に入れて考察してみると、中日両言語の品詞対応にズレが最も生じやすいパターンは日本語の名詞になるのではなく、動詞になるということが、今回の調査を通して得られた重要な成果であ

ると言えるだろう。

第四章では表 3-5 に従い、中国語では形容詞に属する 151 語は日本語において、形容詞の用法が見られるグループと見られないグループ分け、それぞれが持つタイプにおける語例の傾向や特徴、品詞転換におけるズレの有無の原因を検討し、具体的な分析を行いたい。



## 第四章 考察と分析



本章では、前章で得た調査結果（表 3-5 を参照）を踏まえ、中国語と日本語の品詞対応にズレが生じる原因を検討し、各対応タイプに属する語の特徴を分析してみる。しかし先行研究では、語構成という観点からあまり体系的な結果が見られないという指摘があることに鑑み、本研究では意味という視点から捉えることにする。『分類語彙表 増補改訂版』（2004）（以下「分類語彙表」のみと称する）を通し、【A】～【K】の 11 タイプに属する語の意味合いを調べ、各タイプの傾向を考察してみる。4.1 では日本語において形容詞の用法が見られるグループ、4.2 では日本語において形容詞の用法が見られないグループについて考察を行う。

### 4.1 日本語において形容詞の用法が見られるグループ

本節ではこのグループに属する【A】～【I】の 9 タイプについて、語例の意味合いを調査し、傾向を見出す。また、その中の(IV)第二形容詞/第三形容詞に属する【E】、及び(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプについて、後続の名詞を修飾する際、「-な/-の」のゆれにどのような傾向があるかを調べる。それぞれの考察は 4.1.1 と 4.1.2 で述べる。

#### 4.1.1 意味合い

このグループに属するタイプは【A】～【I】の 9 タイプあり、計 129 語ある。以下は順を追って考察する。

【A】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅱ)第二形容詞</u>	24 語
【B】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅱ)第二形容詞・名詞</u>	25 語
【C】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅲ)第三形容詞</u>	7 語
【D】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅱ)第三形容詞・名詞</u>	3 語
【E】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞</u>	19 語
【F】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞・名詞</u>	33 語
【G】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞・名詞・動詞</u>	2 語
【H】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅴ)規定用法のみの形容詞</u>	15 語
【I】	[中] 形容詞 → [日] <u>(Ⅴ)規定用法のみの形容詞・動詞</u>	1 語

後述の考察では、各タイプに属する語に対し、「分類語彙表」を用い、意味的範疇がより広い概念から順に、部門・中項目・分類項目の所属を調べ、表にまとめる。<sup>32</sup>意味の所属の表記は [ ] を部門、< > を中項目、( ) を分類項目と表す。他のタイプにおいても同じ表記で記す。

#### 【A】 [中] 形容詞 → [日] (Ⅱ)第二形容詞 (24 語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(Ⅱ)第二形容詞に属する【A】タイプは24語ある。「分類語彙表」において、各語の意味所属は部門別により、以下の表[A]-1、表[A]-2、表[A]-3、表[A]-4に分けてまとめる。

<sup>32</sup> 「分類語彙表」によると、分類番号の整数位にあたる体・用・相の各類の中に、大きな意味的まとまりとして、「抽象的關係」、「人間活動の主体」、「人間活動—精神及び行為」、「生産物及び用具」、「自然物及び自然現象」という五つの部門が設けられ、小数点以下一けた目の数字で表される。(順を追って1、2、3、4、5という数字を五つの部門にあてる) 各部門はさらに中項目と分類項目によって細分される。本研究は調査にあたって、各タイプの意味的範疇の傾向を見出すため、整数位にあたる類を考慮に入れず、語の分類番号の小数点以下一けた目の数字から記すことにする。




表[A]-1 部門1 [抽象的關係] (8語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	円満	. 1346(難易・安危)	. 13<様相>
2	簡易	. 1346(難易・安危)	
3	簡単	. 1346(難易・安危)	
4	強烈	. 1400(力)	. 14<力>
5	猛烈	. 1400(力)	
6	敏感	. 1612(毎日・毎度)	. 16<時間>
7	円滑	. 1500(作用・変化) . 1520(進行・過程・経由)	. 15<作用>
8	温和	. 1915(寒暖)	. 19<量>

部門1 [抽象的關係] に属する語は8語あり、「円満」「簡易」「簡単」「強烈」「猛烈」「敏感」「円滑」「温和」である。中項目から見ると、<様相>、<力>、<時間>、<作用>、<量>の五種類に分けられるが、<様相>と<力>に属する語は比較的多い。特に<様相>に属する3語はいずれも(難易・安危)という意味を表している。

表[A]-2 部門3 [人間活動—精神及び行為] (14語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	痛切	. 3001(感覚)	. 30<心>
2	曖昧	. 3068(詳細・正確・不思議)	
3	厳密	. 3068(詳細・正確・不思議)	
4	頻繁	. 3000(心)	
5	巧妙	. 3421(才能)	. 34<行為>
6	頑固	. 3420(人柄)	
7	軽率	. 3420(人柄)	



8	強硬	. 3430(行為・活動)	. 34<行為>
9	大胆	. 3430(行為・活動)	
10	勇敢	. 3430(行為・活動)	
11	盛大	. 3300(文化・歴史・風俗)	. 33<生活>
12	謙虚	. 3680(待遇・礼など)	. 36<待遇>
13	率直	. 3100(言語)	. 31<言語>
		. 3420(人柄)	. 34<行為>
14	豪華	. 3300(文化・歴史・風俗)	. 33<生活>
		. 3790(貧富)	. 37<経済>

部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は14語あり、「痛切」「曖昧」「厳密」「頻繁」「巧妙」「頑固」「軽率」「強硬」「大胆」「勇敢」「盛大」「謙虚」「率直」「豪華」である。これは部門1 [抽象的關係] に属する語よりほぼ二倍弱になっている。中項目から見ると、<心>、<行為>、<生活>、<待遇>、<言語>、<経済>の六種類に分けられる。その中で、<心>と<行為>に属する語は比較的多い。前者は（詳細・正確・不思議）という意味に、後者の意味は（人柄）と（行為・活動）という意味に集中するよう見られる。

表[A]-3 部門1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	奇妙	. 1331(特徴)	. 13<様相>
		. 3068(詳細・正確・不思議)	. 30<心>



表[A]-4 部門 1/3/5 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] [自然物及び自然現象] (1 語)

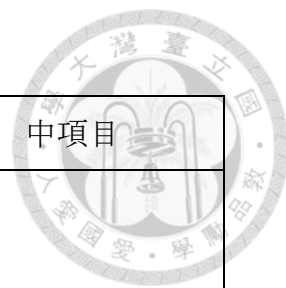
番号	語例	分類項目	中項目
1	柔軟	. 1500(作用・変化) . 3680(待遇・礼など) . 5060(材質)	. 15<作用> . 36<待遇> . 50<自然>

表[A]-3 と表[A]-4 で示した「奇妙」、「柔軟」という 2 語は、複数の部門の意味を持つ語である。「奇妙」は部門 1 [抽象的關係] と部門 3 [人間活動－精神及び行為] に属し、「柔軟」はこの二つの他に、部門 5 [自然物及び自然現象] にも属している。しかし、中項目と分類項目から見ると、二つの語の所属は別々であり、重なる部分はないという点では、何らかの傾向があるとは明確に言えないであろう。

【A】タイプでは、部門 3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は部門 1 [抽象的關係] に属する語より大幅に上回っていることが見られる。また、語の意味は<行為>、<心>、<様相>、<力>に集中し、細かく分けると(行為・活動)、(人柄)、(詳細・正確・不思議)、(難易・安危)、(力)が挙げられる。

【B】[中] 形容詞 → [日] (II)第二形容詞・名詞 (25 語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(II)第二形容詞・名詞に属する【B】タイプは 25 語ある。「分類語彙表」において、これらの語の意味所属は部門別により、以下の表[B]-1、表[B]-2、表[B]-3 に分けてまとめる。

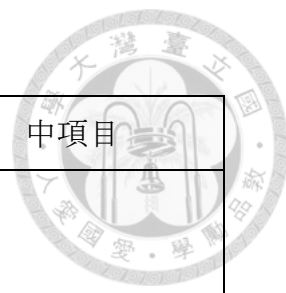


表[B]-1 部門1 [抽象的關係] (12語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	多様	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	. 13<様相>
2	簡潔	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	
3	精巧	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	
4	単純	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	
5	複雑	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	
6	優美	. 1345(美醜)	
7	危険	. 1346(難易・安危)	
8	緊急	. 1346(難易・安危)	
9	単調	. 1302(趣・調子)	
10	直接	. 1110(関係)	. 11<類>
11	正常	. 1030(真偽・是非)	. 10<真偽>
12	露骨	. 1210(出没)	. 12<存在>

部門1 [抽象的關係] に属する語は12語あり、「多様」「簡潔」「精巧」「単純」「複雑」「優美」「危険」「緊急」「単調」「直接」<sup>33</sup>「正常」「露骨」である。中項目から見ると、<様相>、<類>、<真偽>、<存在>の四種類に分けられるが、「直接」と「正常」と「露骨」という3語以外、ほかの9語はすべて<様相>に属している。またこの9語の中で、(弛緩・粗密・繁簡) という意味を表す語は最も多く、5語で半数を占めている。

<sup>33</sup> 本研究で調査対象になっている151語の中で、日本語では(Ⅱ)第二形容詞・名詞・副詞という三重品詞を持つ唯一の1語である。しかし、「直接」の副詞の働きは後続の名詞を修飾することには関わりを持たないと考え、便宜上この1語を独立の一タイプとして立てず、【B】タイプに入れて考察することにした。



表[B]-2 部門3 [人間活動－精神及び行為] (12語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	愉快	. 3011(快、喜び)	. 30<心>
2	冷静	. 3013(安心、焦燥、満足)	
3	詳細	. 3070(意味・問題・趣旨など)	
		. 3068(詳細・正確・不思議)	
4	勤勉	. 3040(信念・努力・忍耐)	. 36<待遇>
5	公正	. 3610(公式・公平)	
6	公平	. 3610(公式・公平)	
7	残酷	. 3680(待遇・礼など)	. 33<生活>
8	幸福	. 3310(人生・禍福)	
9	親切	. 3020(好悪・愛憎)	. 30<心>
		. 3680(待遇・礼など)	. 36<待遇>
10	自在	. 3045(意志)	. 30<心>
		. 3610(公式・公平)	. 36<待遇>
11	慎重	. 3068(詳細・正確・不思議)	. 30<心>
		. 3420(人柄)	. 34<行為>
12	滑稽	. 3075(説・論・主義)	. 30<心>
		. 3420(人柄)	. 34<行為>

部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は、「愉快」「冷静」「詳細」「勤勉」「公正」「公平」「残酷」「幸福」「親切」「自在」「慎重」「滑稽」という12語あり、部門1 [抽象的關係] に属する語と同様の数を占めている。分類項目から見ると、個々の単語の意味がばらついているように見えるが、中項目から見るとほとんどの語は<心>という意味に集中している。また、この12語の中で二つの意味を持っている語は6語あり、全体の二分の一を占めていることが分か



った。【B】タイプにおいて部門3〔人間活動－精神及び行為〕という意味を持つものは多義語がやや多いという可能性があるだろう。

表[B]-3 部門1/3/5〔抽象的關係〕〔人間活動－精神及び行為〕〔自然物及び自然現象〕1語

番号	語例	分類項目	中項目
1	清潔	. 1345(美醜) . 3334/. 3330(保健・衛生) . 5060(材質)	. 13<様相> . 33<生活> . 50<自然>

【B】タイプにおいて複数の部門の意味を持つ語は「清潔」1語のみである。中項目から見ると、<様相>、<生活>、<自然>という三つの意味を有する。

全体的に言うと、【B】タイプの25語の意味合いは主に〔抽象的關係〕と〔人間活動－精神及び行為〕という両部門に属していると言えよう。二つの部門に属する語数も同じである。しかし、前者は語の意味から見ると<様相>に集中し、すべて一義語であるが、後者は<心>に集中し、多義語がやや多いという相違が見られる。

### 【C】〔中〕形容詞 → 〔日〕Ⅲ第三形容詞 (7語)

中国語では形容詞に属し、日本語ではⅢ第三形容詞に属する【C】タイプは、基本的に文において主語や目的語になりにくい上、「の」を用いて後続の名詞を限定することが原則となっている。【C】タイプに属する語は7語あり、その中で「慢性」と「唯一」は中国語において一般形容詞ではなく、非述形容詞であることを、語例の前に\*をつけて示す。(他のタイプにある非述形容詞に属する語も同様に同じ表記で示す)

以下は、「具体」という語は「分類語彙表」に載っていないため、残りの6語の意味所属を調べた結果は部門別により、表[C]-1、表[C]-2に分けてまとめる。



表[C]-1 部門1 [抽象的關係] (4語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	一流	. 1101(等級・系列)	. 11<類>
2	一般	. 1130(異同・類似)	. 11<類>
		. 1331(特徴)	. 13<様相>
		. 1940(一般・全体・部分)	. 19<量>
3	*慢性	. 1330(性質)	. 13<様相>
		. 1611(時機)	. 16<時間>
4	*唯一	. 1940(一般・全体・部分)	. 19<量>

部門1 [抽象的關係] に属する語は4語あり、「一流」「一般」「慢性」「唯一」である。中項目から見ると、<類>、<様相>、<量>に集中するよう見られる。

表[C]-2 部門3 [人間活動－精神及び行為] (2語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	驚異	. 3002(感動・興奮)	. 30<心>
2	万能	. 3421(才能)	. 34<行為>
		. 3852(扱い・操作・使用)	. 38<事業>

部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は「驚異」と「万能」という2語である。中項目や分類項目から見ると、特に何かの意味に集中するようは見られない。

【C】タイプは、[抽象的關係]に属する語が4語、[人間活動－精神及び行為]に属する語が2語あるが、複数の部門の意味を持つ語はないということが分かった。また、一般形容詞の「一般的」「驚異的」などのように、(Ⅲ)第三形容詞に接尾辞「的」がつくものもあるが、それに対して非述形容詞の「慢性」「唯一」などには接尾辞「的」がつく可能性が低いと思われる。語例がやや少ないのは否めないが、【C】タイプにおいて接尾辞「的」は一般形容詞につきやすく、非述形容詞につきにくいという傾向があるのではないだろうか。

【D】[中]形容詞→[日](Ⅲ)第三形容詞・名詞 (3語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(Ⅲ)第三形容詞・名詞に属する【D】タイプは3語あり、いずれも中国語では非述形容詞である。「分類語彙表」において、各語の意味所属を部門別に、次の表[D]-1、表[D]-2にまとめる。

表[D]-1 部門1 [抽象的關係] (2語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*日常	.1600(時間)	.16<時間>
2	*初歩	.1651(終始)	

表[D]-2 部門3 [人間活動－精神及び行為] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*全盛	.3790(貧富)	.37<経済>

【D】タイプに属する「日常」「初歩」「全盛」3語は(Ⅲ)第三形容詞の働きがある他に、「－が」「－を」の形をとり主語や目的語になるという名詞たる機能も持っている。

その中で、「日常」「初歩」はともに部門1 [抽象的關係] に属し、中項目では<時間>に属している。(Ⅲ)第三形容詞に属する【C】タイプの「慢性」と合わせてみると、中国語では非述形容詞に属する語で、日本語では(Ⅲ)第三形容詞の品詞性を持つものは、<時間>に関わる意味を持つものが多い可能性があるだろう。

【D】タイプに属する語は(Ⅲ)第三形容詞の他に、名詞としての機能も果たすことが可能である。ただし、【D】タイプに属するこの3語は、いずれも単に本来の意味を概念化したものだけではなく、はっきり言わずとも聞き手に伝えられる具体的意味を持つ表現を省略した形で指すものでもある。次の例文を見れば分かるであろう。

- (1) お兄ちゃんは父親とマリアの手をとり、三人は大喜びして一緒に家に入っていった。そして何事もなかったように、また日常が始まった。

(『本当は恐ろしいグリム童話』)

- (2) 教えていただいた小倉董子さんは、東京都内のカルチャーセンターで中高年に登山の初歩を教えるなど、山登りの指導に精通している。

(『きほんのき』)

- (3) (宗盛は) 全盛を過ぎて衰亡の坂を転がり始めた平氏を率いて奮闘するが、ついに壇ノ浦に追いつめられ、義経の捕虜となる。

(『平家物語』)

[国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言』より]

(1) の「日常」は「日常の暮らし」や「日常の生活」を意味していることが分かる。(2) の「初歩」は「初歩の知識」に、(3) の「全盛」は「全盛の時代」に置き換えることができるのも明白である。しかし、いずれの例文も「日常の暮らし」「初歩の知識」「全盛の時代」とははっきり言わず、「日常」「初歩」「全盛」

という省略した形をもって表すのは、前後の文脈から十分にその意味が聞き手に理解してもらえらるためであろうと推定される。このような互いに共通した理解がある上での省略した表現は日本語において稀ではなく、ほかに「詳細」「不良」などの語にも同じ用法が見られる。

**【E】 [中] 形容詞→ [日] (IV) 第二形容詞/第三形容詞 (19 語)**

中国語では形容詞に属し、日本語では(IV) 第二形容詞/第三形容詞に属する

**【E】** タイプは 19 語あり、その中で「単一」「高等」「固有」という 3 語が非述形容詞である。「分類語彙表」において、この 19 語の意味所属は部門別により、表[E]-1、表[E]-2、表[E]-3、表[E]-4 に分けてまとめる。

表[E]-1 部門 1 [抽象的關係] (13 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	重大	. 1331(特徴)	. 13<様相>
2	独特	. 1331(特徴)	
3	善良	. 1332(良不良・適不適)	
4	*単一	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	
5	容易	. 1346(難易・安危)	
6	薄弱	. 1400(力)	. 14<力>
7	有力	. 1400(力)	
8	*高等	. 1101(等級・系列)	. 11<類>
9	有効	. 1112(因果)	
10	対等	. 1120(相対)	
11	巨大	. 1912(広狭・大小)	. 19<量>



12	普遍	. 1200(存在)	. 12<存在>
13	*固有	. 1200(存在) . 1331(特徴)	. 12<存在> . 13<様相>

部門1 [抽象的關係] に属する語は最も多く 13 語あり、「重大」「独特」「善良」「単一」「容易」「薄弱」「有力」「高等」「巨大」「有効」「対等」「普遍」「固有」である。中項目から見ると、<様相>、<力>、<類>、<量>、<存在>の五種類に分けられるが、<様相>に属する語は6 語あり、半分近くを占めている。

表[E]-2 部門3 [人間活動—精神及び行為] (3 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	高尚	. 3300(文化・高尚・風俗)	. 33<生活>
2	偉大	. 3420(人柄)	. 34<行為>
3	貴重	. 3710(経済・収支)	. 37<経済>

表[E]-3 部門1/3 [抽象的關係] [人間活動—精神及び行為] (2 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	切実	. 1030(真偽・是非) . 3001(感覚)	. 10<真偽> . 30<心>
2	不当	. 1332(良不良・適不適) . 3610(公式・公平)	. 13<様相> . 36<待遇>

表[E]-4 部門1/5 [抽象的關係] [自然物及び自然現象] (1 語)

1	新鮮	. 1660(新旧・遅速) . 5701(生)	. 16<時間> . 57<生命>
---	----	----------------------------	----------------------



部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は表[E]-2の示した「高尚」「偉大」「貴重」3語ある。また、複数の部門の意味を持つ語には、表[E]-3の持つ「切実」「不当」の2語と、表[E]-4の持つ「新鮮」の1語がある。いずれも中項目と分類項目では、個々の単語の意味にばらつきがある。

【E】タイプにおいて、半数以上の語は [抽象的關係] という意味に集中し、[人間活動－精神及び行為] に属する語を4倍多い。これは [人間活動－精神及び行為] に属する語を多く持つ【A】タイプ（日本語では(Ⅱ)第二形容詞に属する）とは正反対の傾向となっている。しかし、複数の部門の意味を持つ語は少ないという点では、【A】タイプと同様である。

【F】 [中] 形容詞→ [日] (Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞・名詞 (33語)

中国語では一般形容詞に属し、日本語では(Ⅳ)第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプは33語あり、今回の調査における全タイプの中で語例の数が最も多いタイプである。

「分類語彙表」において、この33語の意味所属は部門別により、表[F]-1、表[F]-2、表[F]-3、表[F]-4に分けてまとめる。

表[F]-1 部門1 [抽象的關係] (12語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	特殊	. 1331(特徴)	. 13<様相>
2	普通	. 1331(特徴)	
3	平凡	. 1331(特徴)	
4	妥当	. 1332(良不良・適不適)	
5	良好	. 1332(良不良・適不適)	
6	不便	. 1346(難易・安危)	

7	無効	. 1112(因果)	. 11<類>
8	高級	. 1101(等級・系列)	
9	正当	. 1030(真偽・是非)	. 10<真偽>
10	優秀	. 1584(限定・優劣)	. 15<作用>
11	迅速	. 1913(速度)	. 19<量>
12	貧弱	. 1341(弛緩・粗密・繁簡)	. 13<様相>
		. 1400(力)	. 14<力>
		. 1910(多少)	. 19<量>

部門1 [抽象的關係] に属する語は12語あり、「特殊」「普通」<sup>34</sup>「平凡」「妥当」「不便」「良好」「無効」「高級」「正当」「優秀」「迅速」「貧弱」である。12語中の7語は<様相>という意味に分類され、半数を超えている。分類項目から見ると、(特徴)と(良不良・適不適)という意味が比較的が多い。ほかの語は中項目では<類>や<真偽>や<作用>などの意味に属している。

表[F]-2 部門3 [人間活動－精神及び行為] (15語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	無能	. 3421(才能)	. 34<行為>
2	幼稚	. 3421(才能)	
3	純情	. 3420(人柄)	
4	誠実	. 3420(人柄)	

<sup>34</sup> 本研究の調査対象である151語の中で、日本語では(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞・副詞という三重品詞を持つ唯一の1語である。しかし、「普通」の副詞の働きは後続の名詞の修飾に関わりを持たないと考え、便宜上この1語を独立の一タイプとして立てず、【F】タイプに入れて考察することにした。



5	不安	. 3013(安心・焦燥・満足)	. 30<心>
6	悲惨	. 3012(恐れ・怒り・悔しさ)	
7	正確	. 3068(詳細・正確・不思議)	
8	著名	. 3142(評判)	. 31<言語>
9	有名	. 3142(評判)	
10	幸運	. 3310(人生・禍福)	. 33<生活>
11	神聖	. 3310(人生・禍福)	
12	平等	. 3610(公式・公平)	. 36<待遇>
13	冷酷	. 3680(待遇・礼など)	
14	貧困	. 3790(貧富)	. 37<経済>
15	無知	. 3062(注意・認知・了解)	. 30<心>
		. 3421(才能)	. 34<行為>

部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は15語あり、「無能」「純情」「誠実」「幼稚」「不安」「悲惨」「正確」「著名」「有名」「幸運」「神聖」「平等」「冷酷」「貧困」「無知」である。15語の中で<行為>に属する語はやや多く、(才能)と(人柄)という分類項目の意味を有している。ほかの語は<心>、<言語>、<生活>、<待遇>、<経済>という中項目の意味においてそれぞれ1語か2語ずつ分類されているように見受けられる。

表[F]-3 部門5 [自然物及び自然現象] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	透明	. 5010(光)	. 50<自然>



部門5に属する語は「透明」1語のみである。ここまでの考察では、部門5の意味を持つ語は大抵部門1か3の意味も兼ねるということから、「透明」はかなり独特な語例であると言えるだろう。

表[F]-4 部門1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (5語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	神秘	. 1030(真偽・是非) . 3310(人生・禍福)	. 10<事柄> . 33<生活>
2	不振	. 1302(趣・調子) . 3790(貧富)	. 13<様相> . 37<経済>
3	孤独	. 1940(一般・全体・部分) . 3410(身上)	. 19<量> . 34<行為>
4	重要	. 1040(本体・代理) . 3070(意味・問題・趣旨など)	. 10<真偽> . 30<心>
5	精密	. 1341(弛緩・粗密・繁簡) . 3068(詳細・正確・不思議)	. 13<様相> . 30<心>

複数の部門の意味を持つ語は「神秘」「不振」「孤独」「重要」「精密」という5語である。中項目から見れば、一つの意味に集中してはいないが、いずれも[抽象的關係]と[人間活動－精神及び行為]の両部門の意味を持っている。

【F】タイプは主に[抽象的關係]と[人間活動－精神及び行為]という両部門に属する語を有している。中項目から見ると、前者は<様相>、後者は<行為>に集中している。また、複数の部門の意味を持つ語は今回調査結果の11タイプの中で数が最も多く、いずれも[抽象的關係]と[人間活動－精神及び行為]という両部門の組み合わせである。

【G】[中] 形容詞→[日] (IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞・動詞 (2語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞・動詞に属する【G】タイプは「謙遜」と「不足」という2語のみを持ち、今回の調査で唯一の三重品詞のタイプである。品詞の組み合わせが複雑なだけに、学習者にとって把握しにくいタイプであると推測される。

「分類語彙表」において、これらの語の意味所属は部門別により、表[G]-1、表[G]-2に分けてまとめる。

表[G]-1 部門3 [人間活動－精神及び行為] (1語)

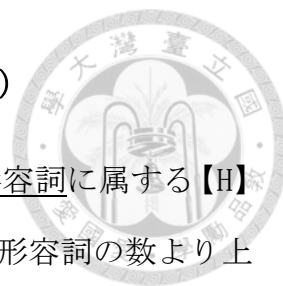
番号	語例	分類項目	中項目
1	謙遜	.3041(自信・誇り・恥・反省) .3680(待遇)	.30<心> .36<待遇>

表[G]-2 部門1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	不足	.1931(過不足) .3013(安心・焦燥・満足)	.19<量> .30<心>

表[G]-1と表[G]-2から分かるように、「分類語彙表」による意味の分類から見ると、「謙遜」と「不足」という2語はどちらも多義語であることが分かった。一つ以上の意味を持つ語は多重の品詞性を持つ可能性が高いと言えよう。二つの品詞を持つ【B】、【F】タイプにも同じような傾向が見られる。

一つの語は単一品詞であるか、多重品詞であるか、意味の多寡に関わりがあると垣間見ることができるにもかかわらず、多重品詞を用いて文を作る際にどの品詞を選択するか、語自身の意味を通じて判断するのは現段階ではまだ難しいと言わざるを得ないだろう。このような多重品詞の語例をさらに多く集める上での考察が望まれる。



## 【H】[中] 形容詞→[日] (V)規定用法のみの形容詞 (15 語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(V)規定用法のみの形容詞に属する【H】タイプは 15 語ある。その中で、非述形容詞が 9 語あり、一般形容詞の数より上回る唯一のタイプである。

「分類語彙表」において、この 15 語の意味所属は部門別により、次の表[H]-1、表[H]-2、表[H]-3、表[H]-4、表[H]-5 に分けてまとめる。

表[H]-1 部門 1 [抽象的關係] (6 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	实用	. 1113(理由・目的・証拠)	. 11<類>
2	*現行	. 1200(存在)	. 12<存在>
3	*新興	. 1211(発生・復活)	
4	*国立	. 1220(成立)	
5	原始	. 1623(時代)	. 16<時間>
6	立体	. 1820(玉・凹凸・うず・しわなど)	. 18<形>

部門 1 [抽象的關係] に属する語は 6 語あり、「实用」「現行」「新興」「国立」「原始」「立体」である。中項目では、<存在>という意味を表す語は 3 語あり、半数を占めている。

表[H]-2 部門 3 [人間活動－精神及び行為] (5 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*法定	. 3067(決心・解決・決定・迷い)	. 30<心>
2	客観	. 3070(意味・問題・趣旨など)	
3	合理	. 3071(論理・証明・偽り・誤り・訂正など)	

4	専制	.3600(支配・政治)	.36<待遇>
5	*人造	.3860(製造・加工・包装)	.38<事業>

部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は5語があり、「法定」「客観」「合理」「専制」「人造」である。中項目から見ると、<心>という意味に集中するように見受けられる。

表[H]-3 部門5 [自然物及び自然現象] (2語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*天然	.5000(自然)	.50<自然>
2	*有機	.5100(物体・物質)	.51<物質>

表[H]-4 部門4 [生産物及び用具] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*国産	.4020(産物)	.40<物品>

表[H]-5 部門2/3 [人間活動の主体] [人間活動－精神及び行為] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*公共	.2500(公私) .3610(公式・公平)	.25<公私> .36<待遇>

表[H]-3で示した「天然」「有機」という2語は部門5 [自然物及び自然現象] に属し、中項目の<自然>と<物質>に属する。表[H]-4の「国産」は部門4 [生産物及び用具] に属し、表[H]-5の「公共」は部門2 [人間活動の主体] 及び部門3 [人間活動－精神及び行為] の二つの部門の意味を持つ。

上記の五つの表から、【H】タイプは「分類語彙表」の設けた五つの部門の全てに語を有していることが分かった。これは日本語において形容詞の用法が見



られるグループにおいて、ほぼ部門1 [抽象的關係] と部門3 [人間活動—精神及び行為] のどちらかに属する他の8タイプとは異なり、【H】タイプはいずれの部門の意味にも傾かないことを示している。また、中項目と分類項目においても、他の8タイプが示している意味合いと比べ、【H】タイプはそれらと重複している所が少ないということから、同じ形容詞の用法を持つにもかかわらず、意味合いの範疇に顕著な相違があることが窺われる。

なお、接尾辞「的」との連用についても少し述べてみよう。15語の中で、「的」がつくことができるのは6語あり<sup>35</sup>、いずれも中国語では一般形容詞に属する。ただし、接尾辞「的」が付くかによって、後続の名詞を限定するニュアンスが違ってくるため、<sup>36</sup>意味の移行を考えた上での使用が必要になると考えられる。

それに対し、「的」がつくことができないのは9語あり、いずれも中国語では非述形容詞に属する。つまり、日本語において(V)規定用法のみの形容詞になる一般形容詞には「的」がつきやすく、非述形容詞には「的」がつきにくいと言えよう。

(V)規定用法のみの形容詞に属するものといえども、「的」がつけられるものがあれば、つけられないものもある。なぜこのような違いが生じるのかについては、恐らく中国語の意味と性質に関わりがあるのではないかと推測する。

中国語では一般形容詞である「実用」「原始」「立体」「客観」「合理」「専制」の6語は意味が比較的抽象的で、非述形容詞である「現行」「新興」「国立」「法定」「人造」「天然」「有機」「国産」「公共」の9語はより具体的であると思われる。つまり、抽象的な意味合いを持つ6語は中国語の一般形容詞の性質を受け

<sup>35</sup> NLBにおける【D】タイプの6語の「-的」用例数は以下のように括弧内の数字で表す。  
実用 (321)、原始 (266)、立体 (238)、客観 (1743)、合理 (1633)、専制 (39)

<sup>36</sup> 岸陽子 (1969) によれば、接尾辞「-的」の用法には次の四種類の意味があるという。

- (1) ～面で/～の上で/～の点で 例：道徳的原理/費用的に難しい
- (2) ～の性質を持っている 例：代表的な食べ物/主観的な評価
- (3) ～にかなう/～に合致する 例：科学的な手段/実用的な材質
- (4) 表そうとする事物のあり方・仕方を修飾する副詞として用いる

例：「おろす」は意識的に下につくまで注意を保って運ぶことです。(情況)

追い越しのときは瞬間的にはいくら高速度を出してもよいことになる(時間)

継ぐことで、ただ後続の事例（名詞）を限定するという働きのみならず、接尾辞「的」の力を借りてその事例を核とするカテゴリーや周辺を聞き手に意識させるという具体的なイメージを与え、さらに述語になることも可能になってくる。それに対し、元から具体的な意味合いを持つ9語は中国語の非述形容詞の性質を受け継ぎ、後続の事例（名詞）を限定するには明確なイメージを与えることができる以上、接尾辞「的」の力を借りずに済むことになるのであろう。

### 【I】[中] 形容詞→[日] (V)規定用法のみの形容詞・動詞 (1語)

中国語では形容詞に属し、日本語では(V)規定用法のみの形容詞・動詞に属する【I】タイプは「複合」1語のみである上、中国語では非述形容詞である。「分類語彙表」においての意味所属は次の表[I]-1に示す。

表[I]-1 部門1 [抽象的關係] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	*複合	.1550(合体・出会い・集合など)	.15<作用>

中国語の非述形容詞が日本語においては、(V)規定用法のみの形容詞のみならず、動詞をも兼ねるのは何故なのか、次の例文からその理由を検討する。

- (1) 近年はテーマパーク的な発想で、観光客の来訪も意図した大型の複合施設の解説がみられる。

(『アーバンツーリズム』)

- (2) 産業革命期のイギリスの状況を見ると、先述の諸矛盾が複合して、大きく二つの原因から公共的介入がはじまっています。

(『公共政策のすすめ』)



- (3) ですからはじめは物理現象、あとは生理的現象と、その二つが複合しているのであろうと推定します。

(『なぜ気功が効くのか』)

[国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言』より]

(1) は(V)規定用法のみの形容詞として用いられる例文で、(2) と (3) は動詞として用いられる例文である。三つの例文の下線部を中国語で訳すと、(1) はそのまま「複合」を非述形容詞として後続の「施設」を修飾するという「複合施設」になるのに対し、(2) は「綜合前述的各項矛盾」になり、(3) は「推測可能是由兩者組合而成」とするのが違和感のない訳であろう。このように、(2) と (3) の中国語の訳には「複合」という語が見当たらず、かわりに「綜合」「組合」という語が用いられている。

例文から分かるように、日本語の「複合」が形容詞である場合、そのまま中国語の「複合」と同じ意味合いを持つ。しかし動詞である場合、中国語の「複合」とではなく、代わりに中国語の「綜合」「組合」と同じ意味合いを持つ。すなわち「複合」は、中国語では形容詞としての働きしか残らず、動詞としての働きが「綜合」や「組合」など別の語で表現されるのに対し、日本語では形容詞と動詞の働きが同一の語で言い表されると言えよう。よって、日本語において動詞をも兼ねる理由はそこにあるのであろう。

#### 4.1.2 「-な/-の」のゆれ

(IV)第二形容詞/第三形容詞とは、規定用法で「-な/-の」のゆれを示すものを指している。このような語は学習者にとって（筆者も含め）正しく用いるのが難しいと思われるため、「-な/-の」のゆれの傾向を調べることで習得のため



の手がかりが得られればと考えた。そこで、(IV)第二形容詞/第三形容詞に属する【E】タイプと(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】について考察する。

まず、【E】タイプの19語は後続の名詞を修飾する際、「-な/-の」のゆれがどのような傾向を示すのか、「書き言葉均衡コーパス NLB」を用いて用例数を調べてみた。「書き言葉均衡コーパス NLB」における「○○な+名詞」と「○○の+名詞」に属する用例数を収集し、次のような不適切なものを削除しておいた結果、表 4-1 に示す。

- (1) 「なんで」「なので」のように名詞を修飾していないもの
- (2) 「なのは」のように準体助詞に修飾しているもの
- (3) 「半透明の-」「男女平等の-」のように前要素がくっついて、一単語となっているもの

表 4-1 NLB における【E】タイプの19語の「-な/-の」用例数

番号	語例	-な	-の	「-な」の比率	番号	語例	-な	-の	「-な」の比率
1	重大	1974	2	99.9%	11	巨大	2510	1	100.0%
2	独特	329	1258	20.7%	12	普遍	1	43	2.3%
3	善良	174	15	92.1%	13	*固有	62	354	14.9%
4	*単一	9	183	4.7%	14	高尚	65	1	98.5%
5	容易	330	1	99.9%	15	偉大	868	0	100.0%
6	薄弱	14	0	100.0%	16	貴重	1861	0	100.0%
7	有力	699	0	100.0%	17	切実	186	0	100.0%
8	*高等	25	4	86.2%	18	不当	525	6	98.9%
9	有効	1142	17	98.5%	19	新鮮	908	1	99.9%
10	対等	164	13	92.7%					

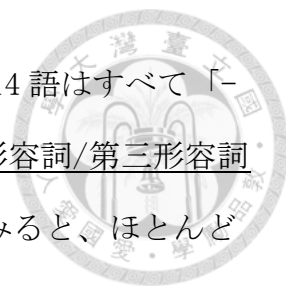


表 4-1 から分かるように、網掛け表示の 5 語以外、ほかの 14 語はすべて「-な」の比率が 90%を超えている。つまり、辞書では(IV) 第二形容詞/第三形容詞と標示される【E】タイプの 19 語は、実際の用例を確認してみると、ほとんどが「-な」の形をとり後続の名詞を修飾している。

また、網掛けの 5 語の中で、「独特」と「普通」は中国語では一般形容詞であるに対し、「単一」「高等」「固有」は非述形容詞である。【E】タイプでは、日本語において(IV) 第二形容詞/第三形容詞に属する非述形容詞がこの 3 語のみであるにもかかわらず、いずれも「-な」の比率が 90%を下回っているということから、非述形容詞の方が一般形容詞より「-の」を使う傾向が高いのではないかと推測される。

ここで、網掛け表示の 5 語をさらに詳しく見てみよう。

- 一般形容詞である「独特」「普遍」

「独特」は後続の名詞を修飾する際に「-な」の形もとるが、「-の」の形をとる場合の方がその 4 倍多いことが分かった。また、意味合いから見れば「分類語彙表」では「重大」と同じ分類にされているが、「重大」は「-な」の形をとり、「独特」は「-の」の形をとっている。「-な」をとるのか「-の」をとるのかについては、その語の持つ意味のみでは判断しにくいことが示唆される。

「普遍」は「独特」とは異なり、「-な」の形をとるのは 1 例のみで、ほぼ「-の」の形をとっている。ただし、実際「普遍的な+名詞」という言い方は殆どされず、接尾辞「的」がつく「普遍的な+名詞」という言い方の方がよくされていることが見られる。（「書き言葉均衡コーパス NLB」では 329 例が載っている）



- 非述形容詞である「単一」「高等」「固有」

表 4-1 から、「高等」より「固有」「単一」の 2 語は「-な」の比率が極めて低いことが分かる。以下、「固有」と「単一」の意味所属を詳しく見る。

「固有」は、分類項目の意味では（存在）と（特徴）を有している。上述した「独特」「普遍」の分類項目の意味と重なっていることが見られる。

「単一」は、分類項目では(II) 第二形容詞・名詞になるタイプの語に多く見られる（弛緩、粗密、繁簡）という意味を持っている。このことから、後続の名詞を修飾する際、意味的には「-な」の形をとるだろうと推測されやすいが、実際は「-の」の形をとる傾向が強いということが実例から見てとれる。

【E】タイプについては、辞典によって規定用法では「-な」と「-の」の両方とも使われると標示されるが、「書き言葉均衡コーパス NLB」を通し実例を調べてみると、「独特」「普遍」「単一」「高等」「固有」の 5 語以外、「-な」の形をとるのが一般的であることが分かった。「-な」か「-の」かどちらの形をとって後続の名詞を修飾するののかについては、語自身の意味のみによって判断することは困難であるように思われる。

次に、日本語では(IV) 第二形容詞/第三形容詞兼名詞に属する【F】タイプの 33 語について、後続の名詞を修飾する際に「-な/-の」のゆれがどのような傾向を示すか、その用例数を調べてみた。【E】タイプと同様、「書き言葉均衡コーパス NLB」における「○○な+名詞」と「○○+の+名詞」の両タイプに属する用例数を収集し、不適切な用例<sup>37</sup>を除いた結果、次の表 4-2 になっている。

<sup>37</sup> 【E】タイプでは不適切なものとする (1) (2) (3) という三種類に (p. 64 参照)、後続の名詞とは修飾関係になっていないもの（「幸運の女神」、「不安の軽減」など）を加え、【E】タイプの不適切な用例と視する。

表 4-2 NLB における【F】タイプの 33 語の「-な/-の」用例数

番号	語例	～な	～の	「な」の比率	番号	語例	～な	～の	「な」の比率
1	特殊	1517	77	95.2%	18	悲惨	594	17	96.7%
2	普通	55	91	37.7%	19	正確	1254	2	99.8%
3	平凡	379	10	97.4%	20	著名	353	2	99.4%
4	妥当	324	0	100.0%	21	有名	2213	3	99.9%
5	不便	153	0	100.0%	22	幸運	126	30	80.8%
6	良好	700	8	98.9%	23	神聖	300	3	99.0%
7	無効	31	3	91.2%	24	平等	208	71	74.6%
8	高級	255	13	95.1%	25	冷酷	108	3	97.2%
9	正当	790	18	97.8%	26	貧困	30	9	76.9%
10	優秀	1127	3	99.7%	27	無知	115	27	81.0%
11	迅速	416	0	100.0%	28	透明	531	146	78.4%
12	貧弱	142	0	100.0%	29	神秘	38	107	26.2%
13	無能	57	17	77.0%	30	不振	7	0	100.0%
14	純情	23	0	100.0%	31	孤独	291	60	82.9%
15	誠実	254	13	95.1%	32	重要	9649	3	100.0%
16	幼稚	75	0	100.0%	33	精密	155	0	100.0%
17	不安	401	89	81.8%					

表 4-2 から分かるように、「-な」の比率が 90%を超えるのは 23 語あり、半数以上を占めている。【E】タイプと同様、（IV）第二形容詞/第三形容詞を有する【F】タイプにおいて、実際の用例を調べてみると、「-な」の形をとり後続の名詞を修飾する語の方が多いことが分かった。

しかし、「-な」の比率が 90%を下回っている語例も 10 語あり（網掛け部分）、全体のおよそ 3 割を占めていることは見落としとしてはならない。言い換えれば、後続の名詞を修飾する際に、このような語は学習者にとって「-な」か「-の」かどちらの形をとるべきか迷いやすく、中国語と同じく形容詞の用法があるとはいうものの、習得することが比較的難しいものと思われる。

意味合いから言うと、10 語中の「無能」「不安」「幸運」「平等」「貧困」「無知」という 6 語は〔人間活動－精神及び行為〕に属していることから、「-な/-の」のゆれを示すものは〔人間活動－精神及び行為〕という意味に属する可能性が



高いと考えられる。ただし、他の部門にも1語や2語の用例が出るので、さらに用例を集めて考察する必要があると言えよう。

「-な/-の」のゆれを示す【E】タイプの5語と【F】タイプの10語を合わせて見ると、興味深いことが一つある。それは15語の中で、(特徴)という分類項目に「独特」「普通」「固有」、(存在)という分類項目に「普遍」「固有」<sup>38</sup>、(才能)という分類項目に「無能」「無知」、(人生・禍福)という分類項目に「幸運」「神秘」というように、2語以上の語が属していることである。無論数は多くはないが、「分類語彙表」で最も狭い意味分類にあたる分類項目に複数の語例が属することは珍しいと言えるだろう。

#### 4.2 日本語において形容詞の用法が見られないグループ

このグループに属するタイプは【J】と【K】である。前者は日本語において名詞に属し、後者は動詞・名詞に属する。いずれも日本語において形容詞の用法がみられないタイプであり、学習者にとって習得しにくいものであると考えられる。以下、両タイプにおける語例の意味合いを考察する。

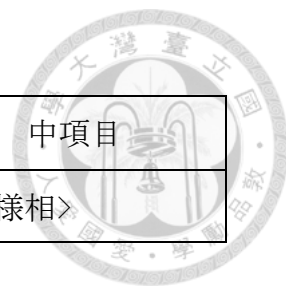
【J】	[中] 形容詞 → [日] 名詞	4 語
【K】	[中] 形容詞 → [日] 動詞・名詞	18 語

#### 【J】 [中] 形容詞→ [日] 名詞 (4 語)

中国語では形容詞に属し、日本語においては名詞に属する【J】タイプは4語ある。「分類語彙表」において、各語の意味所属は部門別により、以下の表 [J]-1、表 [J]-2 に分けてまとめる。

<sup>38</sup> 「固有」は、分類項目では(存在)という意味を持つほか、(特徴)という意味も持っている。





表[J]-1 部門1 [抽象的關係] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	均衡	.1340(調和・混乱)	.13<様相>

表[J]-2 部門3 [人間活動－精神及び行為] (3語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	主観	.3070(意味・問題・趣旨など)	.30<心>
2	反感	.3020(好悪・愛憎)	
3	友好	.3020(好悪・愛憎)	.30<心>
		.3500(交わり)	.35<交わり>

【J】タイプに部門1 [抽象的關係] に属する「均衡」が1語と、部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する「主観」「反感」「友好」が3語ある。中項目ではいずれも<心>という意味を有し、分類項目では(好悪・愛憎)という意味が際立つのである。

日本語では名詞に属する【J】タイプの4語は、ガ格をとり主語に、ヲ格をとり目的語になるのが主な用法であるが、接尾辞「的」がつくことによりその側面や性質を持つことを表すのも可能である。「主観的」「友好的」はその例である。しかし、すべての名詞に「的」がつくことができるというわけではないことも「均衡」「反感」という2例から分かる。「バランスのいい」という言い方が多用されることで、「均衡」に性質のニュアンスを持たせて後項の名詞を修飾する必要がなくなるのであろう。「反感」も「相手の行為や考えかたに対して反発する気持ち」(『角川必携国語辞典』より) という意味から修飾する語より修飾される語の方になりやすいと考えられる。基本的に名詞に接尾辞「的」がつくことも可能であるが、その意味や実際の使い方によって「的」がつくことができない場合もある。



**【K】 [中] 形容詞→ [日] 動詞・名詞 (18 語)**

中国語では形容詞に属し、日本語では動詞・名詞に属する【K】タイプは18語ある。なお、ここでいう動詞・名詞は一般にサ変動詞とも言われる。

今回の調査における形容詞の用法が見られないグループで語例の数が最も多いタイプである。「分類語彙表」において、これらの語の意味所属は部門別により、表[K]-1、表[K]-2、表[K]-3、表[K]-4に分けてまとめる。

表[K]-1 部門1 [抽象的關係] (5 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	混乱	. 1340(調和・混乱)	. 13<様相>
2	一致	. 1342(調節)	. 13<様相>
		. 1130(異同・類似)	. 11<類>
3	優越	. 1584(限定・優劣)	. 15<作用>
4	低下	. 1540(上がり・下がり) . 1583(進歩/衰退)	
5	徹底	. 1524(通過・普及)	. 15<作用>
		. 1921(程度・限度)	. 19<量>

部門1 [抽象的關係] に属する語は「混乱」「一致」「優越」「低下」「徹底」という5語である。中項目では<様相>、<作用>などに属している。

表[K]-2 部門3 [人間活動—精神及び行為] (10 語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	疲労	. 3003(飢渴・酔い・疲労・睡眠など)	. 30<心>
2	憤慨	. 3012(恐れ・怒り・悔しさ)	
3	恐怖	. 3012(恐れ・怒り・悔しさ)	



4	悲観	.3014(苦悩・悲哀) .3066(判断・推測・評価)	.30<心>
5	楽観	.3013(安心・焦燥・満足) .3066(判断・推測・評価)	
6	興奮	.3002(感動・興奮)	
7	抽象	.3071(論理・証明・偽り・誤り・訂正など)	
8	儉約	.3710(経済・収支)	.37<経済>
9	繁盛	.3790(貧富)	
10	勤労	.3320(労働・作業・休暇)	.33<生活>

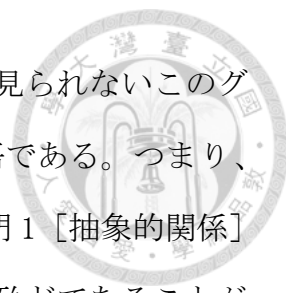
部門3 [人間活動－精神及び行為] に属する語は「疲労」「憤慨」「恐怖」「悲観」「楽観」「興奮」「抽象」「儉約」「繁盛」「勤労」という10語で数が最も多く、[抽象的關係] に属する語数の2倍を占めている。中項目は<心>、<経済>、<生活>の三種類に分けられるが、10語中の7語は<心>という意味に集中するように見受けられる。

表[K]-3 部門5 [自然物及び自然現象] (1語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	乾燥	.5130(水・乾湿)	.51<物質>

表[K]-4 部門1/3 [抽象的關係] [人間活動－精神及び行為] (2語)

番号	語例	分類項目	中項目
1	緊張	.1341(弛緩、粗密、繁簡)	.13<様相>
		.3000(様相・情勢)	.30<心>
2	合格	.1340(調和・混乱)	.13<様相>
		.3321(学事・兵事)	.33<生活>



表[K]-3 で示した「乾燥」は日本語において形容詞の用法が見られないこのグループにおいて唯一部門5 [自然物及び自然現象] に属する語である。つまり、このグループも形容詞の用法が見られるグループと同様、部門1 [抽象的關係] と部門3 [人間活動—精神及び行為] の意味を有している語が殆どであることが分かった。表[K]-4 では、部門1 と部門3 の両部門の意味を持つ語は「緊張」「合格」2語ある。中項目では<様相>という意味を有している。

全体的に見ると、最も狭い意味分類にあたる分類項目では、【K】タイプに属する18語の意味は形容詞の用法が見られるグループとの重複が非常に少ないということが分かった。ただし、そのグループに多く見られる分類項目(弛緩、粗密、繁簡)に属する「緊張」という語は、学習者にとって(Ⅱ)第二形容詞と間違えやすい語でもあるので、より注意が払われるべきであろう。

また、殆どの語の意味には“変化”という共通の性質があるということも特徴的であろう。ここの“変化”とは、人の心理や物事の様態が正常な状態から一時的に逸脱し、ある結果になるという過程を指している。例えば「混乱」という語は、混乱していない状態(正常な状態)から逸脱し、最後に「混乱」という結果になることを意味する。【K】タイプの語はこのような動的過程が含まれ、動詞的側面が前面に出たので、日本語では動詞として働くのではないかと考えられる。

なぜ中国語の形容詞が日本語でサ変動詞になるのかについて、中川正之(2005)は次の三つの角度を提出し、その原因を考えた。<sup>39</sup>

① 一時的か恒常的か

語の動作性や意図性を読み取り、恒常的な属性として捉えられるのが形容詞になりやすく、一時的な行為として捉えられるのが動詞になりやすい。時間性の有無は、品詞には深い関係を持っている。

---

<sup>39</sup> 中川正之 (2005) 『漢語からみえる世界と世間』 p. 145-162。



② 一点凝視か多点参照か

中国語と日本語では、視点の取り方が本質的に異なっている。中国語には話者がこと自体のみを凝視して述べる傾向があり、日本語には話者が他のことを意識しつつ、こと自体のみではなく、それ以外の何かを視野に入れるのは一般的であろう。

③ 中国語の並列と日本語の修飾

中国語には「緊張」「湾曲」などのように前項と後項が同じ意味をする並列構造の語が多い。並列構造の特徴は朱徳熙（1982）が指摘するように「その意味は要素の算数的総和ではなく比況性である」ことである。<sup>40</sup>ところが、日本語はヘッド（Head）<sup>41</sup>が後項という言語類型であるため、並列構造が修飾構造に解される傾向がある。

では、【K】タイプの18語は上述した三つの角度から分類してみると、以下のようになると考えられる。

- ① 一時的か恒常的か → 優越、徹底、合格、樂觀、悲觀、抽象（6語）
- ② 一点凝視か多点参照か → 混乱、一致、疲労、憤慨、恐怖、興奮、繁盛、乾燥、緊張（9語）
- ③ 中国語の並列と日本語の修飾 → 低下、儉約、勤勞（3語）

中国語の形容詞は視点の取り方の違いで日本語の動詞になる語が最も多いと分かった。しかし、ここでは一つの語が一つの原因につながることに分類してみたが、実は複数の原因を受ける可能性もある。例えば、「緊張」は日本語で動

<sup>40</sup> 朱徳熙（1982）では「並立式複合詞的每一项的意義不是實指的，而是比況性的，整個結構的意義不是各項組成成分的意義的機械的總和」と指摘された。ここで引用するのは、中川正之（2002）で述べられた朱徳熙（1982）の並列語に関わる日本語の説明である。

<sup>41</sup> ヘッドとは、二つの要素 X と Y が並んでいる XY の全体の文法的性格を決定する重要な要素を言う。例えば、「愛妻」はヘッドが前にあり、「愛鳥」はヘッドが後ろにある。ヘッドに関する詳細は中川正之（2005）『漢語からみえる世界と世間』pp. 127-141 を参照。

詞になるには、視点の取り方の他、構造の違いという要因もある。「乾燥」という語にはその動作性や意図性も認められる。

また、日本語では一時的・意図的な行為と認識される「徹底」「楽観」「悲観」「抽象」などの語は、接尾辞「的」を用いることにより、恒常的な属性を持つことになることが見受けられる。

まとめていうと、【K】タイプでは過半数を占める部門3 [人間活動－精神及び行為] において、殆どの語は中項目の<心>に集中していることが見られる。ところが、最も狭い意味分類の枠である分類項目に目を移してみると、【K】タイプ各語の意味の所属は形容詞の用法が見られるグループとの重複が非常に少ない上に、殆どの語の意味には“変化”という共通の性質がある。多くの語に“変化”という動的過程の意味合いが含まれるのは【K】タイプの特徴であると言えよう。

#### 4.3 まとめ

本研究の調査結果によると、中国語では形容詞に属する151語は日本語において、形容詞の用法が見られるものは8割を上回り、見られないものは約1割強を占めていることが分かった。学習者がより有効に誤用を減らすためには、語の仕組みを明らかにし、特に混同しやすいこの1割強のものを把握する必要があると考えた。

そこで本研究では、全151語を日本語において形容詞の用法が見られるものの129語と見られないものの22語に分け、さらに品詞の対応傾向によって【A】～【K】の11タイプに細分化したのち、「分類語彙表」を参照し、語例の意味合いを確認した。

各タイプの意味を考察すると同時に、品詞にズレが生じる原因も意味の観点



から検討した。また、後続の名詞を修飾する際に生じる「-な/-の」のゆれ問題についてもコーパスを用いて調べた。

なお、本研究における両グループに属するタイプと語例の一覧を、表 4-3 に示す。

表 4-3 各グループに属するタイプと語例の一覧

グループ	タイプ	語例	語数
形容詞の 用法が 見られる	【A】 <u>(II)</u>	円満、簡易、簡単、強烈、猛烈、敏感、円滑、温和、痛切、曖昧、厳密、頻繁、巧妙、頑固、軽率、強硬、大胆、勇敢、盛大、謙虚、率直、豪華、奇妙、柔軟	24 語
	【B】 <u>(II)</u> ・名	多様、簡潔、精巧、単純、複雑、優美、危険、緊急、単調、直接、正常、露骨、愉快、冷静、詳細、勤勉、公正、公平、残酷、幸福、親切、自在、慎重、滑稽、清潔	25 語
	【C】 <u>(III)</u>	一流、一般、驚異、万能、具体、*唯一、*慢性	7 語
	【D】 <u>(III)</u> ・名	*日常、*初歩、*全盛	3 語
	【E】 <u>(IV)</u>	重大、独特、善良、容易、薄弱、有力、有効、対等、巨大、普通、高尚、偉大、貴重、切実、不当、新鮮、*高等、*固有、*単一	19 語
	【F】 <u>(IV)</u> ・名	特殊、普通、平凡、妥当、良好、不便、無効、高級、正当、優秀、迅速、貧弱、無能、幼稚、純情、誠実、不安、悲惨、正確、著名、有名、幸運、神聖、平等、冷酷、貧困、無知、透明、神秘、不振、孤独、重要、精密、	33 語
	【G】 <u>(IV)</u> ・名・動	謙遜、不足	2 語
	【H】 <u>(V)</u>	実用、原始、立体、客観、合理、専制、*現行、*新興、*国立、*法定、*人造、*国産、*天然、*有機、*公共	15 語
	【I】 <u>(V)</u> ・動	*複合	1 語
形容詞の 用法が 見られない	【J】 名	均衡、主観、反感、友好	4 語
	【K】 名・動	混乱、一致、優越、低下、徹底、疲労、憤慨、恐怖、悲観、楽観、興奮、抽象、儉約、繁盛、勤労、乾燥、緊張、合格	18 語

注：\* 付きの語は中国語において非述形容詞である。

以下、語例の「分類語彙表」における部門、中項目、分類項目という意味分類の所属を整理し表示する。しかし、両グループにおけるタイプの意味所属の傾向を浮き彫りにするため、中項目と分類項目に集中していると見受けられる意味のみをリストアップし、特に集中しているようには見受けられない場合は◎と注記する。

● 日本語において形容詞の用法が見られるグループ

このグループに属するタイプは9つある。まず、各タイプに属する語の持つ「分類語彙表」における部門、中項目、分類項目という意味分類をまとめたものを、次の表4-4に示す。

表4-4 形容詞の用法が見られるグループにおける9タイプの語例の意味分類

対応タイプ	部門	中項目	分類項目
【A】 <u>(II)</u>	部門1 (8)	<様相>(3)	(難易・安危) (3)
		<力>(2)	(力) (2)
	部門3 (14)	<心>(4)	(詳細・正確・不思議) (2)
		<行為>(6)	(行為・活動) (3) (人柄) (2)
	部門1/3 (1)	◎	◎
部門1/3/5 (1)	◎	◎	
【B】 <u>(II)</u> ・名	部門1 (12)	<様相>(9)	(弛緩・粗密・繁簡) (5)
	部門3 (12)	<心>(4)	◎
	部門1/3/5 (1)	◎	◎
【C】 <u>(III)</u>	部門1 (4)	<類>(2)	◎
		<量>(2)	
部門3 (2)	◎	◎	
【D】 <u>(III)</u> ・名	部門1 (2)	<時間>(2)	◎
	部門3 (1)	◎	◎



【E】 (IV)	部門 1 (13)	<様相>(6) <類>(3)	(特徴) (2)
	部門 3 (3)	◎	◎
	部門 1/3 (2)	◎	◎
	部門 1/5 (1)	◎	◎
【F】 (IV)・名	部門 1 (12)	<様相>(6)	(特徴) (3) (良不良・適不適) (2)
	部門 3 (15)	<行為>(4)	(才能) (2) (人柄) (2)
	部門 5 (1)	◎	◎
	部門 1/3 (5)	◎	◎
【G】 (IV)・名・動	部門 1 (1)	◎	◎
	部門 1/3 (1)	◎	◎
【H】 (V)	部門 1 (6)	<存在>(3)	◎
	部門 3 (5)	<心>(2)	◎
	部門 4 (2)	◎	◎
	部門 5 (1)	◎	◎
	部門 2/3 (1)	◎	◎
【I】 (V)・動	部門 1 (1)	◎	◎

注：( )内の数字は該当項目の所属する語例数を示す。

部門の意味を見ると、各タイプでは所属する語が部門 1 [抽象的關係] と部門 3 [人間活動—精神及び行為] に集中していることが顕著な特徴であろう。複数の部門の意味を持つ語も部門 1 と部門 3 の組み合わせが殆どである。それに対し、部門 5 [自然物及び自然行為] に属する語は存在するが、極めて少ない。しかし【H】タイプは他の 8 タイプと異なり、部門 1 と部門 3 のほかに、部門 2、4、5 の意味を持つ語も有し、いずれの部門の意味にも傾かないと言えよう。

部門 1 に属する語について、(II)第二形容詞か(IV)第二形容詞/第三形容詞を有する【A】【B】【E】【F】の 4 タイプでは<様相>という中項目の意味に集中している。この 4 タイプと違い、(III)第三形容詞か(V)規定用法のみの形容詞を有する【C】【D】【H】の 3 タイプは<類><量><時間><存在>という中

項目の意味に集中するように見られる。部門3に属する語については、〈心〉と〈行為〉という中項目の意味に集中しているという傾向がある。

なお、学習者にとって気になりやすい(II)第二形容詞と(IV)第二形容詞/第三形容詞の区別については、はっきりとした境い目を見出すことはできないが、以下の二点が多少の違いとして挙げられる。

- ① **【A】【B】** 両タイプには部門3に属する語が〈心〉という中項目の意味に集中するように見られるが、**【E】【F】**の両タイプにはそれが見られない。
- ② **【A】【B】【E】【F】** 四つのタイプでは、部門1に属する語のうち、〈様相〉という中項目の意味を持つ語が最も多いということが共通している。  
しかし、分類項目まで見ると、**【A】【B】** 両タイプと **【E】【F】** 両タイプの集中する意味は異なっている。前者は主に（難易・安危）（弛緩・粗密・繁簡）とし、後者は（特徴）とする。

また、接尾辞「的」の使用については、(II)第二形容詞か(IV)第二形容詞/第三形容詞を有する **【A】【B】【E】【F】** の4タイプは基本的に「的」がつくことは難しい。それに対し、(III)第三形容詞か(V)規定用法のみの形容詞を有する **【C】【D】【H】【I】** 4タイプの方は「的」が比較的つきやすいと思われる。さらに、**【C】【H】** タイプに対する考察から、中国語では一般形容詞である語は「的」がつきやすいが、非述形容詞である語は「的」がつくことはできない結果が得られた。

このグループの9タイプにおける部門意味の分布及び全体を占める割合を図4-1に示し、全般の概況を見てみよう。

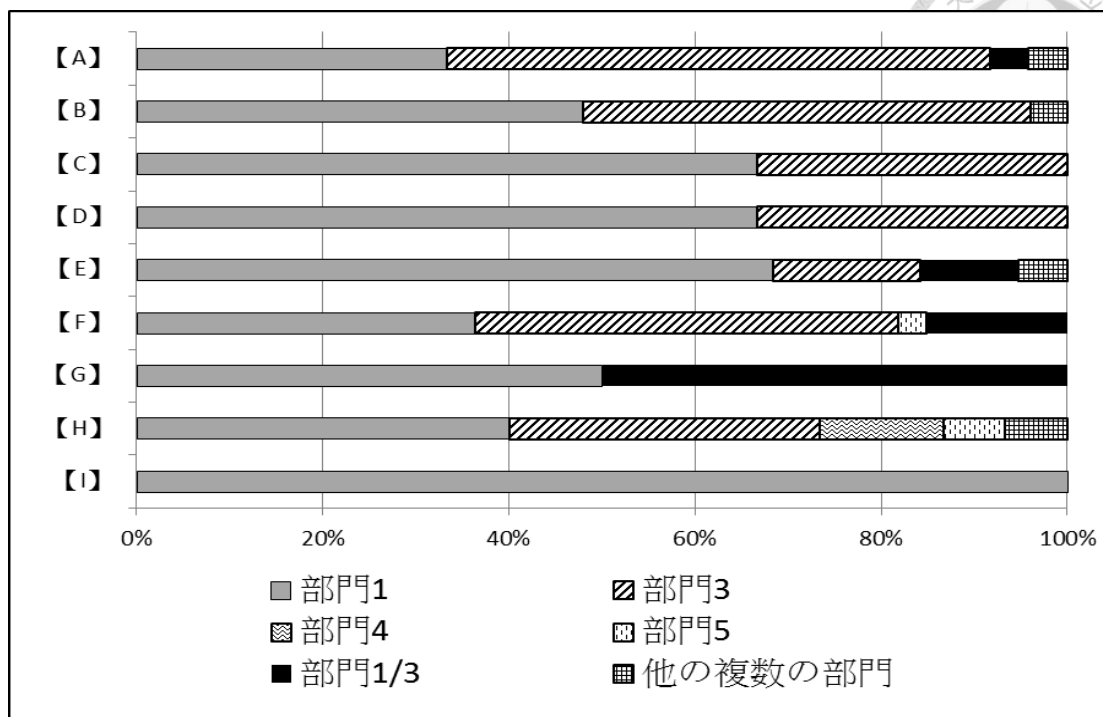


図 4-1 形容詞の用法が見られるグループにおける部門の所属及び占める割合

図 4-1 から、このグループにおける語はほぼ部門 1 と部門 3 に集中していると分かったが、それぞれの占めるタイプ全体の割合はタイプごとに若干異なっていることも見られる。【A】タイプは部門 3 の占める割合が高いのに対し、【E】タイプは部門 1 の占める割合が高い。そして、【B】【F】両タイプは、部門 1 と部門 3 の占める割合がほぼ同じで、大きな差はないと見受けられる。

ほかに、【C】【D】両タイプはともに部門 1 と部門 3 の比率が 2 : 1 となっており、【H】タイプは部門 1 と部門 3 以外、部門 4 や部門 5 の語も有していることが分かる。

次に、「-な/-の」のゆれについて、(IV)第二形容詞/第三形容詞に属する【E】タイプと(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプに対し考察した。両タイプにおいて、実際の用例を調べてみると、「-な」の形をとり後続の名詞を修飾する語の方が多いことが分かった。

両タイプにある「-の」を用いる傾向が高い 15 語について、「書き言葉均衡コ



「パス NLB」における「-な」と「-の」の用例数、及び分類項目の意味を整理し、表 4-5 に示す。

表 4-5 【E】【F】両タイプにおける「-の」を用いる傾向が高い 15 語の一覧

番号	語例	-な	-の	「-な」の比率	分類項目
1	普遍	1	43	2.3%	.1200(存在)
2	固有	62	354	14.9%	.1200(存在) .1331(特徴)
3	独特	329	1258	20.7%	.1331(特徴)
4	普通	55	91	37.7%	.1331(特徴)
5	無知	115	27	81.0%	.3062(注意・認知・了解) .3421(才能)
6	無能	57	17	77.0%	.3421(才能)
7	神秘	38	107	26.2%	.1030(真偽・是非) .3310(人生・禍福)
8	幸運	126	30	80.8%	.3310(人生・禍福)
9	孤独	291	60	82.9%	.1040(本体・代理) .3070(意味・問題・趣旨など)
10	高等	25	4	86.2%	.1101(等級・系列)
11	単一	9	183	4.7%	.1341(弛緩・粗密・繁簡)
12	不安	401	89	81.8%	.3013(安心・焦燥・満足)
13	平等	208	71	74.6%	.3610(公式・公平)
14	貧困	30	9	76.9%	.3790(貧富)
15	透明	531	146	78.4%	.5010(光)

この 15 語の中で「-な」の比率が 50%未満の語は 6 語（網掛け部分）あるが、特に「普遍」と「単一」という 2 語は「-な」比率が 1 割にも満たず、きわめて低いと見受けられる。また、分類項目の意味を見ると、2 語以上を有している分類項目は（存在）（特徴）（才能）（人生・禍福）の四つであることが表 4-5 から見てとれる。

特に（存在）（特徴）という二つの分類項目は2語以上を有している上に、「-な」の比率がいずれも低い。よって、これは「-な/-の」のゆれ問題において、一つの手がかりとして見なすことができるのではないかと考えられる。

それに対し、「-な」の比率が10%未満の「単一」が持っている分類項目の意味（弛緩、粗密、繁簡）は(Ⅱ)第二形容詞・名詞である【B】タイプにおいて多く見られたものであるから、意味的には「-な」の形を用いて後続の名詞を修飾するだろうと考えられるが、実際の用例から「-の」の形をとる傾向が強く見られることが分かった。

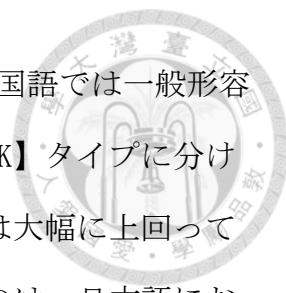
● 日本語において形容詞の用法が見られないグループ

このグループに属するタイプは【J】と【K】の2つある。この2つのタイプに属する語の持つ「分類語彙表」における部門、中項目、分類項目という意味分類をまとめたものを、次の表4-6に示す。

表4-6 形容詞の用法が見られないグループにおける2タイプの語例の意味分類

対応タイプ	部門	中項目	分類項目
【J】名	部門1 (1)	◎	◎
	部門3 (3)	<心>(3)	(好悪・愛憎) (2)
【K】名・動	部門1 (5)	<様相>(2)	◎
		<作用>(3)	◎
	部門3 (10)	<心>(7)	(恐れ・怒り・悔しさ) (2)
			(判断・推測・評価) (2)
	部門5 (1)	◎	◎
部門1/3 (2)	<様相>(2)	◎	

注：( )内の数字は該当項目の所属する語例数を示す。



形容詞の用法が見られないグループにおいて、全 22 語は中国語では一般形容詞であり、名詞に属する【J】タイプと動詞・名詞に属する【K】タイプに分けられるが、【J】タイプと比べ、【K】タイプが有している語例は大幅に上回っていることが分かった。つまり、中国語では形容詞に属するものは、日本語において品詞のズレが生じる際、動詞・名詞（サ変動詞に相当する）になる場合が多いと言えるだろう。

部門から見ると、形容詞の用法が見られるグループと同様、ほぼ部門 1 [抽象的關係] と部門 3 [人間活動－精神及び行為] のどちらかに属するが、部門 1 より部門 3 に属する語を多く有している。また、両タイプはともに中項目では<心>に集中しているが、分類項目では【J】タイプは(好悪・愛憎) という意味に集中し、【K】タイプは(恐れ・怒り・悔しさ)、(判断・推測・評価) という意味に集中するように見受けられる。

特に【K】タイプにおける分類項目の意味においては、形容詞の用法が見られるグループと比べ、より変化の意味が含まれていると窺われる。すなわち、【K】タイプにおいては、分類項目では形容詞の用法が見られないグループとの重複が非常に少ない上に、殆どの語の意味には“変化”という共通の性質があると示唆される。

なお、接尾辞「的」の使用について、語の意味によってつくことができる語もあれば、できない語もある。「的」がつけられるかどうかについては、品詞との関連が薄く、語の意味に関わっているのではないかと考えられる。

## 第五章 終論



### 5.1 結び

中日同形同義二字漢語については、中国語と日本語において形も意味も同じであるが、品詞は一致しないということは珍しくない。先行研究では、学習時間の長い上級レベルの学習者にでも漢語の品詞の把握に誤りが生じる現象が存在するとも指摘している。よって本研究は、学習者の漢語習得に些か力を捧げたいと考え、中日両言語における中日同形同義二字漢語の品詞転換についての考察を始めた。

第一章では、研究動機・目的をもとに、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語を研究対象に絞り、本研究の位置づけを明確にした。

第二章では、中国語と日本語における形容詞とは何かを明らかにしたことにより、本研究における中国語と日本語の形容詞の範疇を確定した。また、実例を用いて調査した中日同形語に関する先行研究を検討し、問題点を考えた。

第三章では、「日検出題基準」1・2級の語彙表から中日同形同義二字漢語を抽出した。そして、辞典及びコーパスを用いて中日両言語における品詞の考察基準とし、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語が日本語においてどの品詞に属するかという品詞対応の調査を行った。

結果、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語 151 語が日本語においても、形容詞の用法が見られるものは8割を上回っているが、見られないものもおよそ1割強を占めていることが分かった。そして、形容詞の用法が見られないものの中ではサ変動詞になるタイプが最も多いことが本研究で新たに明らかになり、さらなる検討の価値があると示唆された。

第四章では、この 151 語を日本語において形容詞の用法が見られるグループの 129 語と見られないグループの 22 語に分け、さらに品詞の対応傾向によって【A】～【K】の 11 タイプに細分化した。その後、「分類語彙表」を通じ、意味



の観点から各タイプの特徴や傾向を考察すると同時に、後続の名詞を修飾する際に生じる「-な/-の」のゆれについてもコーパスを用いて調べた。

まず、日本語では形容詞の用法がみられるグループの傾向・特徴を表5-1に示す。

表 5-1 日本語では形容詞の用法がみられるグループの傾向・特徴の整理

中	日	特徴・傾向
形容詞	形容詞の用法が見られる	<p><b>全体</b></p> <p>① 大多数の語は部門1か部門3の意味を有している。            部門1 [抽象的關係] (特に&lt;様相&gt;)            部門3 [人間活動-精神及び行為] (特に&lt;行為&gt;、&lt;心&gt;)</p> <p>② 部門5 [自然物及び自然現象] に属する語は極めて少ない。</p> <p><b>タイプ別</b></p> <p>① <u>(II)</u>に属する【A】：部門3&gt;部門1  <u>(IV)</u>に属する【E】：部門1&gt;部門3            名詞を兼ねる【B】【F】：部門1と部門3の大差はない  <u>(III)</u>を有する【C】【D】：部門1と部門3は2:1の比例  <u>(V)</u>に属する【H】：部門1~5のいずれにも傾かない</p> <p>② 部門1に属する語は、  <u>(II)</u>か<u>(IV)</u>を有する【A】【B】【E】【F】：&lt;様相&gt;  <u>(III)</u>か<u>(V)</u>を有する【C】【D】【H】：&lt;類&gt;&lt;量&gt;&lt;時間&gt;&lt;存在&gt;</p> <p>③ 部門3に属する語は、            【A】【B】【H】：&lt;心&gt;に集中する            【A】【F】：&lt;行為&gt;に集中する</p> <p>④ 部門1の中項目&lt;様相&gt;に属する語は、            【A】【B】：主に(難易・安危)(弛緩・粗密・繁簡)            【E】【F】：主に(特徴)(良不良・適不適)</p> <p>⑤ <u>(II)</u>か<u>(IV)</u>を有する【A】【B】【E】【F】：「的」がつきにくい  <u>(III)</u>か<u>(V)</u>を有する【C】【D】【H】【I】：「的」がつきやすい</p>

また、「-な/-の」のゆれについて、(IV)第二形容詞/第三形容詞に属する【E】タイプと(IV)第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプに対し考察した。その結果、「-な」の形をとり後続の名詞を修飾する語の方が多いことが分





かった。なお、「-の」を用いる傾向の有無を考察するには、（存在）（特徴）という二つの分類項目は一つの手がかりとして見なすことができるのではないかと考えられる。

次に、日本語では形容詞の用法がみられないグループの傾向・特徴を表 5-2 に示す。

表 5-2 日本語では形容詞の用法がみられないグループの傾向・特徴の整理

中	日	特徴・傾向
形容詞	形容詞の用法が見られない	<p><b>全体</b></p> <p>① 殆どの語は部門 1 か部門 3 の意味を持ち、もしくは両方とも持つ。</p> <p>② 部門 1 に属する語より、部門 3 に属する語が数多い</p> <p>③ 部門 3 において、意味が&lt;心&gt;に集中する。</p> <p>④ 語の意味によって、「的」がつきやすいものもあれば、つきにくいものもある。</p> <p><b>タイプ別</b></p> <p><b>【J】タイプ：</b></p> <p>① 部門 3 に属する語は（好悪・愛憎）に集中する。</p> <p><b>【K】タイプ：</b></p> <p>① 中国語では形容詞に属する語は日本語において品詞のズレが生じやすいタイプ。</p> <p>② 殆どの語の意味には“変化”という共通の性質がある。</p> <p>③ 日本語では一時的・意図的な行為と認識される語は「的」がつくことで、恒常的な属性を持つことになると見受けられる。</p>

上記の表 5-1 と表 5-2 は両グループの特徴・傾向を整理し、まとめたものである。両グループは、部門 1 と部門 3 に属する語は殆どであるという点においては共通しているが、狭い意味分類の分類項目から見ると、意味の相違が見られる。また、形容詞、名詞、動詞のいずれにも接尾辞「的」がつくことが可能であることから、「的」の使用については品詞に関わりが薄く、語の意味に関わっていると考えられる。



図 5-1 は中国語では形容詞である中日同形同義二字漢語の日本語における品詞対応の傾向を表したものである<sup>42</sup>。

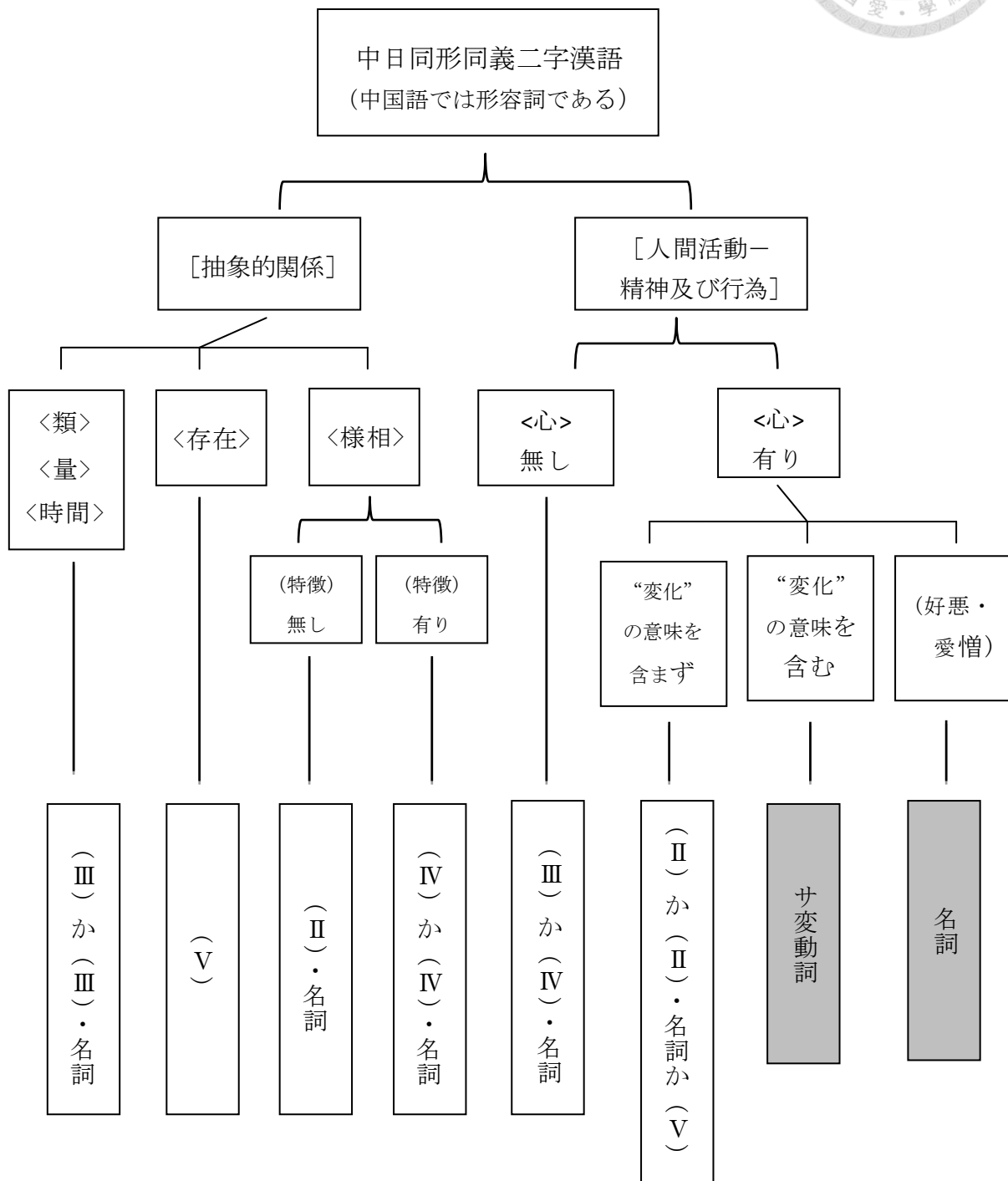
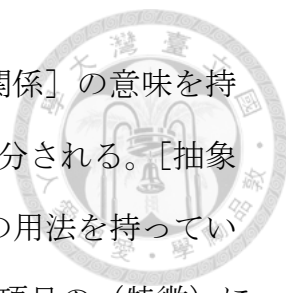


図 5-1 中日同形同義二字漢語（中国語では形容詞である）の日本語における品詞対応の傾向

<sup>42</sup> 【G】【I】の二タイプは語例数が非常に少ないため、図 5-1 に取り入れないことにする。



中国語では形容詞である中日同形同義二字漢語は〔抽象的關係〕の意味を持つか、〔人間活動－精神及び行為〕の意味を持つかによって二分される。〔抽象的關係〕の意味を持つ語はおおよそ日本語においても形容詞の用法を持っている。〔抽象的關係〕は中項目の〈様相〉や〈存在〉、及び分類項目の（特徴）によってさらに下位に分類できる。一方、〔人間活動－精神及び行為〕の意味を持つ語は日本語において形容詞の用法が見られることもあれば、見られないこともある。さらに中項目〈心〉の意味の有無、（好悪・愛憎）や“変化”という動的過程を意味するかによって区別される。

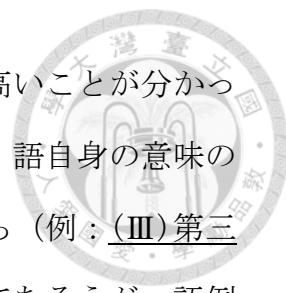
図 5-1 は、中日同形同義二字漢語（中国語では形容詞である）の中日両言語における品詞対応を意味の観点から考察した傾向を基に作られたものである。無論、この傾向に当てはまらないものもあるだろうが、一種の参考基準として学習に役立てることができるのではないかと思われる。

## 5.2 今後の課題

本研究では、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語の日本語における品詞の対応傾向を考察した。その考察を通し、深く掘りさげるに値する新たな点を発見することもできた。しかし、その一方本研究ではすべての例を論じることができなかつたため、これらを整理し、今後の課題として以下の三点が挙げられる。

まず、意味の観点から中日両言語における品詞転換を明らかにし、日本語において形容詞の用法が見られないグループについてある程度の傾向を見出した。しかし、形容詞の用法が見られるグループにおいては、各タイプを区別するほどの顕著な違いを明確にできなかつた。

例えば、中国語では形容詞である中日同形同義二字漢語は、日本語では抽象



的關係を意味するなら、同じく形容詞の用法を持つ可能性が高いことが分かった。しかし、その語はグループのどのタイプに属するのかは、語自身の意味のみでは判断することができなかった。語例が少ないタイプなら（例：(Ⅲ)第三形容詞の【C】タイプ）、学習者に暗記させるのも一つの方法であろうが、語例が多いタイプになると、この方法では効率が悪く、不適切であると思われる。よって、語自身の意味のみから品詞転換を考察するには、限界があることを認め、後続の名詞の性質なども視野に入れて再検討する必要があると考えられる。

また、日本語において形容詞の用法が見られるグループでは、名詞や動詞を兼ねるタイプは半分を占めている。つまり、これらのタイプに属する語は形容詞の他に、名詞や動詞として文に用いられる場合もある。それでは、どのような場合に形容詞として用いるか、どのような場合に他の品詞として用いるかという疑問が自ずと生じてくるだろう。今回の考察ではその部分について触れずにいたため、今後の研究課題とする。

次に、調査対象に関しても検討すべき点が三つあり、ここで述べておく。

- 本研究は習得の立場から「日験出題基準」1・2級の語彙表を用い、中国語では形容詞に属する中日同形同義二字漢語の151語を中心に考察を行った。しかし、この151語によって日本語全般の語彙状況が表されているかという点、恐らくまだ不十分なところがあると言わざるを得ないであろう。広い範疇の語彙を網羅する言語資料（例えば辞書など）を用いることが比較的適切であろう。
- 今回の調査において品詞の認定に確認できないものが70語あり、調査対象と見なさないことにしたが、これらの語の意味や用法を考えると、形容詞に近いものが殆どであることが窺われる。より精密な調査結果を得るためには、これらの語も再度確かめる必要があると考えられる。

- 中国語では形容詞に属する同形義二字漢語における全般的な傾向を見出すには、形容詞に属する語だけでなく、形容詞兼他品詞の語も調査対象とすべきであると考えていたが、紙幅のため今回の考察においては触れる余裕がなかった。いずれも今後の研究で改善すべき点として課題とする。

最後に、本研究では日本語では(IV) 第二形容詞/第三形容詞に属する【E】タイプと(IV) 第二形容詞/第三形容詞・名詞に属する【F】タイプに対し、「書き言葉均衡コーパス NLB」にある用例を通じて「-な/-の」のゆれを示す傾向を調べた。ほぼ「-な」の形をとっているものと、「-な/-の」のゆれを示しているものと、双方の間に明確な区別をつけることはできなかったが、「-な/-の」のゆれ問題の解明について、(存在)、(特徴) という2つの分類項目が手がかりとして見出すことができた。しかし現時点では手がかりの段階であるため、今後さらに深く研究していく価値があると思われる。

なお、日本語ではサ変動詞に属する【K】タイプの語が、中川正之(2005)の提出した三つの角度から分類することにより、接尾辞「的」がつくことができるものは一時的・意図的な行為と認識される語(「徹底」「楽観」「抽象」など)に集中するように見受けられた。しかし、変化の結果より動作性・意図性の読み取りと解される語の方が、「的」の付くことで恒常的な属性を持つことになりうるのかという、さらに多くの語例を集めて検証する必要がある。この点について本研究では論じないが、今後の研究課題として問題提起したい。



## 参考文献

### ● 単著

[日本語]

香坂順一（1974）『中国語学の基礎知識』光生館

興水優（1985）『中国語の語法の話—中国語文法概論—』光生館

高橋弥守彦（2006）『実用詳解中国語文法』郁文堂

中川正之（2005）『漢語からみえる世界と世間』岩波書店

永野賢（1986）『学校文法概説』共文社

橋本進吉（1948）『橋本進吉博士著作集第二冊 國語法研究』岩波書店

橋本進吉（1948）『橋本進吉博士著作集第七冊 國文法體系論』岩波書店

村木新次郎（2012）『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ書房

鹿琮世・藤山和子（1988）『新しい中国語語法』東方書店

[中国語]

蔡宗陽（2008）『國文文法』萬卷樓圖書股份有限公司

朱德熙（1982）『語法講義』商務印書館


趙元任（1994）『中國話的文法』台灣學生書局

潘文娛・劉月華・故韡（2000）『実用現代漢語語法（増訂本）』商務印書館

### ● 論文

[日本語]

大河内康憲（1992）「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対象研究論  
文集（下）』くろしお出版

- 
- 河住有希子 (2005) 「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7号
- 岸陽子 (1969) 「接尾辞“的”と中国語」『講座日本語教育5』早稲田大学語学教育研究所
- 五味政信・今村和宏・石黒圭 (2006) 「日中語の品詞のズレ：二字漢語の動詞性をめぐって」『言葉と文化』9
- 戚國福 (1999) 『日本語二字漢語動詞の意味と用法—中国語との対照を中心に—』東呉大学日本語学系修士論文
- 田野村忠温 (2002) 「形容動詞連体形における「な／の」選択の一要因—「有名な」と「無名の」—」『計量国語学』23-4
- 玉村文郎 (1985) 「形容語の世界」『日本語学』4-3
- 陳葦蕤 (2010) 『連体修飾の日中対照研究—中国語の「的」の有無を中心に—』東呉大学日本語学系修士論文
- 陳毓敏 (2003) 「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観—意味と用法を中心に—」『言語文化と日本語教育』2003年11月増刊特集号
- 豊田豊子 (1980) 「漢字構成の「な形容詞」(形容動詞)」『日本語学校論集7』東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 中川正之 (1992) 「漢語の語構成」『日本語と中国語の対象研究論文集(下)』くろしお出版
- 中川正之 (2002) 「中国語の形容詞が日本語でサ変動詞になる要因」玉村文郎編『日本語学と言語学』明治書院
- 中山陽介 (2004) 「「特別な思い」と「特別の思い」—<第二形容詞>と<第三形容詞>の揺れについて—」『阪大日本語研究』16
- 村木新次郎 (2006) 「第三形容詞論を進めたところに何が見えるか」『国文学 解釈と教材の研究』51-4

村木新次郎 (2009) 「中国語の形容詞が日本語の動詞と対応する中日同形語について」『日語動詞及相关研究』外语教学与研究出版社

山本紀代 (2006) 『台湾人日本語学習者における連体修飾構造の縦断習得研究』  
東呉大学日本語学系修士論文

林姿里 (1982) 『日中両語における同形語にいての一考察—二字漢語を中心に—』  
東呉大学日本語文学系修士論文

[中国語]

朱德熙 (1985) 「關於動詞形容詞“名物化”的問題」『現代漢語語法研究』商務  
印書館

● 辞書

[日本語]

大野晋・田中章夫編 (2007) 『角川必携国語辞典』角川書店

小池清治ら編 (1997) 『日本語学キーワード辞典』朝倉書店

国際交流協会 (2002) 『日本語能力試験出題基準 改訂版』凡人社

国立国語研究所 (2004) 『国立国語研究所資料集 14 分類語彙表—増補改訂版』  
大日本図書

飛田良文ら編 (2007) 『日本語学研究事典』明治書院

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静雄 (2000) 『岩波国語辞典 第六版』[横組版]  
岩波書店

[中国語]

相原茂・荒川清秀・大川完三郎編 (2004) 『東方中国語辞典』東方書店



● インターネット資料

[日本語]

国立国語研究所 現代日本語書き言葉均衡コーパス NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)

<http://nlb.ninjal.ac.jp>

[中国語]

教育部重編国語辞典修訂本 <http://dict.revised.moe.edu.tw>

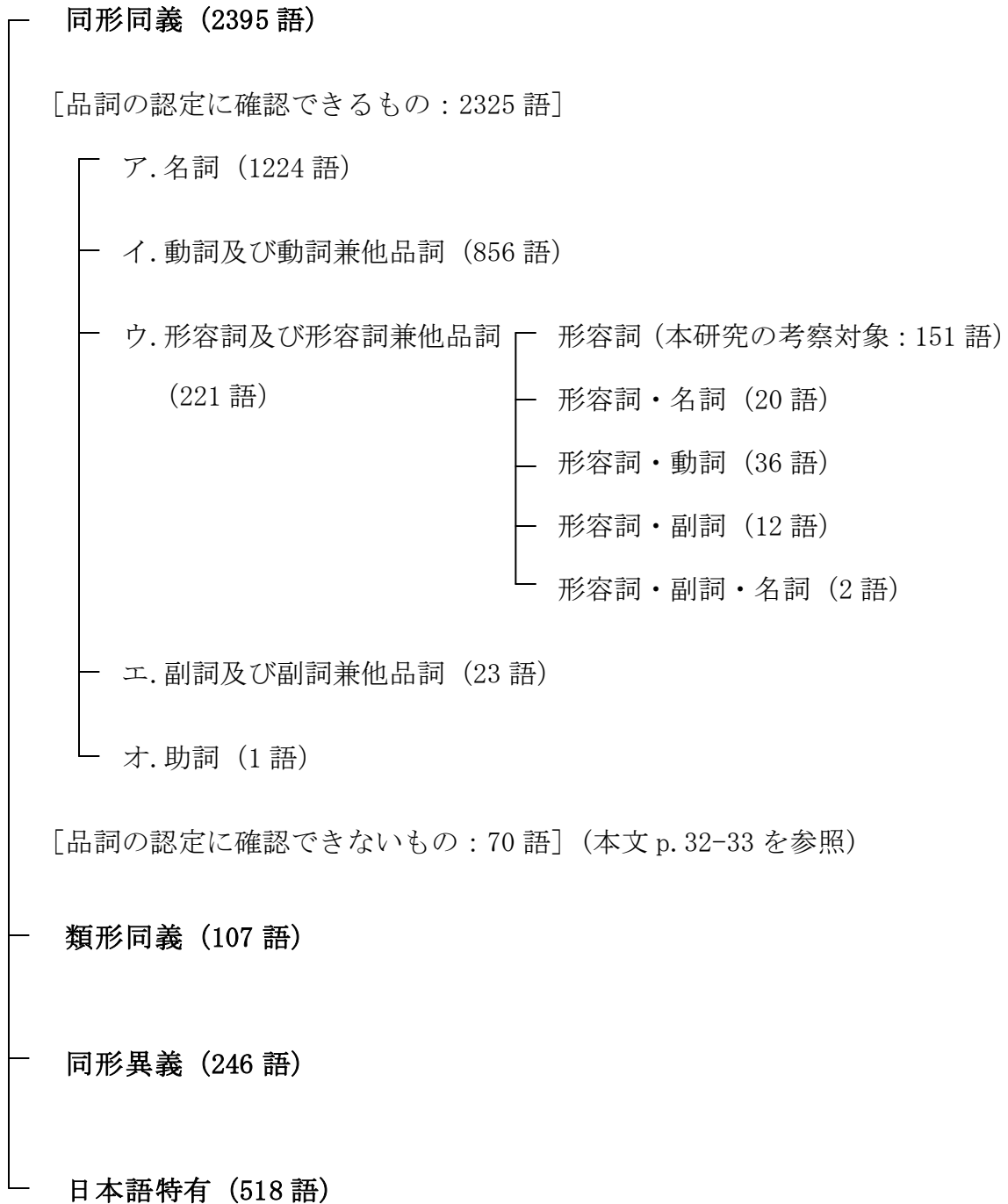
中央研究院 現代漢語平衡語料庫 <http://asbc.iis.sinica.edu.tw>



## 付録



### ● 本研究における中日同形二字漢語の分類（合計 3266 語）



## 同形同義 (2395 語)



### ア. 名詞 (1224 語)

1	愛情	あいじょう	32	以内	いない	63	恩恵	おんけい
2	悪魔	あくま	33	衣服	いふく	64	温室	おんしつ
3	圧力	あつりょく	34	以来	いらい	65	温泉	おんせん
4	委員	いいん	35	衣料	いりょう	66	温帯	おんたい
5	以下	いか	36	医療	いりょう	67	温度	おんど
6	以外	いがい	37	威力	いりょく	68	会員	かいいん
7	医学	いがく	38	異論	いろん	69	海運	かいうん
8	意義	いぎ	39	印鑑	いんかん	70	絵画	かいが
9	幾多	いくた	40	印象	いんしょう	71	海外	かいがい
10	意見	いけん	41	引力	いんりょく	72	会館	かいかん
11	以後	いご	42	雨天	うてん	73	海岸	かいがん
12	以降	いこう	43	運河	うんが	74	外観	がいかん
13	意向	いこう	44	英語	えいご	75	会議	かいぎ
14	医師	いし	45	衛星	えいせい	76	階級	かいきゅう
15	意志	いし	46	英文	えいぶん	77	海峡	かいきょう
16	意識	いしき	47	英雄	えいゆう	78	外交	がいこう
17	医者	いしや	48	液体	えきたい	79	外国	がいこく
18	以上	いじょう	49	宴会	えんかい	80	会社	かいしや
19	異性	いせい	50	沿岸	えんがん	81	怪獣	かいじゅう
20	遺跡	いせき	51	演技	えんぎ	82	会場	かいじょう
21	以前	いぜん	52	園芸	えんげい	83	外相	がいしょう
22	位置	いち	53	演習	えんしゅう	84	概説	がいせつ
23	一時	いちじ	54	円周	えんしゅう	85	階層	かいそう
24	一家	いっか	55	沿線	えんせん	86	街道	かいどう
25	一切	いっさい	56	煙突	えんとつ	87	街頭	がいとう
26	一種	いっしゅ	57	鉛筆	えんぴつ	88	概念	がいねん
27	一生	いっしょう	58	遠方	えんぽう	89	海拔	かいぼつ
28	一帯	いったい	59	黄金	おうごん	90	外部	がいぶ
29	一旦	いったん	60	王子	おうじ	91	海洋	かいよう
30	意図	いと	61	王女	おうじょ	92	概要	がいよう
31	緯度	いど	62	音楽	おんがく	93	外来	がいらい

94	概略	がいりやく	128	歌手	かしゆ	162	患者	かんじゃ
95	海流	かいりゅう	129	火星	かせい	163	観衆	かんしゅう
96	海路	かいろ	130	化石	かせき	164	感情	かんじょう
97	回路	かいろ	131	河川	かせん	165	感触	かんしよく
98	概論	がいろん	132	化繊	かせん	166	歓声	かんせい
99	会話	かいわ	133	家族	かぞく	167	関税	かんぜい
100	家屋	かおく	134	課題	かだい	168	岩石	がんせき
101	画家	がか	135	花壇	かだん	169	幹線	かんせん
102	課外	かがい	136	価値	かち	170	感想	かんそう
103	価格	かかく	137	家畜	かちく	171	寒帯	かんたい
104	化学	かがく	138	課長	かちょう	172	官庁	かんちょう
105	科学	かがく	139	学会	がっかい	173	観点	かんてん
106	家具	かぐ	140	学期	がつき	174	感度	かんど
107	各自	かくじ	141	楽器	がつき	175	観念	かんねん
108	学士	がくし	142	括弧	かっこう	176	元年	がんねん
109	学者	がくしゃ	143	学校	がっこう	177	幹部	かんぶ
110	各種	かくしゆ	144	活字	かつじ	178	官僚	かんりょう
111	隔週	かくしゅう	145	活力	かつりよく	179	慣例	かんれい
112	学術	がくじゆつ	146	家庭	かてい	180	気圧	きあつ
113	学生	がくせい	147	課程	かてい	181	議案	ぎあん
114	学説	がくせつ	148	過程	かてい	182	議員	ぎいん
115	各地	かくち	149	花瓶	かびん	183	記憶	きおく
116	角度	かくど	150	花粉	かふん	184	気温	きおん
117	学年	がくねん	151	貨幣	かへい	185	機会	きかい
118	楽譜	がくふ	152	科目	かもく	186	機械	きかい
119	学問	がくもん	153	貨物	かもつ	187	器械	きかい
120	学力	がくりよく	154	歌謡	かよう	188	議会	ぎかい
121	学歴	がくれき	155	眼科	がんか	189	規格	きかく
122	家計	かけい	156	眼球	がんきゅう	190	企画	きかく
123	火災	かさい	157	環境	かんきょう	191	季刊	きかん
124	火山	かざん	158	玩具	がんぐ	192	機関	きかん
125	家事	かじ	159	関係	かんけい	193	期間	きかん
126	過失	かしつ	160	漢語	かngo	194	器官	きかん
127	果実	かじつ	161	漢字	かんじ	195	危機	きき

196	企業	きぎょう	230	基盤	きばん	264	曲線	きよくせん
197	戯曲	ぎきょく	231	規模	きぼ	265	漁船	ぎょせん
198	飢饉	ききん	232	期末	きまつ	266	漁村	ぎよそん
199	基金	ききん	233	義務	ぎむ	267	去年	きよねん
200	器具	きぐ	234	疑問	ぎもん	268	義理	ぎり
201	喜劇	きげき	235	規約	きやく	269	規律	きりつ
202	起源	きげん	236	脚本	きゃくほん	270	気流	きりゅう
203	期限	きげん	237	球根	きゅうこん	271	金額	きんがく
204	機構	きこう	238	宮殿	きゅうでん	272	金魚	きんぎょ
205	気候	きこう	239	牛乳	ぎゅうにゅう	273	金庫	きんこ
206	記号	きごう	240	丘陵	きゅうりょう	274	近郊	きんこう
207	技師	ぎし	241	教員	きょういん	275	銀行	ぎんこう
208	儀式	ぎしき	242	教会	きょうかい	276	近視	きんし
209	気質	きしつ	243	境界	きょうかい	277	金銭	きんせん
210	期日	きじつ	244	協会	きょうかい	278	金属	きんぞく
211	記者	きしゃ	245	境遇	きょうぐう	279	近代	きんだい
212	技術	ぎじゅつ	246	教材	きょうざい	280	金融	きんゆう
213	基準	きじゆん	247	教師	きょうし	281	区域	くいき
214	気象	きしょう	248	教室	きょうしつ	282	空間	くうかん
215	奇数	きすう	249	業者	ぎょうしゃ	283	空気	くうき
216	規制	きせい	250	教授	きょうじゅ	284	偶数	ぐうすう
217	季節	きせつ	251	郷愁	きょうしゅう	285	空中	くうちゅう
218	汽船	きせん	252	教職	きょうしよく	286	空腹	くうふく
219	基礎	きそ	253	行政	ぎょうせい	287	区間	くかん
220	貴族	きぞく	254	業績	ぎょうせき	288	苦心	くしん
221	気体	きたい	255	境地	きょうち	289	苦痛	くつう
222	議題	ぎだい	256	郷土	きょうど	290	工夫	くふう
223	基地	きち	257	業務	ぎょうむ	291	軍艦	ぐんかん
224	議長	ぎちょう	258	共鳴	きょうめい	292	軍事	ぐんじ
225	起点	きてん	259	教養	きょうよう	293	君主	くんしゅ
226	軌道	きどう	260	郷里	きょうり	294	群集	ぐんしゅう
227	機能	きのう	261	行列	ぎょうれつ	295	群衆	ぐんしゅう
228	技能	ぎのう	262	共和	きょうわ	296	軍隊	ぐんたい
229	規範	きはん	263	漁業	ぎょぎょう	297	軍備	ぐんび

298	軍服	ぐんぷく	332	権威	けんい	366	好意	こうい
299	敬意	けいい	333	原因	げんいん	367	行為	こうい
300	警官	けいかん	334	見解	けんかい	368	公園	こうえん
301	契機	けいき	335	玄関	げんかん	369	高価	こうか
302	敬語	けいご	336	原形	げんけい	370	効果	こうか
303	経済	けいざい	337	原型	げんけい	371	公害	こうがい
304	警察	けいさつ	338	権限	けんげん	372	郊外	こうがい
305	形式	けいしき	339	原稿	げんこう	373	工学	こうがく
306	芸術	げいじゆつ	340	現在	げんざい	374	合議	ごうぎ
307	形勢	けいせい	341	原作	げんさく	375	皇居	こうきょ
308	形態	けいたい	342	原子	げんし	376	工業	こうぎょう
309	経度	けいど	343	元首	げんしゅ	377	鉱業	こうぎょう
310	系統	けいとう	344	原書	げんしょ	378	興業	こうぎょう
311	芸能	げいのう	345	現象	げんしょう	379	航空	こうくう
312	刑罰	けいばつ	346	現状	げんじょう	380	光景	こうけい
313	経費	けいひ	347	元素	げんそ	381	工芸	こうげい
314	警備	けいび	348	原則	げんそく	382	高原	こうげん
315	契約	けいやく	349	現代	げんだい	383	高校	こうこう
316	外科	げか	350	見地	けんち	384	孝行	こうこう
317	劇場	げきじょう	351	現地	げんち	385	鉱山	こうざん
318	劇団	げきだん	352	原典	げんてん	386	講師	こうし
319	景色	けしき	353	原点	げんてん	387	工事	こうじ
320	下旬	げじゆん	354	限度	げんど	388	公式	こうしき
321	血圧	けつあつ	355	現場	げんば	389	口実	こうじつ
322	血液	けつえき	356	原爆	げんばく	390	後者	こうしゃ
323	結果	けつか	357	原文	げんぶん	391	校舎	こうしゃ
324	結核	けっかく	358	憲法	けんぽう	392	公衆	こうしゅう
325	血管	けっかん	359	原油	げんゆ	393	工場	こうじょう
326	結局	けつきよく	360	権利	けんり	394	香水	こうすい
327	傑作	けっさく	361	原理	げんり	395	洪水	こうずい
328	決算	けっさん	362	原料	げんりょう	396	功績	こうせき
329	月末	げつまつ	363	権力	けんりよく	397	光線	こうせん
330	結論	けつろん	364	言論	げんろん	398	高層	こうそう
331	下痢	げり	365	語彙	ごい	399	構想	こうそう

400	構造	こうぞう	434	胡椒	こしょう	468	作者	さくしゃ
401	光沢	こうたく	435	個人	こじん	469	作品	さくひん
402	紅茶	こうちゃ	436	故人	こじん	470	作文	さくぶん
403	校長	こうちょう	437	個性	こせい	471	作物	さくもつ
404	交通	こうつう	438	戸籍	こせき	472	座席	ざせき
405	口頭	こうとう	439	午前	ごぜん	473	雑音	ざつおん
406	講堂	こうどう	440	固体	こたい	474	作家	さっか
407	強盗	ごうとう	441	古代	こだい	475	雑貨	ざっか
408	後輩	こうはい	442	国家	こっか	476	錯覚	さっかく
409	後半	こうはん	443	国会	こっかい	477	雑誌	ざっし
410	好評	こうひょう	444	国境	こっきょう	478	砂糖	さとう
411	鉱物	こうぶつ	445	国交	こっこう	479	砂漠	さばく
412	公務	こうむ	446	根拠	こんきよ	480	座標	ざひょう
413	項目	こうもく	447	今後	こんご	481	作法	さほう
414	紅葉	こうよう	448	昆虫	こんちゅう	482	三角	さんかく
415	公立	こうりつ	449	根底	こんてい	483	山岳	さんがく
416	効率	こうりつ	450	婚約	こんやく	484	産業	さんぎょう
417	効力	こうりよく	451	災害	さいがい	485	産後	さんご
418	語学	ごがく	452	細菌	さいきん	486	酸性	さんせい
419	故郷	こきょう	453	最近	さいきん	487	産地	さんち
420	語句	ごく	454	細工	さいく	488	栈橋	さんばし
421	国王	こくおう	455	財源	ざいげん	489	産物	さんぶつ
422	国語	こくご	456	最後	さいご	490	山脈	さんみやく
423	国際	こくさい	457	財産	ざいさん	491	山林	さんりん
424	国籍	こくせき	458	最初	さいしよ	492	寺院	じいん
425	国土	こくど	459	財政	ざいせい	493	自我	じが
426	黒板	こくばん	460	災難	さいなん	494	市街	しがい
427	国防	こくぼう	461	才能	さいのう	495	視覚	しかく
428	国民	こくみん	462	裁縫	さいほう	496	四角	しかく
429	穀物	こくもつ	463	細胞	さいぼう	497	資格	しかく
430	国有	こくゆう	464	材料	ざいりょう	498	時間	じかん
431	語源	ごげん	465	差額	さがく	499	四季	しき
432	午後	ごご	466	索引	さくいん	500	磁気	じき
433	誤差	ごさ	467	錯誤	さくご	501	時期	じき

502	色彩	しきさい	536	湿度	しつど	570	住居	じゅうきよ
503	事業	じぎょう	537	実物	じつぶつ	571	宗教	しゅうきょう
504	資金	しきん	538	実力	じつりょく	572	収支	しゅうし
505	死刑	しけい	539	実例	じつれい	573	住所	じゅうしょ
506	資源	しげん	540	視点	してん	574	住宅	じゅうたく
507	事件	じけん	541	辞典	じてん	575	絨毯	じゅうたん
508	自己	じこ	542	児童	じどう	576	終点	しゅうてん
509	事故	じこ	543	尿尿	しにょう	577	重点	じゅうてん
510	嗜好	しこう	544	地盤	じばん	578	収入	しゅうにゆう
511	志向	しこう	545	私物	しぶつ	579	周辺	しゅうへん
512	事項	じこう	546	紙幣	しへい	580	住民	じゅうみん
513	時刻	じこく	547	司法	しほう	581	重量	じゅうりょう
514	地獄	じごく	548	脂肪	しぼう	582	重力	じゅうりょく
515	時差	じさ	549	資本	しほん	583	主義	しゅぎ
516	資産	しさん	550	姉妹	しまい	584	熟語	じゅくご
517	事実	じじつ	551	市民	しみん	585	宿命	しゅくめい
518	刺繍	ししゅう	552	事務	じむ	586	手芸	しゅげい
519	市場	しじょう	553	使命	しめい	587	主権	しゅけん
520	詩人	しじん	554	地面	じめん	588	主語	しゅご
521	地震	じしん	555	視野	しや	589	趣旨	しゅし
522	自身	じしん	556	社会	しゃかい	590	種々	しゅじゅ
523	事前	じぜん	557	弱点	じゃくてん	591	手術	しゅじゅつ
524	思想	しそう	558	車庫	しゃこ	592	首相	しゅしょう
525	時速	じそく	559	社交	しゃこう	593	主食	しゅしよく
526	子孫	しそん	560	車掌	しゃしょう	594	主体	しゅたい
527	字体	じたい	561	社長	しゃちょう	595	主題	しゅだい
528	事態	じたい	562	若干	じゃっかん	596	手段	しゅだん
529	時代	じだい	563	車道	しゃどう	597	述語	じゅつご
530	自宅	じたく	564	斜面	しゃめん	598	首都	しゅと
531	湿気	しつけ	565	車輪	しゃりん	599	主任	しゅにん
532	実質	じっしつ	566	周囲	しゅうい	600	首脳	しゅのう
533	実情	じつじょう	567	収益	しゅうえき	601	主婦	しゅふ
534	実績	じつせき	568	集会	しゅうかい	602	手法	しゅほう
535	実態	じつたい	569	周期	しゅうき	603	寿命	じゅみょう



604	樹木	じゅもく	638	少年	しょうねん	672	書評	しょひょう
605	種類	しゅるい	639	勝敗	しょうはい	673	庶民	しょみん
606	瞬間	しゅんかん	640	商品	しょうひん	674	庶務	しょむ
607	順序	じゅんじょ	641	勝負	しょうぶ	675	女優	じょゆう
608	私用	しょう	642	小便	しょうべん	676	資料	しりょう
609	上位	じょうい	643	正面	しょうめん	677	指令	しらい
610	生涯	しょうがい	644	条約	じょうやく	678	人格	じんかく
611	蒸気	じょうき	645	醤油	しょうゆ	679	真空	しんくう
612	乗客	じょうきやく	646	将来	しょうらい	680	神経	しんけい
613	上級	じょうきゅう	647	女王	じょおう	681	人口	じんこう
614	商業	しょうぎょう	648	初級	しょきゅう	682	人工	じんこう
615	状況	じょうきょう	649	職員	しょくいん	683	人才	じんざい
616	賞金	しょうきん	650	食塩	しょくえん	684	紳士	しんし
617	上空	じょうくう	651	職業	しょくぎょう	685	人事	じんじ
618	上下	じょうげ	652	食堂	しょくどう	686	神社	じんじゃ
619	証言	しょうげん	653	職場	しょくば	687	人種	じんしゅ
620	条件	じょうけん	654	食品	しょくひん	688	心身	しんしん
621	証拠	しょうこ	655	植物	しょくぶつ	689	新人	しんじん
622	正午	しょうご	656	職務	しょくむ	690	人生	じんせい
623	上司	じょうし	657	食物	しょくもつ	691	親戚	しんせき
624	常識	じょうしき	658	食欲	しょくよく	692	真相	しんそう
625	上旬	じょうじゅん	659	諸君	しょくくん	693	心臓	しんぞう
626	少女	しょうじょ	660	書斎	しょさい	694	身体	しんたい
627	症状	しょうじょう	661	所在	しょざい	695	寝台	しんだい
628	小数	しょうすう	662	女子	じょし	696	人体	じんたい
629	情勢	じょうせい	663	女史	じょし	697	神殿	しんでん
630	小説	しょうせつ	664	助詞	じょし	698	進度	しんど
631	消息	しょうそく	665	助手	じょしゅ	699	新年	しんねん
632	状態	じょうたい	666	初旬	しょじゅん	700	人物	じんぶつ
633	情緒	じょうちょ	667	女性	じょせい	701	人民	じんみん
634	焦点	しょうてん	668	書籍	しょせき	702	人命	じんめい
635	商店	しょうてん	669	書店	しょてん	703	深夜	しんや
636	商人	しょうにん	670	所得	しょとく	704	信用	しんよう
637	証人	しょうにん	671	初版	しょはん	705	心理	しんり

706	真理	しんり	740	性質	せいしつ	774	全員	ぜんいん
707	森林	しんりん	741	青春	せいしゅん	775	前後	ぜんご
708	人類	じんるい	742	精神	せいしん	776	全国	ぜんこく
709	神話	しんわ	743	成人	せいじん	777	洗剤	せんざい
710	水源	すいげん	744	整数	せいすう	778	前者	ぜんしゃ
711	水産	すいさん	745	成績	せいせき	779	選手	せんしゅ
712	炊事	すいじ	746	清濁	せいだく	780	全集	ぜんしゅう
713	水準	すいじゅん	747	晴天	せいてん	781	戦術	せんじゅつ
714	水滴	すいてき	748	制度	せいど	782	全身	ぜんしん
715	水田	すいでん	749	政党	せいとう	783	扇子	せんす
716	水道	すいどう	750	青年	せいねん	784	先祖	せんぞ
717	随筆	ずいひつ	751	性能	せいのう	785	全体	ぜんたい
718	水分	すいぶん	752	製品	せいひん	786	先端	せんたん
719	水平	すいへい	753	政府	せいふ	787	前提	ぜんてい
720	睡眠	すいみん	754	制服	せいふく	788	前途	ぜんと
721	水面	すいめん	755	生物	せいぶつ	789	船舶	せんぱく
722	数学	すうがく	756	成分	せいぶん	790	前半	ぜんはん
723	数字	すうじ	757	性別	せいべつ	791	全部	ぜんぶ
724	図鑑	ずかん	758	製法	せいほう	792	戦力	せんりよく
725	図形	ずけい	759	生命	せいめい	793	全力	ぜんりよく
726	頭脳	ずのう	760	姓名	せいめい	794	前例	ぜんれい
727	図表	ずひょう	761	正門	せいもん	795	線路	せんろ
728	成果	せいか	762	西洋	せいよう	796	総会	そうかい
729	正解	せいかい	763	生理	せいり	797	雑木	ぞうき
730	性格	せいかく	764	勢力	せいりよく	798	倉庫	そうこ
731	税関	ぜいかん	765	西暦	せいれき	799	速度	そくど
732	世紀	せいき	766	世界	せかい	800	側面	そくめん
733	税金	ぜいきん	767	赤道	せきどう	801	素材	そざい
734	生計	せいけい	768	責任	せきにん	802	素質	そしつ
735	政権	せいけん	769	石油	せきゆ	803	祖先	そせん
736	星座	せいざ	770	世間	せけん	804	祖父	そふ
737	政策	せいさく	771	世代	せだい	805	祖母	そぼ
738	生死	せいし	772	設備	せつび	806	体育	たいいく
739	政治	せいじ	773	繊維	せんい	807	体温	たいおん

808	大会	たいかい	842	短編	たんぺん	876	長官	ちょうかん
809	体格	たいかく	843	暖房	だんぼう	877	長期	ちょうき
810	大学	だいがく	844	断面	だんめん	878	長女	ちょうじょ
811	大気	たいき	845	弾力	だんりょく	879	長短	ちょうたん
812	体系	たいけい	846	治安	ちあん	880	頂点	ちょうてん
813	対策	たいさく	847	地位	ちい	881	長男	ちょうなん
814	大使	たいし	848	地域	ちいき	882	長編	ちょうへん
815	大衆	たいしゅう	849	地下	ちか	883	直線	ちよくせん
816	体重	たいじゅう	850	地球	ちきゅう	884	直流	ちよくりゅう
817	対象	たいしょう	851	地区	ちく	885	著者	ちよしゃ
818	大小	だいしょう	852	畜生	ちくしょう	886	直角	ちよつかく
819	体制	たいせい	853	地形	ちけい	887	直径	ちよつけい
820	体積	たいせき	854	知識	ちしき	888	地理	ちり
821	大戦	たいせん	855	地質	ちしつ	889	通貨	つうか
822	体操	たいそう	856	地図	ちず	890	通路	つうろ
823	態度	たいど	857	知性	ちせい	891	定価	ていか
824	大半	たいはん	858	地帯	ちたい	892	程度	ていど
825	大便	だいべん	859	秩序	ちつじょ	893	堤防	ていぼう
826	大木	たいぼく	860	地点	ちてん	894	定理	ていり
827	太陽	たいよう	861	地方	ちほう	895	哲学	てつがく
828	大陸	たいりく	862	地名	ちめい	896	鉄橋	てつきょう
829	体力	たいりょく	863	茶碗	ちやわん	897	鉄道	てつどう
830	楕円	だえん	864	中央	ちゅうおう	898	鉄棒	てつぼう
831	多少	たしょう	865	中学	ちゅうがく	899	店員	てんいん
832	他人	たにん	866	中間	ちゅうかん	900	田園	でんえん
833	担架	たんか	867	中古	ちゅうこ	901	天下	てんか
834	短期	たんき	868	中旬	ちゅうじゅん	902	伝記	でんき
835	男子	だんし	869	中心	ちゅうしん	903	電源	でんげん
836	淡水	たんすい	870	中枢	ちゅうすう	904	天候	てんこう
837	単数	たんすう	871	中世	ちゅうせい	905	天国	てんごく
838	男性	だんせい	872	中性	ちゅうせい	906	天才	てんさい
839	炭素	たんそ	873	中途	ちゅうと	907	天災	てんさい
840	団体	だんたい	874	中年	ちゅうねん	908	電子	でんし
841	短波	たんぱ	875	聴覚	ちようかく	909	電車	でんしゃ

910	伝説	でんせつ	944	道路	どうろ	978	任務	にんむ
911	電線	でんせん	945	童話	どうわ	979	熱帯	ねったい
912	天体	てんたい	946	都会	とかい	980	熱量	ねつりょう
913	天地	てんち	947	特技	とくぎ	981	年間	ねんかん
914	電池	でんち	948	特産	とくさん	982	年鑑	ねんかん
915	点々	てんてん	949	読者	どくしゃ	983	年月	ねんげつ
916	伝統	でんどう	950	特色	とくしょく	984	年号	ねんごう
917	電灯	でんとう	951	独身	どくしん	985	年中	ねんじゅう
918	電波	でんぱ	952	特徴	とくちょう	986	年代	ねんだい
919	電報	でんぽう	953	特長	とくちょう	987	年度	ねんど
920	電流	でんりゅう	954	都市	とし	988	燃料	ねんりょう
921	電力	でんりょく	955	図書	としょ	989	年輪	ねんりん
922	電話	でんわ	956	都心	としん	990	年齢	ねんれい
923	答案	どうあん	957	土地	とち	991	農家	のうか
924	同感	どうかん	958	途中	とちゅう	992	農業	のうぎょう
925	陶器	とうき	959	特権	とっけん	993	農場	のうじょう
926	動機	どうき	960	土木	どぼく	994	農村	のうそん
927	等級	とうきゅう	961	内科	ないか	995	農地	のうち
928	同級	どうきゅう	962	内閣	ないかく	996	濃度	のうど
929	道具	どうぐ	963	内心	ないしん	997	農民	のうみん
930	動向	どうこう	964	内臓	ないぞう	998	農薬	のうやく
931	東西	とうざい	965	内部	ないぶ	999	能力	のうりょく
932	当時	とうじ	966	内容	ないよう	1000	梅雨	ばいう
933	動詞	どうし	967	内乱	ないらん	1001	黴菌	ばいきん
934	同志	どうし	968	内陸	ないりく	1002	俳句	はいく
935	同時	どうじ	969	南極	なんきょく	1003	背景	はいけい
936	当日	とうじつ	970	南北	なんぼく	1004	背後	はいご
937	道徳	どうとく	971	肉体	にくたい	1005	範囲	はんい
938	動物	どうぶつ	972	日課	にっか	1006	版画	はんが
939	等分	とうぶん	973	日記	にっき	1007	半径	はんけい
940	灯油	とうゆ	974	日光	にっこう	1008	半島	はんとう
941	童謡	どうよう	975	日程	にってい	1009	犯人	はんにん
942	同僚	どうりょう	976	日本	にほん	1010	万人	ばんにん
943	動力	どうりょく	977	人気	にんき	1011	晩年	ばんねん

1012	被害	ひがい	1046	服装	ふくそう	1080	平日	へいじつ
1013	悲劇	ひげき	1047	符号	ふごう	1081	兵隊	へいたい
1014	比重	ひじゅう	1048	富豪	ふごう	1082	平方	へいほう
1015	美術	びじゅつ	1049	夫妻	ふさい	1083	平野	へいや
1016	秘書	ひしょ	1050	武士	ぶし	1084	偏見	へんけん
1017	美人	びじん	1051	部首	ぶしゅ	1085	便所	べんじょ
1018	筆者	ひっしゃ	1052	夫人	ふじん	1086	法案	ほうあん
1019	皮膚	ひふ	1053	婦人	ふじん	1087	法学	ほうがく
1020	秘密	ひみつ	1054	舞台	ぶたい	1088	方言	ほうげん
1021	費用	ひよう	1055	物価	ぶつか	1089	方向	ほうこう
1022	評価	ひょうか	1056	物議	ぶつぎ	1090	方策	ほうさく
1023	標語	ひょうご	1057	物資	ぶつし	1091	帽子	ぼうし
1024	標識	ひょうしき	1058	物質	ぶつしつ	1092	方式	ほうしき
1025	標準	ひょうじゅん	1059	仏像	ぶつぞう	1093	報酬	ほうしゅう
1026	表情	ひょうじょう	1060	物体	ぶつたい	1094	方針	ほうしん
1027	標本	ひょうほん	1061	物理	ぶつり	1095	宝石	ほうせき
1028	表面	ひょうめん	1062	部分	ぶぶん	1096	法則	ほうそく
1029	比率	ひりつ	1063	父母	ふぼ	1097	暴風	ぼうふう
1030	肥料	ひりょう	1064	部門	ぶもん	1098	方法	ほうほう
1031	比例	ひれい	1065	浮力	ふりよく	1099	方面	ほうめん
1032	品質	ひんしつ	1066	武力	ぶりよく	1100	法律	ほうりつ
1033	品種	ひんしゅ	1067	文化	ぶんか	1101	暴力	ぼうりよく
1034	便箋	びんせん	1068	文学	ぶんがく	1102	牧師	ぼくし
1035	風景	ふうけい	1069	文芸	ぶんげい	1103	牧場	ぼくじょう
1036	風車	ふうしゃ	1070	文献	ぶんけん	1104	捕鯨	ほげい
1037	風習	ふうしゅう	1071	分子	ぶんし	1105	母校	ぼこう
1038	風俗	ふうぞく	1072	文書	ぶんしょ	1106	母国	ぼこく
1039	風土	ふうど	1073	文章	ぶんしょう	1107	墓地	ぼち
1040	夫婦	ふうふ	1074	文体	ぶんたい	1108	北極	ほつきよく
1041	部下	ぶか	1075	分母	ぶんぼ	1109	歩道	ほどう
1042	武器	ぶき	1076	文法	ぶんぽう	1110	本館	ほんかん
1043	副詞	ふくし	1077	粉末	ふんまつ	1111	本国	ほんごく
1044	福祉	ふくし	1078	文脈	ぶんみやく	1112	本質	ほんしつ
1045	複数	ふくすう	1079	兵器	へいき	1113	本体	ほんたい

1114	盆地	ぼんち	1148	目下	もっか	1182	要領	ようりょう
1115	本人	ほんにん	1149	模範	もはん	1183	浴室	よくしつ
1116	本能	ほんのう	1150	問題	もんだい	1184	翌日	よくじつ
1117	本部	ほんぶ	1151	問答	もんどう	1185	欲望	よくぼう
1118	本文	ほんぶん	1152	野外	やがい	1186	輿論	よろん
1119	本名	ほんみょう	1153	夜間	やかん	1187	酪農	らくのう
1120	末期	まつき	1154	薬品	やくひん	1188	利益	りえき
1121	漫画	まんが	1155	野心	やしん	1189	理科	りか
1122	味覚	みかく	1156	薬局	やつきよく	1190	利害	りがい
1123	未婚	みこん	1157	勇気	ゆうき	1191	利潤	りじゅん
1124	密度	みつど	1158	友情	ゆうじょう	1192	理性	りせい
1125	未来	みらい	1159	友人	ゆうじん	1193	利息	りそく
1126	魅力	みりよく	1160	優勢	ゆうせい	1194	立方	りっぼう
1127	民間	みんかん	1161	幽霊	ゆうれい	1195	利点	りてん
1128	民宿	みんしゆく	1162	要因	よういん	1196	略語	りやくご
1129	民俗	みんぞく	1163	溶液	ようえき	1197	理由	りゆう
1130	民族	みんぞく	1164	溶岩	ようがん	1198	流域	りゅういき
1131	民謡	みんよう	1165	容器	ようき	1199	領域	りょういき
1132	名作	めいさく	1166	用語	ようご	1200	領海	りょうかい
1133	名産	めいさん	1167	要旨	ようし	1201	両極	りょうきよく
1134	名詞	めいし	1168	用紙	ようし	1202	領事	りょうじ
1135	名称	めいししょう	1169	幼児	ようじ	1203	良心	りょうしん
1136	名人	めいじん	1170	様式	ようしき	1204	領地	りょうち
1137	名誉	めいよ	1171	様子	ようす	1205	領土	りょうど
1138	面積	めんせき	1172	容積	ようせき	1206	料理	りょうり
1139	面目	めんもく	1173	要素	ようそ	1207	旅客	りよかく
1140	盲点	もうてん	1174	要点	ようてん	1208	旅館	りよかん
1141	木材	もくざい	1175	用途	ようと	1209	履歴	りれき
1142	目次	もくじ	1176	用品	ようひん	1210	理論	りろん
1143	目的	もくてき	1177	洋風	ようふう	1211	林業	りんぎょう
1144	目標	もくひょう	1178	洋服	ようふく	1212	例外	れいがい
1145	目録	もくろく	1179	養分	ようぶん	1213	礼儀	れいぎ
1146	模型	もけい	1180	用法	ようほう	1214	冷房	れいぼう
1147	文字	もじ	1181	羊毛	ようもう	1215	歴史	れきし

1216	列車	れっしゃ	1219	老人	ろうじん	1222	論文	ろんぶん
1217	列島	れつとう	1220	蠟燭	ろうそく	1223	話題	わだい
1218	連日	れんじつ	1221	労力	ろうりょく	1224	和服	わふく

イ. 動詞及び動詞兼他品詞 (856 語)

1	悪化	あつか	28	仮定	かてい	55	疑惑	ぎわく
2	暗殺	あんさつ	29	灌漑	かんがい	56	禁煙	きんえん
3	暗示	あんじ	30	換気	かんき	57	区画	くかく
4	隠居	いんきょ	31	歓迎	かんげい	58	軽蔑	けいべつ
5	横断	おうだん	32	感激	かんげき	59	化粧	けしょう
6	改革	かいかく	33	観光	かんこう	60	兼業	けんぎょう
7	回収	かいしゅう	34	感謝	かんしゃ	61	健在	けんざい
8	改正	かいせい	35	干渉	かんしょう	62	公演	こうえん
9	改善	かいぜん	36	関心	かんしん	63	航海	こうかい
10	改造	かいぞう	37	感染	かんせん	64	後悔	こうかい
11	改定	かいてい	38	観測	かんそく	65	合計	ごうけい
12	改訂	かいてい	39	感動	かんどう	66	攻撃	こうげき
13	開放	かいほう	40	監督	かんとく	67	耕作	こうさく
14	改良	かいりょう	41	乾杯	かんぱい	68	降水	こうすい
15	拡散	かくさん	42	慣用	かんよう	69	構成	こうせい
16	拡充	かくじゅう	43	観覧	かんらん	70	合成	ごうせい
17	革新	かくしん	44	記述	きじゆつ	71	後退	こうたい
18	確信	かくしん	45	寄贈	きぞう	72	肯定	こうてい
19	拡大	かくだい	46	期待	きたい	73	購入	こうにゅう
20	拡張	かくちょう	47	記入	きにゅう	74	公認	こうにん
21	獲得	かくとく	48	記念	きねん	75	荒廃	こうはい
22	革命	かくめい	49	給与	きゅうよ	76	購買	こうばい
23	過去	かこ	50	競技	きょうぎ	77	合流	ごうりゅう
24	化合	かごう	51	供給	きょうきゅう	78	呼吸	こきゅう
25	合唱	がっしょう	52	享受	きょうじゅ	79	骨折	こっせつ
26	合併	がっぺい	53	共存	きょうぞん	80	固定	こてい
27	活用	かつよう	54	協調	きょうちょう	81	雇用	こよう

82	混合	こんごう	116	指示	しじ	150	収集	しゅうしゅう
83	混雑	こんざつ	117	自首	じしゅ	151	就職	しゅうしよく
84	混同	こんどう	118	自主	じしゅ	152	修飾	しゅうしよく
85	在学	ざいがく	119	自習	じしゅう	153	修正	しゅうせい
86	採掘	さいくつ	120	支出	ししゅつ	154	修繕	しゅうぜん
87	再現	さいげん	121	辞職	じしよく	155	集中	しゅうちゅう
88	採集	さいしゅう	122	持続	じぞく	156	就任	しゅうにん
89	再生	さいせい	123	自治	じち	157	収容	しゅうよう
90	催促	さいそく	124	失業	しつぎょう	158	修理	しゅうり
91	採択	さいたく	125	実験	じっけん	159	終了	しゅうりょう
92	栽培	さいばい	126	実現	じつげん	160	守衛	しゅえい
93	採用	さいよう	127	実行	じっこう	161	修行	しゅぎょう
94	詐欺	さぎ	128	実施	じっし	162	祝賀	しゅくが
95	削減	さくげん	129	実習	じっしゅう	163	縮小	しゅくしょう
96	削除	さくじょ	130	実践	じっせん	164	出勤	しゅっきん
97	作戦	さくせん	131	失調	しっちょう	165	出血	しゅっけつ
98	撮影	さつえい	132	嫉妬	しつと	166	出現	しゅつげん
99	作曲	さつきよく	133	失敗	しっぱい	167	出生	しゅつしょう
100	殺人	さつじん	134	執筆	しっぴつ	168	出場	しゅつじょう
101	参加	さんか	135	失恋	しつれん	169	出身	しゅっしん
102	酸化	さんか	136	指定	してい	170	出席	しゅっせき
103	産出	さんしゅつ	137	指摘	してき	171	出題	しゅつだい
104	参照	さんしょう	138	自転	じてん	172	出動	しゅつどう
105	賛成	さんせい	139	支配	しはい	173	出発	しゅつぱつ
106	賛美	さんび	140	死亡	しぼう	174	出版	しゅつぱん
107	散歩	さんぽ	141	謝罪	しゃざい	175	出品	しゅつぴん
108	飼育	しいく	142	写生	しゃせい	176	主導	しゅどう
109	自衛	じえい	143	謝絶	しゃぜつ	177	守備	しゅび
110	施行	しこう	144	私有	しゅう	178	樹立	じゅりつ
111	試行	しこう	145	就業	しゅうぎょう	179	循環	じゅんかん
112	思考	しこう	146	襲撃	しゅうげき	180	使用	しゅう
113	視察	しさつ	147	習字	しゅうじ	181	上演	じょうえん
114	自殺	じさつ	148	重視	じゅうし	182	消化	しょうか
115	支持	しじ	149	従事	じゅうじ	183	消去	しょうきよ



184	乗車	じょうしゃ	218	信頼	しんらい	252	設定	せってい
185	上昇	じょうしょう	219	侵略	しんりやく	253	絶版	ぜっばん
186	招待	しょうたい	220	診療	じんるい	254	絶望	ぜつぼう
187	承諾	しょうだく	221	推進	すいしん	255	節約	せつやく
188	消毒	しょうどく	222	水洗	すいせん	256	設立	せつりつ
189	承認	しょうにん	223	推薦	すいせん	257	選挙	せんきよ
190	蒸発	じょうはつ	224	吹奏	すいそう	258	宣教	せんきょう
191	消費	しょうひ	225	推測	すいそく	259	専攻	せんこう
192	譲歩	じょうほ	226	推定	すいてい	260	専修	せんしゅう
193	消防	しょうぼう	227	推理	すいり	261	前進	ぜんしん
194	証明	しょうめい	228	崇拜	すうはい	262	潜水	せんすい
195	消耗	しょうもう	229	生育	せいいく	263	選択	せんたく
196	勝利	しょうり	230	請求	せいきゅう	264	宣伝	せんでん
197	省略	しょうりやく	231	制裁	せいさい	265	戦闘	せんとう
198	除外	じょがい	232	製作	せいさく	266	潜入	せんにゅう
199	徐行	じょこう	233	制作	せいさく	267	全滅	ぜんめつ
200	処置	しょち	234	精算	せいさん	268	洗面	せんめん
201	処罰	しょばつ	235	生産	せいさん	269	専用	せんよう
202	処分	しょぶん	236	静止	せいし	270	占領	せんりょう
203	処理	しより	237	清掃	せいそう	271	相応	そうおう
204	自立	じりつ	238	盛装	せいそう	272	増加	ぞうか
205	進化	しんか	239	製造	せいぞう	273	創刊	そうかん
206	審議	しんぎ	240	生存	せいぞん	274	増強	ぞうきょう
207	進行	しんこう	241	成長	せいちよう	275	増減	ぞうげん
208	信仰	しんこう	242	生長	せいちよう	276	操作	そうさ
209	振興	しんこう	243	制定	せいてい	277	捜査	そうさ
210	審査	しんさ	244	成年	せいねん	278	創作	そうさく
211	診察	しんさつ	245	征服	せいふく	279	搜索	そうさく
212	申請	しんせい	246	制約	せいやく	280	掃除	そうじ
213	診断	しんだん	247	整理	せいり	281	喪失	そうしつ
214	振動	しんどう	248	成立	せいりつ	282	操縦	そうじゅう
215	侵入	しんにゅう	249	切開	せつかい	283	増進	ぞうしん
216	信任	しんにん	250	設計	せつけい	284	造船	ぞうせん
217	審判	しんぱん	251	設置	せつち	285	創造	そうぞう

286	相対	そうたい	320	達成	たっせい	354	墜落	ついらく
287	増大	ぞうだい	321	断言	だんげん	355	通過	つうか
288	騒動	そうどう	322	誕生	たんじょう	356	通勤	つうきん
289	送別	そうべつ	323	断水	だんすい	357	提案	ていあん
290	創立	そうりつ	324	断定	だんてい	358	提供	ていきょう
291	促進	そくしん	325	畜産	ちくさん	359	抵抗	ていこう
292	測定	そくてい	326	蓄積	ちくせき	360	停止	ていし
293	束縛	そくばく	327	窒息	ちっそく	361	提示	ていじ
294	測量	そくりょう	328	着手	ちやくしゅ	362	停車	ていしゃ
295	阻止	そし	329	着色	ちやくしよく	363	提出	ていしゅつ
296	訴訟	そしょう	330	着陸	ちやくりく	364	訂正	ていせい
297	損害	そんがい	331	中止	ちゅうし	365	停滞	ていたい
298	尊敬	そんけい	332	注射	ちゅうしゃ	366	停電	ていでん
299	存在	そんざい	333	中傷	ちゅうしょう	367	適応	てきおう
300	損失	そんしつ	334	中断	ちゅうだん	368	点火	てんか
301	存続	そんぞく	335	中毒	ちゅうどく	369	転換	てんかん
302	尊重	そんちよう	336	注目	ちゅうもく	370	展示	てんじ
303	対応	たいおう	337	中和	ちゅうわ	371	伝染	でんせん
304	退化	たいか	338	超過	ちょうか	372	伝達	でんたつ
305	退学	たいがく	339	聴講	ちょうこう	373	転任	てんにん
306	待遇	たいぐう	340	彫刻	ちょうこく	374	展望	てんぼう
307	対決	たいけつ	341	調査	ちょうさ	375	伝来	でんらい
308	対抗	たいこう	342	徴収	ちょうしゅう	376	同意	どうい
309	対照	たいしょう	343	調整	ちょうせい	377	動員	どういん
310	退職	たいしよく	344	調節	ちょうせつ	378	同居	どうきよ
311	対談	たいだん	345	挑戦	ちょうせん	379	統計	とうけい
312	逮捕	たいほ	346	調停	ちょうてい	380	統合	とうごう
313	怠慢	たいまん	347	重複	ちょうふく	381	投資	とうし
314	代用	だいよう	348	調理	ちょうり	382	投書	とうしょ
315	代理	だいいり	349	直通	ちよくつう	383	登場	とうじょう
316	対立	たいりつ	350	治療	ちりょう	384	同情	どうじょう
317	打開	だかい	351	沈没	ちんぼつ	385	当選	とうせん
318	妥協	だきょう	352	陳列	ちんれつ	386	逃走	とうそう
319	打撃	だげき	353	追加	ついか	387	到達	とうたつ

388	統治	とうち	422	排水	はいすい	456	繁殖	はんしよく
389	同調	どうちょう	423	敗戦	はいせん	457	反省	はんせい
390	導入	どうにゅう	424	配置	はいち	458	判断	はんだん
391	投票	とうひょう	425	敗北	はいぼく	459	判定	はんてい
392	逃亡	とうぼう	426	破壊	はかい	460	販売	はんばい
393	冬眠	とうみん	427	迫害	はくがい	461	氾濫	はんらん
394	同盟	どうめい	428	拍手	はくしゅ	462	比較	ひかく
395	動揺	どうよう	429	爆破	ばくは	463	否決	ひけつ
396	登録	とうろく	430	爆発	ばくはつ	464	飛行	ひこう
397	討論	とうろん	431	暴露	ばくろ	465	必修	ひっしゅう
398	独占	どくせん	432	派遣	はけん	466	匹敵	ひってき
399	独創	どくそう	433	破産	はさん	467	否定	ひてい
400	特派	とくは	434	破損	はそん	468	避難	ひなん
401	特売	とくばい	435	発育	はついく	469	非難	ひなん
402	独立	どくりつ	436	発音	はつおん	470	悲鳴	ひめい
403	突破	とっぱ	437	発芽	はつが	471	美容	びよう
404	徒歩	とほ	438	発揮	はつき	472	描写	びようしゃ
405	努力	どりよく	439	発掘	はつくる	473	貧血	ひんけつ
406	入院	にゅういん	440	発言	はつげん	474	不意	ふい
407	入学	にゅうがく	441	発行	はっこう	475	封鎖	ふうさ
408	入手	にゅうしゅ	442	発車	はつしゃ	476	復習	ふくしゅう
409	入場	にゅうじょう	443	発射	はつしゃ	477	負傷	ふしょう
410	入浴	にゅうよく	444	発生	はっせい	478	侮辱	ぶじよく
411	妊娠	にんしん	445	発想	はっそう	479	武装	ぶそう
412	任命	にんめい	446	発展	はってん	480	不通	ふつう
413	熱心	ねっしん	447	発電	はつでん	481	復活	ふっかつ
414	燃焼	ねんしょう	448	発病	はつびょう	482	復旧	ふっきゅう
415	農耕	のうこう	449	発表	はっぴょう	483	復興	ふっこう
416	納入	のうにゅう	450	破裂	はれつ	484	沸騰	ふつとう
417	把握	はあく	451	反映	はんえい	485	赴任	ふにん
418	廃棄	はいき	452	反響	はんきょう	486	不服	ふふく
419	配給	はいきゅう	453	反撃	はんげき	487	不満	ふまん
420	廃止	はいし	454	反抗	はんこう	488	不明	ふめい
421	排除	はいじょ	455	反射	はんしゃ	489	扶養	ふよう

490	噴火	ふんか	524	保温	ほおん	558	輸入	ゆにゆう
491	分解	ぶんかい	525	捕獲	ほかく	559	要求	ようきゆう
492	分散	ぶんさん	526	保管	ほかん	560	養護	ようご
493	噴出	ふんしゅつ	527	補給	ほきゆう	561	養成	ようせい
494	噴水	ふんすい	528	補強	ほきょう	562	抑制	よくせい
495	分析	ぶんせき	529	保護	ほご	563	落下	らっか
496	分担	ぶんたん	530	補充	ほじゆう	564	濫用	らんよう
497	奮闘	ふんとう	531	募集	ほしゆう	565	理解	りかい
498	分配	ぶんばい	532	保証	ほしょう	566	離婚	りこん
499	分布	ぶんぷ	533	保障	ほしょう	567	立法	りっぽう
500	分離	ぶんり	534	補償	ほしょう	568	流通	りゅうつう
501	分裂	ぶんれつ	535	補足	ほそく	569	利用	りよう
502	閉口	へいこう	536	保存	ほぞん	570	了解	りようかい
503	並行	へいこう	537	発作	ほっさ	571	領収	りようしゅう
504	閉鎖	へいさ	538	没収	ぼっしゅう	572	類似	るいじ
505	並列	へいれつ	539	保養	ほよう	573	類推	るいすい
506	変化	へんか	540	埋蔵	まいぞう	574	冷蔵	れいぞう
507	変革	へんかく	541	摩擦	まさつ	575	冷凍	れいとう
508	返還	へんかん	542	麻醉	ますい	576	連続	れんぞく
509	変更	へんこう	543	満場	まんじょう	577	連帯	れんたい
510	変遷	へんせん	544	満足	まんぞく	578	労働	ろうどう
511	変動	へんどう	545	未定	みてい	579	浪費	ろうひ
512	保育	ほいく	546	未満	みまん	580	録音	ろくおん
513	防衛	ぼうえい	547	無視	むし	581	通学	つうがく
514	防火	ぼうか	548	迷信	めいしん	582	通行	つうこう
515	崩壊	ぼうかい	549	命中	めいちゅう	583	通信	つうしん
516	妨害	ぼうがい	550	滅亡	めつぼう	584	通知	つうち
517	放棄	ほうき	551	免除	めんじょ	585	通用	つうよう
518	冒険	ぼうけん	552	免税	めんぜい	586	統率	とうそつ
519	防止	ぼうし	553	誘導	ゆうどう	587	握手	あくしゅ
520	放射	ほうしゃ	554	遊牧	ゆうぼく	588	圧縮	あつしゅく
521	放出	ほうしゅつ	555	輸血	ゆけつ	589	斡旋	あつせん
522	放送	ほうそう	556	輸出	ゆしゅつ	590	圧倒	あつとう
523	訪問	ほうもん	557	輸送	ゆそう	591	圧迫	あつぱく

592	育児	いくじ	626	往復	おうふく	660	間隔	かんかく
593	育成	いくせい	627	応募	おうぼ	661	看護	かんご
594	移行	いこう	628	応用	おうよう	662	刊行	かんこう
595	維持	いじ	629	汚染	おせん	663	勧告	かんこく
596	移住	いじゅう	630	開会	かいかい	664	観察	かんさつ
597	依存	いぞん	631	解決	かいけつ	665	換算	かんさん
598	委託	いたく	632	会見	かいけん	666	監視	かんし
599	一変	いっぺん	633	解散	かいさん	667	鑑賞	かんしょう
600	移転	いてん	634	開始	かいし	668	完成	かんせい
601	異動	いどう	635	解釈	かいしゃく	669	勧誘	かんゆう
602	移動	いどう	636	外出	がいしゅつ	670	管理	かんり
603	違反	いはん	637	解除	かいじょ	671	完了	かんりょう
604	移民	いみん	638	解説	かいせつ	672	関連	かんれん
605	意欲	いよく	639	開拓	かいたく	673	緩和	かんわ
606	印刷	いんさつ	640	会談	かいだん	674	危害	きがい
607	引退	いんたい	641	開通	かいつう	675	議決	ぎけつ
608	引用	いんよう	642	回転	かいてん	676	棄権	きけん
609	運送	うんそう	643	回答	かいとう	677	記載	きさい
610	運転	うんてん	644	介入	かいにゅう	678	起床	きしょう
611	運動	うんどう	645	開発	かいはつ	679	犠牲	ぎせい
612	運輸	うんゆ	646	回復	かいふく	680	偽造	ぎぞう
613	運用	うんよう	647	解放	かいほう	681	規定	きてい
614	影響	えいきょう	648	解剖	かいぼう	682	起伏	きふく
615	営業	えいぎょう	649	学習	がくしゅう	683	希望	きぼう
616	閲覧	えつらん	650	確認	かくにん	684	記名	きめい
617	延期	えんき	651	確保	かくほ	685	逆転	ぎゃくてん
618	援助	えんじょ	652	確立	かくりつ	686	救援	きゅうえん
619	演説	えんぜつ	653	加工	かこう	687	休学	きゅうがく
620	演奏	えんそう	654	下降	かこう	688	休業	きゅうぎょう
621	遠足	えんそく	655	課税	かぜい	689	休憩	きゅうけい
622	延長	えんちよう	656	加速	かそく	690	求婚	きゅうこん
623	応急	おうきゅう	657	加入	かにゅう	691	救済	きゅうさい
624	応接	おうせつ	658	加熱	かねつ	692	吸収	きゅうしゅう
625	応対	おうたい	659	感覚	かんかく	693	救助	きゅうじょ

694	休戦	きゅうせん	728	計算	けいさん	762	貢献	こうけん
695	休息	きゅうそく	729	掲示	けいじ	763	広告	こうこく
696	休養	きゅうよう	730	形成	けいせい	764	交際	こうさい
697	教育	きょういく	731	継続	けいぞく	765	工作	こうさく
698	強化	きょうか	732	携帯	けいたい	766	講習	こうしゅう
699	協議	きょうぎ	733	経由	けいゆ	767	口述	こうじゅつ
700	教訓	きょうくん	734	経歴	けいれき	768	交渉	こうしょう
701	強行	きょうこう	735	激増	げきぞう	769	向上	こうじょう
702	教習	きょうしゅう	736	激励	げきれい	770	行進	こうしん
703	強制	きょうせい	737	下車	げしゃ	771	抗争	こうそう
704	競争	きょうそう	738	決意	けつい	772	交替	こうたい
705	強調	きょうちょう	739	決議	けつぎ	773	耕地	こうち
706	協定	きょうてい	740	結合	けつごう	774	行動	こうどう
707	脅迫	きょうはく	741	結婚	けっこん	775	交付	こうふ
708	協力	きょうりよく	742	結晶	けっしょう	776	交流	こうりゅう
709	許可	きよか	743	決勝	けっしょう	777	考慮	こうりよ
710	居住	きよじゅう	744	決心	けっしん	778	護衛	ごえい
711	拒絶	きよぜつ	745	結成	けっせい	779	誤解	ごかい
712	距離	きより	746	決断	けつだん	780	告白	こくはく
713	記録	きろく	747	決定	けつてい	781	克服	こくふく
714	議論	ぎろん	748	研究	けんきゅう	782	娯楽	ごらく
715	禁止	きんし	749	検査	けんさ	783	混血	こんけつ
716	吟味	ぎんみ	750	原産	げんさん	784	裁判	さいばん
717	空想	くうそう	751	研修	けんしゅう	785	左右	さゆう
718	区分	くぶん	752	懸賞	けんしょう	786	作用	さよう
719	区別	くべつ	753	減少	げんしょう	787	参考	さんこう
720	訓練	くんれん	754	建設	けんせつ	788	自覚	じかく
721	経営	けいえい	755	建築	けんちく	789	指揮	しき
722	経過	けいか	756	限定	げんてい	790	刺激	しげき
723	警戒	けいかい	757	検討	けんとう	791	指導	しどう
724	計画	けいかく	758	兼用	けんよう	792	収穫	しゅうかく
725	経験	けいけん	759	交易	こうえき	793	習慣	しゅうかん
726	傾向	けいこう	760	交換	こうかん	794	集合	しゅうごう
727	警告	けいこく	761	抗議	こうぎ	795	主演	しゅえん

796	主張	しゅちょう	817	体験	たいけん	838	負債	ふさい
797	需要	じゅよう	818	対比	たいひ	839	負担	ふたん
798	準備	じゅんび	819	代表	だいひょう	840	紛争	ふんそう
799	衝撃	しょうげき	820	対話	たいわ	841	分類	ぶんるい
800	象徴	しょうちょう	821	忠告	ちゅうこく	842	貿易	ぼうえき
801	照明	しょうめい	822	定義	ていぎ	843	報告	ほうこく
802	奨励	しょうれい	823	展開	てんかい	844	包装	ほうそう
803	署名	しょめい	824	動作	どうさ	845	暴動	ぼうどう
804	進展	しんてん	825	登山	とざん	846	保健	ほけん
805	生活	せいかつ	826	賠償	ばいしょう	847	補助	ほじょ
806	声明	せいめい	827	発明	はつめい	848	翻訳	ほんやく
807	接触	せつしょく	828	判決	はんけつ	849	命令	めいれい
808	接続	せつぞく	829	犯罪	はんざい	850	融資	ゆうし
809	説明	せつめい	830	反応	はんのう	851	誘惑	ゆうわく
810	宣言	せんげん	831	微笑	びしょう	852	留学	りゅうがく
811	戦争	せんそう	832	筆記	ひっき	853	旅行	りょこう
812	装飾	そうしょく	833	批判	ひはん	854	恋愛	れんあい
813	想像	そうぞう	834	批評	ひひょう	855	練習	れんしゅう
814	装置	そうち	835	表現	ひょうげん	856	朗読	ろうどく
815	装備	そうび	836	評論	ひょうろん			
816	組織	そしき	837	布告	ふこく			

ウ. 形容詞及び形容詞兼他品詞 (221 語)

形容詞 (本研究の考察対象 : 151 語) 本文の表 4-1 を参照

形容詞・名詞 (20 語)

1	安全	あんぜん	8	自信	じしん	15	不幸	ふこう
2	衛生	えいせい	9	実際	じっさい	16	文明	ぶんめい
3	規則	きそく	10	自由	じゆう	17	封建	ほうけん
4	極端	きょくたん	11	正義	せいぎ	18	民主	みんしゅ
5	健康	けんこう	12	典型	てんけい	19	矛盾	むじゅん
6	高度	こうど	13	必然	ひつぜん	20	理想	りそう
7	困難	こんなん	14	必要	ひつよう			

形容詞・動詞 (36 語)

1	安心	あんしん	13	充実	じゅうじつ	25	統一	とういつ
2	安定	あんてい	14	進歩	しんぽ	26	発達	はつたつ
3	温暖	おんだん	15	頭痛	ずつう	27	繁栄	はんえい
4	確定	かくてい	16	成功	せいこう	28	普及	ふきゅう
5	活躍	かつやく	17	成熟	せいじゆく	29	腐敗	ふはい
6	寛容	かんよう	18	接近	せつきん	30	不平	ふへい
7	傾斜	けいしゃ	19	折衷	せっちゅう	31	平均	へいきん
8	健全	けんぜん	20	壮大	そうだい	32	便利	べんり
9	公開	こうかい	21	団結	だんけつ	33	豊富	ほうふ
10	誇張	こちょう	22	忠実	ちゅうじつ	34	明確	めいかく
11	孤立	こりつ	23	調和	ちょうわ	35	流行	りゅうこう
12	失望	しつぼう	24	沈黙	ちんもく	36	冷淡	れいたん

形容詞・副詞 (12 語)

1	異常	いじょう	5	偶然	ぐうぜん	9	特別	とくべつ
2	確実	かくじつ	6	主要	しゅよう	10	突然	とつぜん
3	完全	かんぜん	7	断然	だんぜん	11	本来	ほんらい
4	共同	きょうどう	8	通常	つうじょう	12	臨時	りんじ

形容詞・副詞・名詞 (2 語)

1	根本	こんぽん	2	自然	しぜん
---	----	------	---	----	-----

エ. 副詞及び副詞兼他品詞 (23 語)

1	依然	いぜん	9	再三	さいさん	17	大概	たいがい
2	一律	いちりつ	10	始終	しじゅう	18	大体	だいたい
3	一心	いっしん	11	次第	しだい	19	大抵	たいてい
4	永遠	えいえん	12	従来	じゅうらい	20	当然	とうぜん
5	間接	かんせつ	13	絶対	ぜったい	21	独自	どくじ
6	急速	きゅうそく	14	先行	せんこう	22	非常	ひじょう
7	交互	こうご	15	全然	ぜんぜん	23	万一	まんいち
8	公然	こうぜん	16	相当	そうとう			



オ. 助詞 (1 語) :

1	云々	うんぬん
---	----	------



類形同義 (107 語)

1	一部	いちぶ	4	火口	かこう	7	野党	やとう
2	一連	いちれん	5	願書	がんしょ	8	有能	ゆうのう
3	一瞬	いっしゅん	6	大部	たいぶ			

9	運営	うんえい	21	終始	しゅうし	33	年賀	ねんが
10	運搬	うんぱん	22	出演	しゅつえん	34	売買	ばいばい
11	運命	うんめい	23	紹介	しょうかい	35	配分	はいぶん
12	慣習	かんしゅう	24	情熱	じょうねつ	36	兵士	へいし
13	気風	きふう	25	制限	せいげん	37	平和	へいわ
14	許容	きょよう	26	絶滅	ぜつめつ	38	牧畜	ぼくちく
15	軽減	けいげん	27	相互	そうご	39	面会	めんかい
16	限界	げんかい	28	素朴	そぼく	40	融通	ゆうずう
17	言語	げんご	29	段階	だんかい	41	抑圧	よくあつ
18	講演	こうえん	30	短縮	たんしゅく	42	老衰	ろうすい
19	材木	ざいもく	31	邸宅	ていたく	43	論議	ろんぎ
20	施設	しせつ	32	日時	にちじ	44	論争	ろんそう

45	映像	えいぞう	56	磁器	じき	67	貯蓄	ちよちく
46	栄養	えいよう	57	砂利	じゃり	68	沈殿	ちんでん
47	欧米	おうべい	58	障害	しょうがい	69	特集	とくしゅう
48	活発	かつぱつ	59	少々	しょうしょう	70	南米	なんべい
49	還元	かんげん	60	蒸溜	じょうりゅう	71	熱中	ねっちゅう
50	元来	がんらい	61	真珠	しんじゅ	72	反乱	はんらん
51	休暇	きゅうか	62	代弁	だいべん	73	付近	ふきん
52	局限	きょくげん	63	探検	たんけん	74	付属	ふぞく
53	屈折	くつせつ	64	知恵	ちえ	75	付録	ふろく
54	現像	げんぞう	65	知能	ちのう	76	分量	ぶんりょう
55	交差	こうさ	66	貯蔵	ちよぞう	77	弁解	べんかい

78	弁護	べんご	88	予感	よかん	98	予備	よび
79	編集	へんしゅう	89	予期	よき	99	予報	よほう
80	弁当	べんとう	90	余興	よきょう	100	予防	よぼう
81	弁論	べんろん	91	予言	よげん	101	予約	よやく
82	膨張	ぼうちょう	92	予算	よさん	102	余裕	よゆう
83	報道	ほうどう	93	予習	よしゅう	103	略奪	りやくだつ
84	模索	もさく	94	予想	よそう	104	連想	れんそう
85	模倣	もほう	95	予測	よそく	105	連邦	れんぽう
86	憂鬱	ゆううつ	96	余地	よち	106	連盟	れんめい
87	余暇	よか	97	予定	よてい	107	連絡	れんらく

### 同形異義 (246 語)

1	暗算	あんざん	22	会合	かいごう	43	記事	きじ
2	安静	あんせい	23	改修	かいしゅう	44	汽車	きしゃ
3	医院	いいん	24	回数	かいすう	45	気味	きみ
4	意思	いし	25	回送	かいそう	46	脚色	きゃくしよく
5	衣装	いしよう	26	階段	かいだん	47	客席	きゃくせき
6	一度	いちど	27	該当	がいとう	48	行事	ぎょうじ
7	一同	いちどう	28	架空	かこう	49	兄弟	きょうだい
8	一面	いちめん	29	学芸	がくげい	50	興味	きょうみ
9	一樣	いちよう	30	覚悟	かくご	51	勤務	きんむ
10	一気	いっき	31	加減	かげん	52	苦情	くじょう
11	一層	いっそう	32	下線	かせん	53	愚痴	ぐち
12	一体	いったい	33	学科	がつか	54	苦勞	くろう
13	一定	いってい	34	活動	かつどう	55	経緯	けいゐ
14	一方	いっぽう	35	家内	かない	56	軽快	けいかい
15	意味	いみ	36	可能	かのう	57	景気	けいき
16	依頼	いらい	37	加味	かみ	58	稽古	けいこ
17	陰気	いんき	38	関西	かんさい	59	刑事	けいじ
18	演出	えんしゅつ	39	勘定	かんじょう	60	警部	けいぶ
19	遠慮	えんりょ	40	関東	かんとう	61	下水	げすい
20	外貨	がいか	41	看板	かんばん	62	決行	けっこう
21	会計	かいけい	42	看病	かんばんじょう	63	結構	けっこう

64	結束	けっそく	98	出世	しゅっせ	132	大事	だいじ
65	喧嘩	けんか	99	趣味	しゅみ	133	大臣	だいじん
66	元気	げんき	100	純粹	じゅんすい	134	態勢	たいせい
67	現金	げんきん	101	正月	しょうがつ	135	大分	だいぶん
68	現実	げんじつ	102	定規	じょうぎ	136	台風	たいふう
69	嚴重	げんじゅう	103	正直	しょうじき	137	大変	たいへん
70	賢明	けんめい	104	上手	じょうず	138	題名	だいめい
71	合意	ごうい	105	正体	しょうたい	139	対面	たいめん
72	講義	こうぎ	106	上達	じょうたつ	140	脱線	だっせん
73	拘束	こうそく	107	衝突	しょうとつ	141	他方	たほう
74	高速	こうそく	108	上品	じょうひん	142	単位	たんい
75	合同	ごうどう	109	丈夫	じょうぶ	143	短歌	たんか
76	候補	こうほ	110	情報	じょうほう	144	短気	たんき
77	古典	こてん	111	所属	しょぞく	145	単語	たんご
78	再会	さいかい	112	所有	しゅゆう	146	担当	たんどう
79	作業	さぎょう	113	信号	しんごう	147	知人	ちじん
80	作成	さくせい	114	申告	しんこく	148	注意	ちゅうい
81	差別	さべつ	115	真実	しんじつ	149	中継	ちゅうけい
82	算数	さんすう	116	心中	しんじゅう	150	調子	ちょうし
83	試験	しけん	117	進出	しんしゅつ	151	頂上	ちょうじょう
84	事情	じじょう	118	心情	しんじょう	152	重宝	ちょうほう
85	姿勢	しせい	119	身長	しんちょう	153	著書	ちよしょ
86	子息	しそく	120	新聞	しんぶん	154	痛感	つうかん
87	辞退	じたい	121	親友	しんゆう	155	提携	ていけい
88	質疑	しつぎ	122	数詞	すうし	156	体裁	ていさい
89	質問	しつもん	123	整備	せいび	157	丁寧	ていねい
90	自動	じどう	124	石鹸	せつけん	158	的確	てきかく
91	始末	しまつ	125	是非	ぜひ	159	適宜	てきぎ
92	写真	しゃしん	126	選考	せんこう	160	適當	てきとう
93	邪魔	じゃま	127	先生	せんせい	161	天気	てんき
94	集団	しゅうだん	128	専門	せんもん	162	電気	でんき
95	取材	しゅざい	129	相違	そうい	163	伝言	でんごん
96	主人	しゅじん	130	総合	そうごう	164	天井	てんじょう
97	出産	しゅっさん	131	代金	だいきん	165	点数	てんすう

166	転々	てんでん	193	微妙	びみょう	220	夢中	むちゅう
167	道場	どうじょう	194	病院	びょういん	221	無用	むよう
168	統制	とうせい	195	評判	ひょうばん	222	無理	むり
169	到底	とうてい	196	披露	ひろう	223	無論	むろん
170	投入	とうにゅう	197	貧乏	びんぼう	224	明白	めいはく
171	東洋	とうよう	198	布巾	ふきん	225	明瞭	めいりょう
172	得意	とくい	199	複写	ふくしゃ	226	明朗	めいろう
173	読書	どくしょ	200	不審	ふしん	227	迷惑	めいわく
174	特定	とくてい	201	不正	ふせい	228	毛布	もうふ
175	特許	とっきょ	202	部長	ぶちょう	229	模様	もよう
176	乃至	ないし	203	不良	ふりょう	230	文句	もんく
177	内線	ないせん	204	分業	ぶんぎょう	231	薬缶	やかん
178	人形	にんぎょう	205	分数	ぶんすう	232	約束	やくそく
179	人間	にんげん	206	分野	ぶんや	233	野菜	やさい
180	認識	にんしき	207	平常	へいじょう	234	優勝	ゆうしょう
181	人情	にんじょう	208	便宜	べんぎ	235	用意	ようい
182	熱湯	ねっとう	209	膨大	ぼうだい	236	陽気	ようき
183	拝見	はいけん	210	放置	ほうち	237	用心	ようじん
184	倍率	ばいりつ	211	庖丁	ほうちょう	238	来日	らいにち
185	漠然	ばくぜん	212	冒頭	ぼうとう	239	落第	らくだい
186	莫大	ばくだい	213	保険	ほけん	240	理屈	りくつ
187	番号	ばんごう	214	保守	ほしゅ	241	旅券	りょけん
188	万歳	ばんざい	215	発足	ほっそく	242	留守	るす
189	反対	はんたい	216	満月	まんげつ	243	零点	れいてん
190	番地	ばんち	217	未熟	みじゅく	244	連合	れんごう
191	半分	はんぶん	218	微塵	みじん	245	論理	ろんり
192	皮肉	ひにく	219	名字	みょうじ	246	和風	わふう

### 日本語特有 (518 語)

1	挨拶	あいさつ	5	暗記	あんき	9	意地	いじ
2	愛想	あいそう	6	案内	あんない	10	一応	いちおう
3	安易	あんい	7	幾分	いくぶん	11	一目	いちもく
4	案外	あんがい	8	異見	いけん	12	一括	いっかつ

13	一見	いっけん	47	学級	がっきゅう	81	寄与	きよ
14	一緒	いっしょ	48	格好	かっこう	82	器用	きょう
15	衣類	いるい	49	合致	がっち	83	教科	きょうか
16	運賃	うんちん	50	我慢	がまん	84	行儀	ぎょうぎ
17	映画	えいが	51	観客	かんきゃく	85	凶作	きょうさく
18	英字	えいじ	52	慣行	かんこう	86	恐縮	きょうしゆく
19	映写	えいしゃ	53	元日	がんにじつ	87	拒否	きよひ
20	英和	えいわ	54	頑丈	がんにじょう	88	近眼	きんがん
21	婉曲	えんきよく	55	感心	かんしん	89	近所	きんじよ
22	演劇	えんげき	56	肝心	かんじん	90	筋肉	きんにく
23	縁談	えんだん	57	肝腎	かんじん	91	禁物	きんもつ
24	応援	おうえん	58	完璧	かんぺき	92	金曜	きんよう
25	往診	おうしん	59	勘弁	かんべん	93	空港	くうこう
26	屋外	おくがい	60	関与	かんよ	94	計器	けいき
27	屋上	おくじょう	61	還暦	かんれき	95	敬具	けいぐ
28	臆病	おくびょう	62	貫禄	かんろく	96	掲載	けいさい
29	改悪	かいあく	63	漢和	かんわ	97	競馬	けいば
30	介護	かいご	64	帰京	ききょう	98	経路	けいろ
31	開催	かいさい	65	機嫌	きげん	99	下宿	げしゆく
32	改札	かいさつ	66	既婚	きこん	100	欠陥	けっかん
33	快晴	かいせい	67	帰宅	きたく	101	月給	げつきゅう
34	介抱	かいほう	68	気品	きひん	102	月謝	げっしゃ
35	回覧	かいらん	69	寄付	きふ	103	欠如	けつじよ
36	格差	かくさ	70	気分	きぶん	104	欠席	けっせき
37	学部	がくぶ	71	華奢	きゃしゃ	105	欠点	けってん
38	格別	かくべつ	72	究極	きゅうきよく	106	月賦	げつぶ
39	確率	かくりつ	73	窮屈	きゅうくつ	107	欠乏	けつぼう
40	可決	かけつ	74	急激	きゅうげき	108	月曜	げつよう
41	菓子	かし	75	休講	きゅうこう	109	気配	けはい
42	火事	かじ	76	急行	きゅうこう	110	下品	げひん
43	箇所	かしよ	77	給仕	きゅうじ	111	家来	けらい
44	過疎	かそ	78	給食	きゅうしょく	112	見学	けんがく
45	画期	かつき	79	旧知	きゅうち	113	検事	けんじ
46	活気	かつき	80	給料	きゅうりょう	114	県庁	けんちょう

115	減点	げんてん	149	雑談	ざつだん	183	修学	しゅうがく
116	見当	けんとう	150	産休	さんきゅう	184	週間	しゅうかん
117	見物	けんぶつ	151	残金	ざんきん	185	集金	しゅうきん
118	懸命	けんめい	152	参上	さんじょう	186	集計	しゅうけい
119	工員	こういん	153	酸素	さんそ	187	修士	しゅうし
120	強引	ごういん	154	残念	ざんねん	188	重体	じゅうたい
121	硬貨	こうか	155	山腹	さんぷく	189	渋滞	じゅうたい
122	好況	こうきょう	156	歯科	しか	190	十分	じゅうぶん
123	控除	こうじょ	157	司会	しかい	191	重役	じゅうやく
124	公団	こうだん	158	式場	しきじょう	192	修了	しゅうりょう
125	好調	こうちょう	159	支給	しきゅう	193	授業	じゅぎょう
126	校庭	こうてい	160	至急	しきゅう	194	祝日	しゅくじつ
127	講読	こうどく	161	持参	じさん	195	宿題	しゅくだい
128	購読	こうどく	162	磁石	じしゃく	196	宿泊	しゅくはく
129	交番	こうばん	163	辞書	じしょ	197	受験	じゅけん
130	公表	こうひょう	164	死体	したい	198	主催	しゅさい
131	公募	こうぼ	165	支度	したく	199	出社	しゅつしゃ
132	国連	こくれん	166	実家	じっか	200	出張	しゅつちょう
133	今回	こんかい	167	失格	しっかく	201	出費	しゅつぴ
134	根気	こんき	168	実感	じっかん	202	主役	しゅやく
135	今度	こんど	169	失脚	しっきゃく	203	準急	じゅんきゅう
136	採決	さいけつ	170	質素	しっそ	204	巡査	じゅんさ
137	再建	さいけん	171	実費	じっぴ	205	順々	じゅんじゅん
138	在庫	ざいこ	172	私鉄	してつ	206	順調	じゅんちょう
139	最高	さいこう	173	支店	してん	207	順番	じゅんばん
140	採算	さいさん	174	始発	しはつ	208	仕様	しょう
141	祭日	さいじつ	175	自分	じぶん	209	城下	じょうか
142	最善	さいぜん	176	志望	しぼう	210	将棋	しょうぎ
143	最中	さいちゅう	177	自慢	じまん	211	上京	じょうきょう
144	最低	さいてい	178	地味	じみ	212	照合	しょうごう
145	採点	さいてん	179	氏名	しめい	213	障子	しょうじ
146	再発	さいはつ	180	社説	しゃせつ	214	商社	しょうしゃ
147	財布	さいふ	181	社宅	しゃたく	215	昇進	しょうしん
148	早速	さっそく	182	借金	しゃっきん	216	冗談	じょうだん

217	承知	しょうち	251	清書	せいしよ	285	相談	そうだん
218	商売	しょうばい	252	聖書	せいしよ	286	遭難	そうなん
219	賞品	しょうひん	253	精々	せいぜい	287	草履	ぞうり
220	正味	しょうみ	254	整然	せいぜん	288	送料	そうりょう
221	上陸	じょうりく	255	贅沢	ぜいたく	289	続々	ぞくぞく
222	食事	しょくじ	256	製鉄	せいてつ	290	速達	そくたつ
223	食卓	しょくたく	257	生徒	せいと	291	速力	そくりょく
224	職人	しょくにん	258	整列	せいれつ	292	措置	そち
225	食料	しょくりょう	259	石炭	せきたん	293	卒業	そつぎょう
226	助言	じょげん	260	責務	せきむ	294	粗末	そまつ
227	所持	しょじ	261	世辞	せじ	295	損得	そんとく
228	食器	しょつき	262	是正	ぜせい	296	退院	たいいん
229	所定	しょてい	263	世帯	せたい	297	大家	たいか
230	書道	しょどう	264	折角	せっかく	298	大金	たいきん
231	書物	しょもつ	265	説得	せつとく	299	大工	だいく
232	書類	しょるい	266	世論	せろん	300	退屈	たいくつ
233	進学	しんがく	267	世話	せわ	301	太鼓	たいこ
234	真剣	しんけん	268	全快	ぜんかい	302	滞在	たいざい
235	深刻	しんこく	269	戦災	せんさい	303	退治	たいじ
236	信者	しんじゃ	270	先日	せんじつ	304	対処	たいしょ
237	新築	しんちく	271	先代	せんだい	305	大切	たいせつ
238	進呈	しんてい	272	洗濯	せんたく	306	大層	たいそう
239	心配	しんぱい	273	先着	せんちやく	307	滞納	たいのう
240	辛抱	しんぼう	274	先頭	せんとう	308	待望	たいぼう
241	親類	しんるい	275	先輩	せんぱい	309	台本	だいほん
242	針路	しんろ	276	全般	ぜんぱん	310	妥結	だけつ
243	進路	しんろ	277	騒音	そうおん	311	駄作	ださく
244	水泳	すいえい	278	早急	そうきゅう	312	達者	たっしゃ
245	水素	すいそ	279	送金	そうきん	313	脱出	だっしゅつ
246	水筒	すいとう	280	雑巾	ぞうきん	314	脱退	だつたい
247	随分	ずいぶん	281	走行	そうこう	315	多分	たぶん
248	水曜	すいよう	282	葬式	そうしき	316	多忙	たぼう
249	素敵	すてき	283	蔵相	ぞうしょう	317	炭鉱	たんこう
250	寸法	すんぼう	284	相続	そうぞく	318	短所	たんしょ

319	短大	たんだい	353	電球	でんきゅう	387	日中	にっちゅう
320	団地	だんち	354	転居	てんきょ	388	入社	にゅうしゃ
321	遅刻	ちこく	355	転勤	てんきん	389	入賞	にゅうしょう
322	知事	ちじ	356	点検	てんけん	390	女房	にょうぼう
323	着席	ちゃくせき	357	転校	てんこう	391	熱意	ねつい
324	着々	ちゃくちやく	358	点線	てんせん	392	念願	ねんがん
325	着目	ちゃくもく	359	電卓	でんたく	393	能率	のうりつ
326	着工	ちゃっこう	360	電柱	でんちゅう	394	拝啓	はいけい
327	駐車	ちゅうしゃ	361	天皇	てんのう	395	拝借	はいしゃく
328	昼食	ちゅうしょく	362	転落	てんらく	396	配達	はいたつ
329	抽選	ちゅうせん	363	同格	どうかく	397	売店	ばいてん
330	中腹	ちゅうふく	364	討議	とうぎ	398	配布	はいふ
331	注文	ちゅうもん	365	登校	とうこう	399	俳優	はいゆう
332	調印	ちょういん	366	倒産	とうさん	400	配慮	はいりよ
333	朝刊	ちょうかん	367	同士	どうし	401	配列	はいれつ
334	長所	ちょうしょ	368	灯台	とうだい	402	破棄	はき
335	貯金	ちよきん	369	到着	とうちやく	403	白状	はくじょう
336	直後	ちよご	370	盗難	とうなん	404	爆弾	ばくだん
337	直前	ちよくぜん	371	当人	とうにん	405	発見	はっけん
338	直面	ちよくめん	372	当番	とうばん	406	発売	はつばい
339	直感	ちよつかん	373	同封	どうふう	407	破片	はへん
340	賃金	ちんぎん	374	得点	とくてん	408	判事	はんじ
341	追及	ついきゅう	375	途上	とじょう	409	反発	はんぱつ
342	追跡	ついせき	376	土台	どだい	410	卑怯	ひきょう
343	追放	ついほう	377	途端	とたん	411	非行	ひこう
344	通帳	つうちょう	378	特急	とつきゅう	412	病気	びょうき
345	通訳	つうやく	379	突如	とつじょ	413	表紙	ひょうし
346	定員	ていいん	380	土俵	どひょう	414	風船	ふうせん
347	定食	ていしょく	381	土曜	どよう	415	封筒	ふうとう
348	定年	ていねん	382	鈍感	どんかん	416	不運	ふうん
349	適確	てきかく	383	内緒	ないしょ	417	不況	ふきょう
350	鉄鋼	てっこう	384	納得	なっとく	418	覆面	ふくめん
351	鉄砲	てっぽう	385	肉親	にくしん	419	不潔	ふけつ
352	転回	てんかい	386	日曜	にちよう	420	無事	ぶじ



421	普段	ふだん	454	本格	ほんかく	487	夕刊	ゆうかん
422	不調	ふちょう	455	本気	ほんき	488	郵送	ゆうそう
423	物騒	ぶっそう	456	本当	ほんとう	489	郵便	ゆうびん
424	布団	ふとん	457	枚数	まいすう	490	有料	ゆうりょう
425	無難	ぶなん	458	毎度	まいど	491	油断	ゆだん
426	不評	ふひょう	459	満員	まんいん	492	用件	ようけん
427	部品	ぶひん	460	満点	まんてん	493	用事	ようじ
428	文語	ぶんご	461	密接	みつせつ	494	要請	ようせい
429	紛失	ふんしつ	462	未練	みれん	495	様相	ようそう
430	閉会	へいかい	463	無地	むじ	496	曜日	ようび
431	平気	へいき	464	無線	むせん	497	要望	ようぼう
432	辟易	へきえき	465	無駄	むだ	498	預金	よきん
433	別居	べつきよ	466	無断	むだん	499	余計	よけい
434	別荘	べっそう	467	無茶	むちゃ	500	与党	よとう
435	別々	べつべつ	468	無念	むねん	501	余分	よぶん
436	返却	へんきやく	469	無料	むりょう	502	来場	らいじょう
437	勉強	べんきょう	470	名刺	めいし	503	乱暴	らんぼう
438	返済	へんさい	471	名所	めいしょ	504	利口	りこう
439	返事	へんじ	472	名物	めいぶつ	505	利子	りし
440	弁償	べんしょう	473	名簿	めいぼ	506	立派	りっぱ
441	返答	へんとう	474	銘々	めいめい	507	料金	りょうきん
442	方角	ほうがく	475	免許	めんきよ	508	漁師	りょうし
443	豊作	ほうさく	476	面接	めんせつ	509	良識	りょうしき
444	奉仕	ほうし	477	面倒	めんどう	510	了承	りょうしょう
445	紡績	ぼうせき	478	木曜	もくよう	511	両立	りょうりつ
446	呆然	ぼうぜん	479	夜具	やぐ	512	煉瓦	れんが
447	包帯	ほうたい	480	役者	やくしゃ	513	連休	れんきゅう
448	防犯	ぼうはん	481	役所	やくしょ	514	連中	れんちゅう
449	褒美	ほうび	482	役職	やくしょく	515	廊下	ろうか
450	方々	ほうぼう	483	役人	やくにん	516	和英	わえい
451	募金	ぼきん	484	夜行	やこう	517	惑星	わくせい
452	舗装	ほそう	485	厄介	やっかい	518	和文	わぶん
453	捕虜	ほりよ	486	優位	ゆうい			